

《 目 次 》

I 調査の目的.....	2
II 調査設計.....	2
III 報告書の見方.....	2
IV 調査結果.....	3
1. あなた自身とご家族のことについて.....	3
2. 男女平等・役割分担について.....	10
3. 就労・働き方について.....	65
4. 市の施策などへの女性のかかわりについて.....	85
5. セクハラについて.....	90
6. 男女共同参画に関する市の施策について.....	94
7. 自由記載.....	103
V 調査結果からみた現状と課題.....	105
VI 資料（調査票）.....	109

I 調査の目的

加西市では、平成 13 年度に「かさい男女共同参画ゆめプラン」を策定し、「男女平等で築くゆめ色みらい」の実現をめざして、男女共同参画に関する様々な取り組みを進めているところです。この度、平成 24 年度にこのプランを改定するにあたり、男女共同参画に関する市民の考えや意見を把握するために本調査を実施しました。

II 調査設計

- 調査地域：加西市全域
- 調査対象者：20 歳以上の市民 2,000 人を対象に無作為抽出
- 調査期間：平成 24 年 1 月 13 日～1 月 27 日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- 回収状況：配布数 2,000 件
有効回収数 890 件（有効回答率 44.5%）

III 報告書の見方

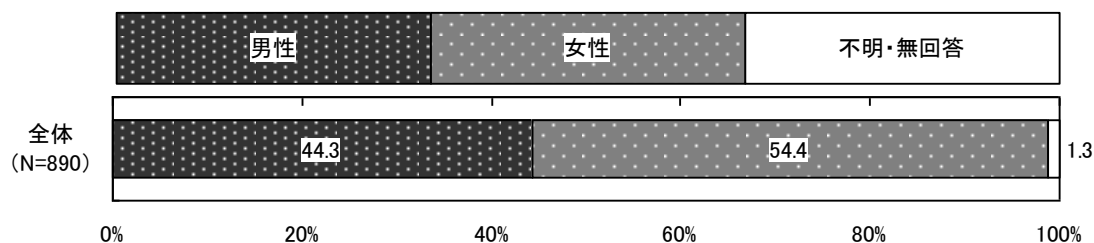
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表の「N 数 (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

IV 調査結果

1. あなた自身とご家族のことについて

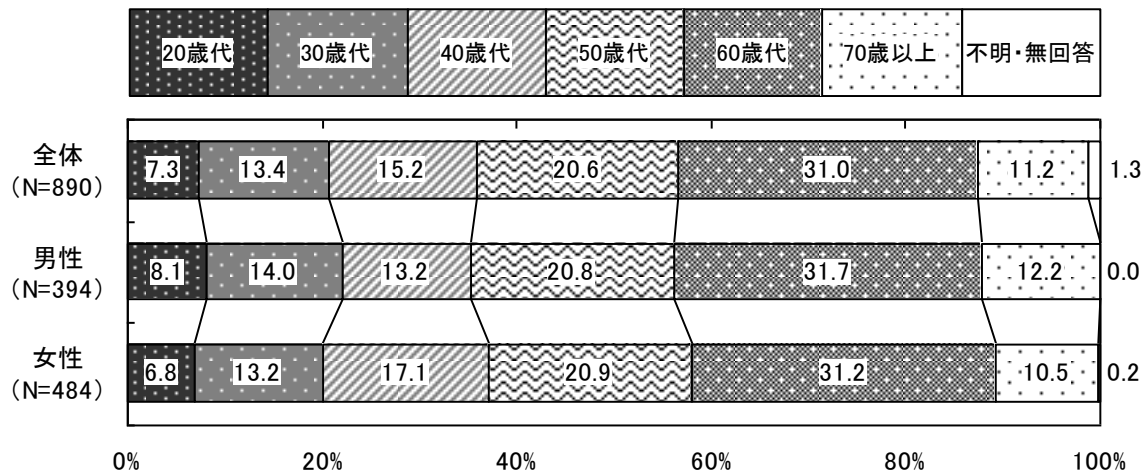
F 1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

- 「男性」が44.3%、「女性」が54.4%となっています。



F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(〇は1つ)

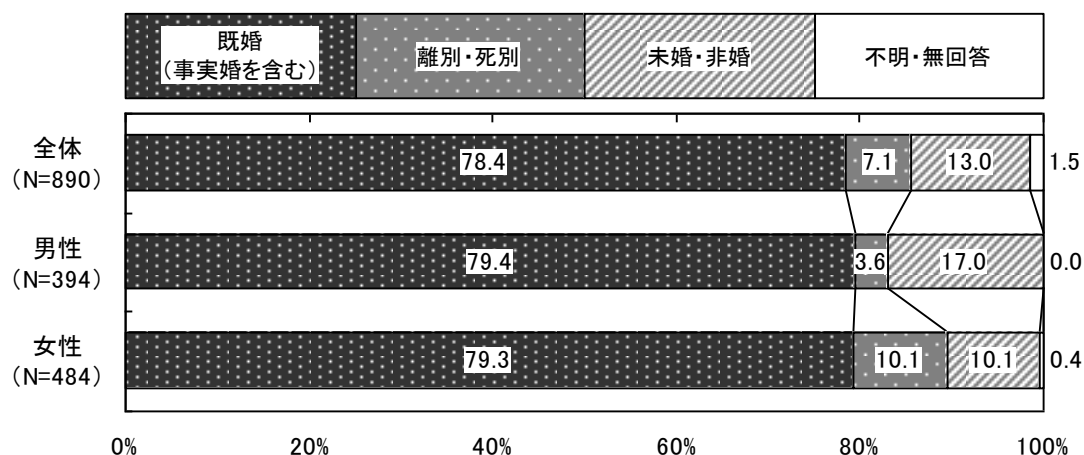
- 全体でみると、「60歳代」が31.0%と最も多く、以下「50歳代」(20.6%)、「40歳代」(15.2%)となっています。



※上記のように、50歳代、60歳代の割合が高く、年齢層に偏りがあることに留意し、以降の設問においてクロス集計・分析を行っている。

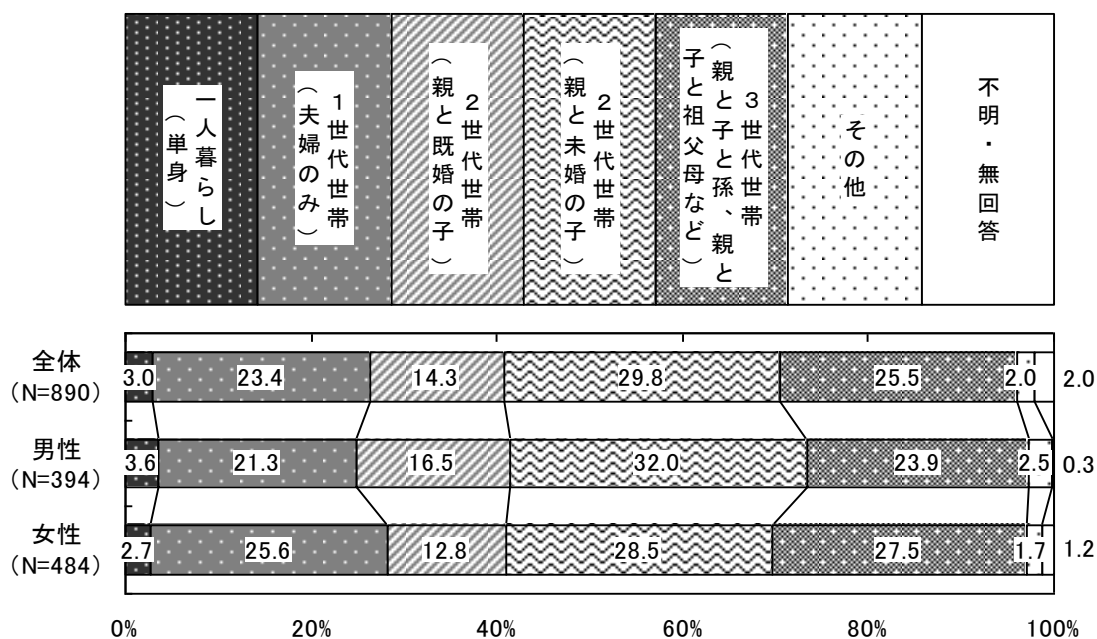
F 3 あなたは、結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つ）

- 全体でみると、「既婚（事実婚を含む）」が 78.4%、「離別・死別」が 7.1%、「未婚・非婚」が 13.0%となっています。
- 性別でみると、女性は「離別・死別」が 10.1%と男性（3.6%）よりやや高くなっています。



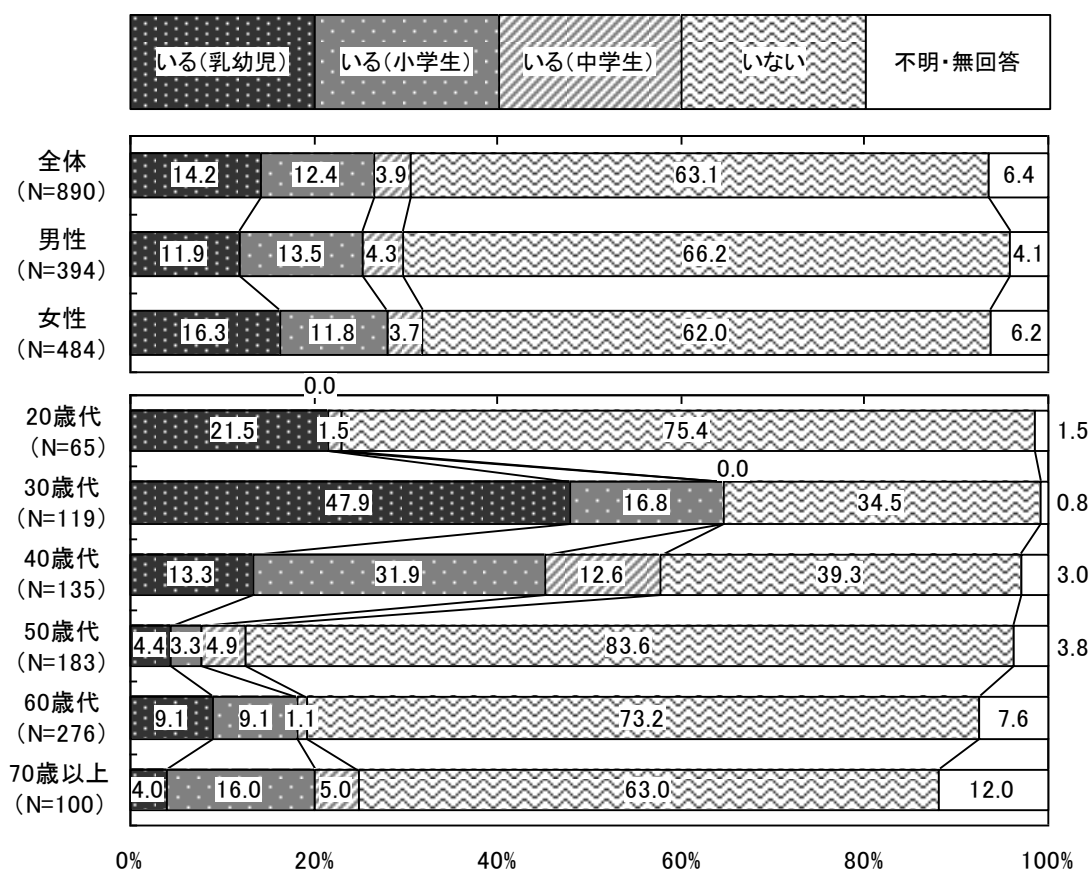
F 4 あなたのご家族（同居）の構成は次のどれですか。（○は1つ）

- 全体でみると、「2世代世帯（親と未婚の子）」が 29.8%と最も高く、以下「3世代世帯」が 25.5%、「1世代世帯」が 23.4%となっています。



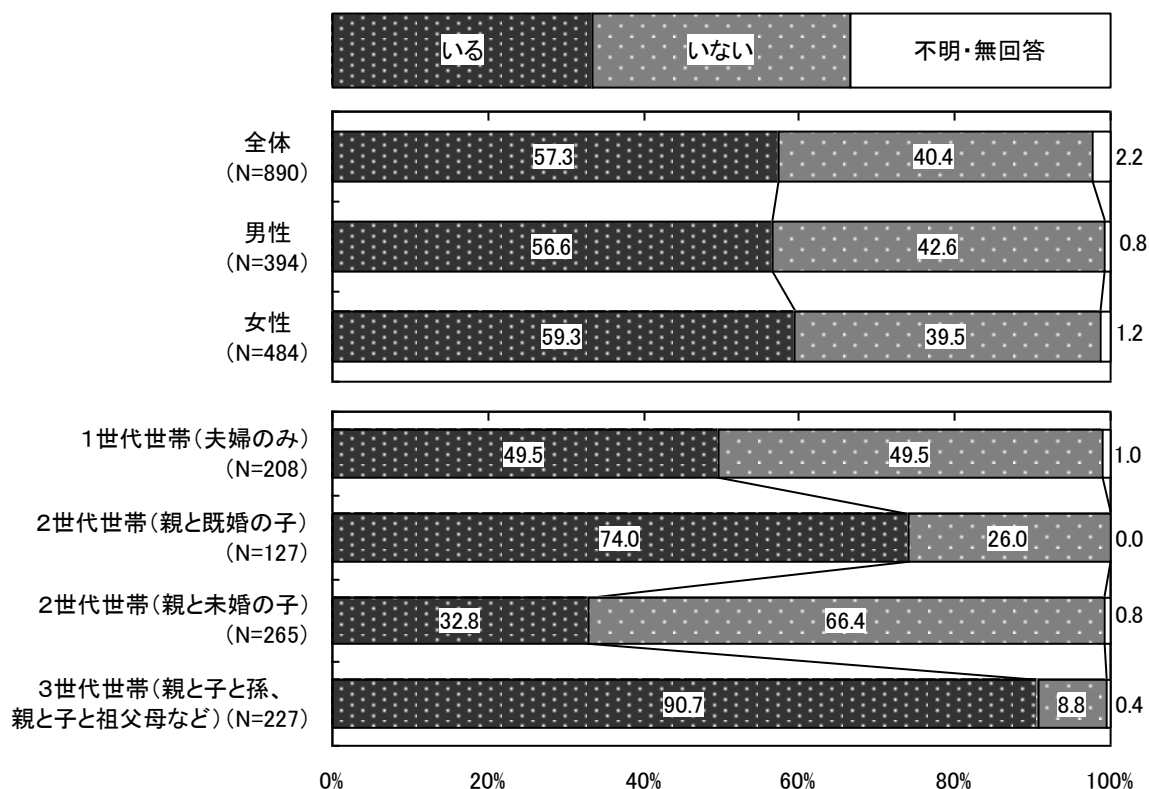
F 5 中学生以下の子どもと同居していますか。その場合、一番年齢の小さな子どもは次のどれですか。(〇は1つ)

- 全体でみると、「いない」が63.1%と最も高く、以下「いる(乳幼児)」が14.2%、「いる(小学生)」が12.4%となっています。
- 年齢別でみると、「いる(乳幼児)」は30歳代が47.9%と最も高く、「いる(小学生)」は40歳代が31.9%と最も高くなっています。



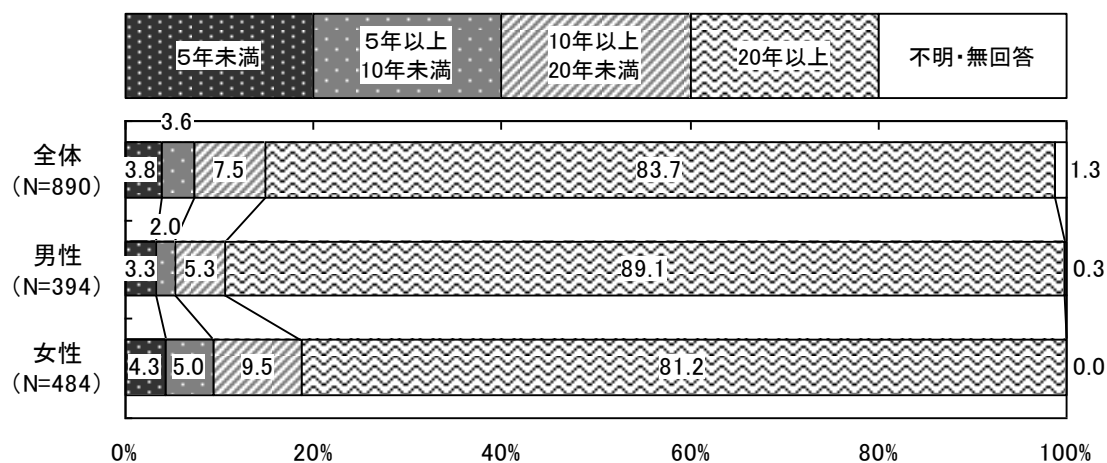
F 6 あなたを含めて、同居家族に 65 歳以上の方がいますか。(〇は 1 つ)

- 全体でみると、「いる」が 57.3%、「いない」が「40.4%」となっています。
- 世帯別でみると、「いる」は「3 世代世帯」が 90.7%と最も高く、次いで「2 世代世帯（親と既婚の子）」が 74.0%となっています。一方、「2 世代世帯（親と未婚の子）」は「いない」が 66.4%と高くなっています。



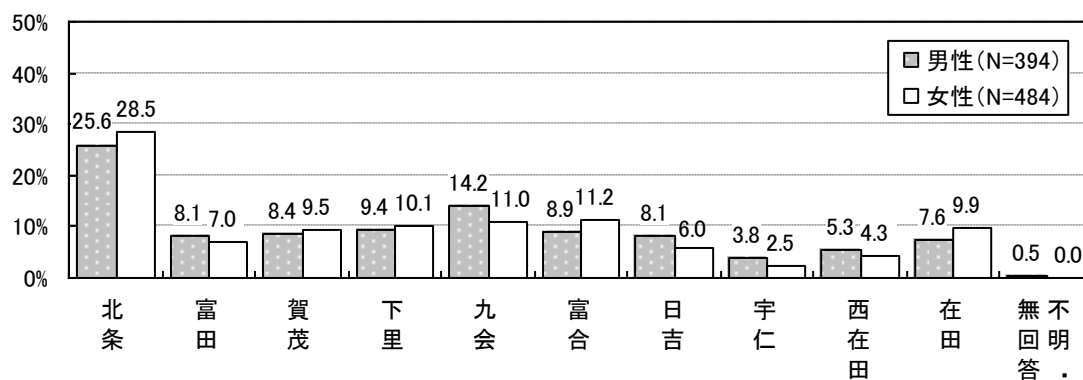
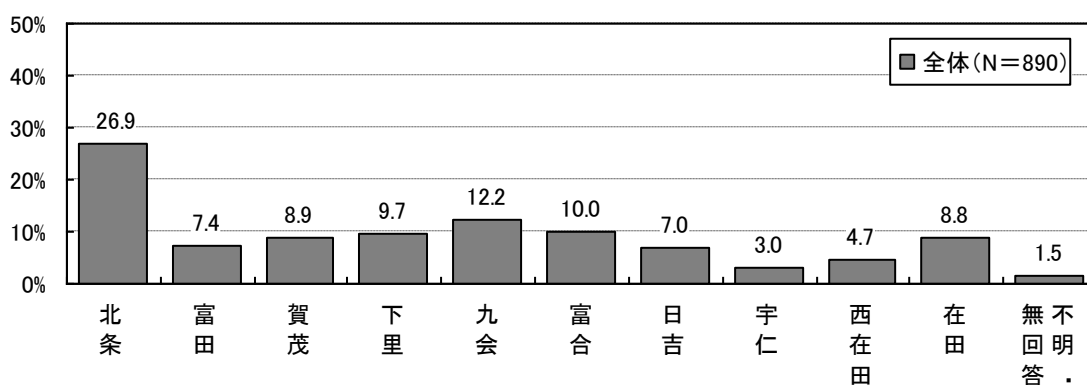
F 7 あなたは、加西市に住んで何年になりますか。(〇は 1 つ)

- 全体でみると、「20 年以上」が 83.7%と大半を占めています。
- 性別でみると、男性は「20 年以上」が 89.1%と女性 (81.2%) よりやや高くなっています。

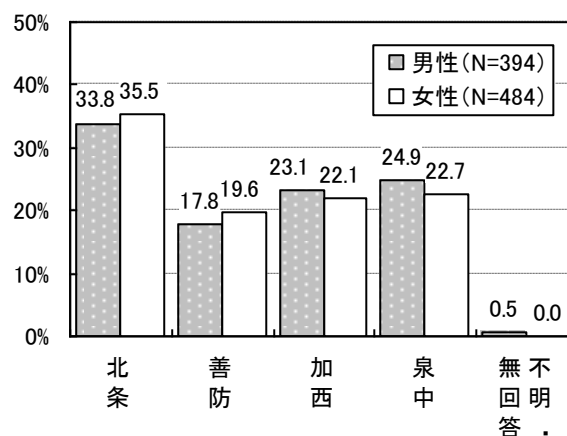
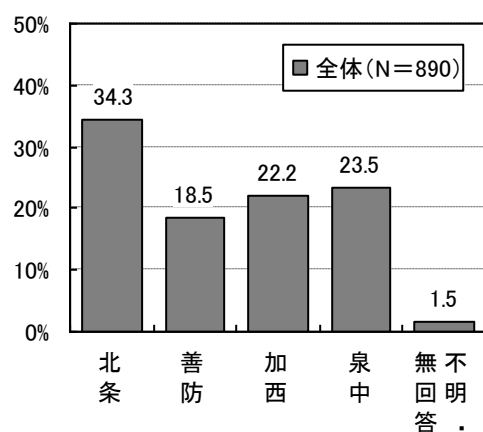


F 8 あなたのお住まいの地区はどこですか。(〇は1つ)

- 「北条」地区が 26.9%と最も高く、次いで「九会」地区が 12.2%となっています。



参考資料：中学校区

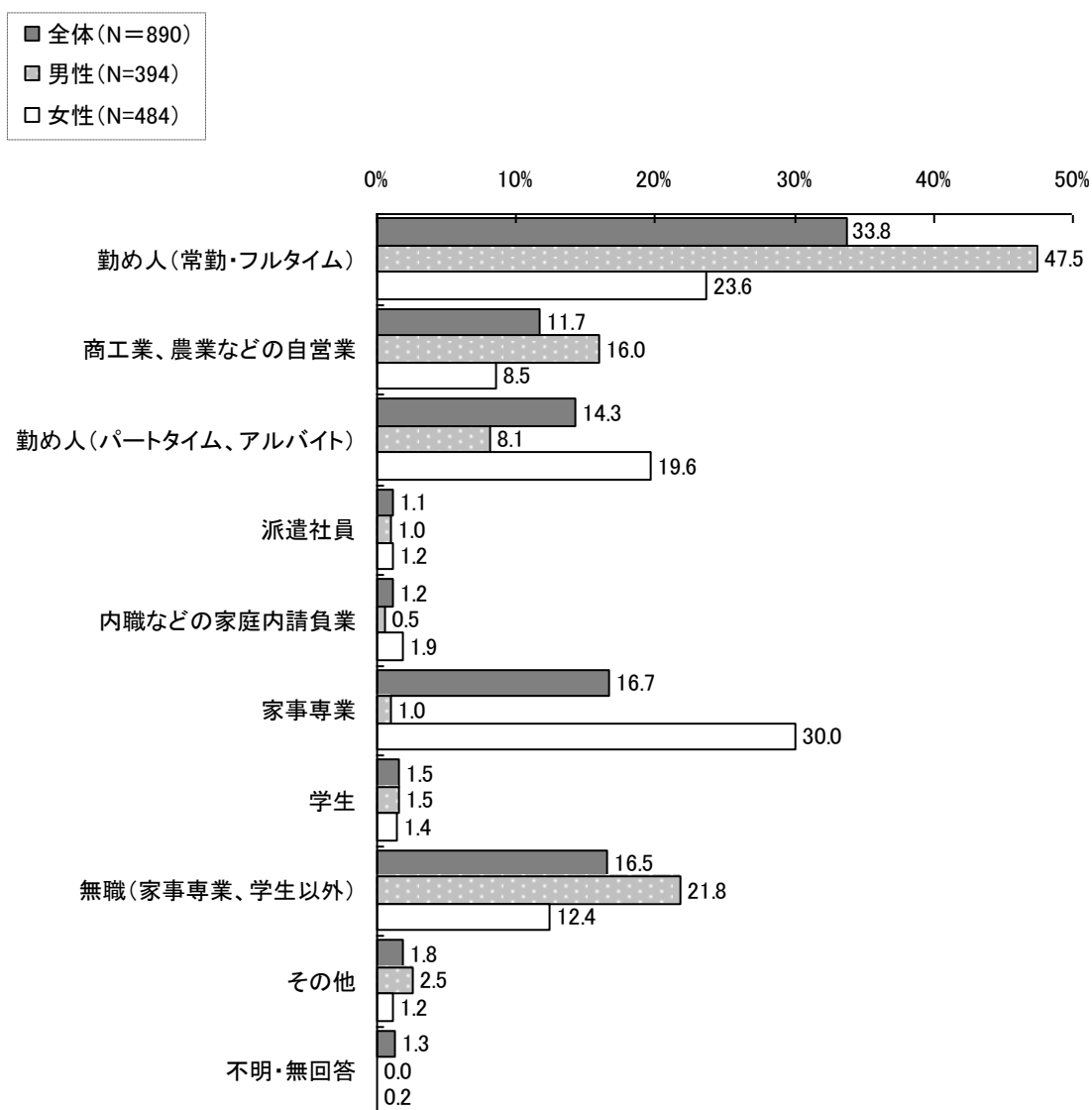


北条: 北条、富田
加西: 九会、富合

善防: 賀茂、下里
泉中: 日吉、宇仁、西在田、在田

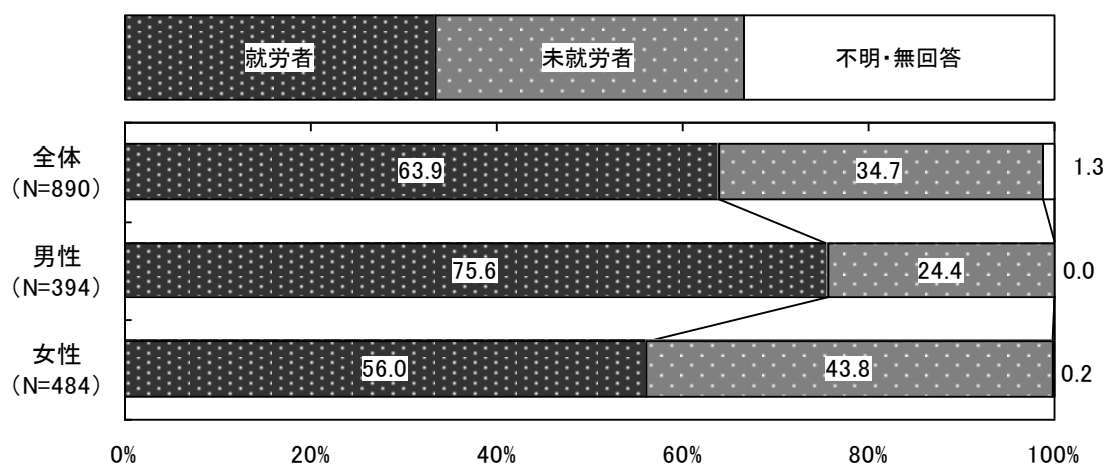
F 9 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

- 全体でみると、「勤め人（常勤・フルタイム）」が 33.8%と最も高く、以下「家事専業」（16.7%）、「無職」（16.5%）、「勤め人（パートタイム、アルバイト）」（14.3%）、「商工業、農業などの自営業」（11.7%）となっています。
- 性別でみると、男性は「勤め人（常勤・フルタイム）」（47.5%）が最も高くなっています。女性は「家事専業」（30.0%）が最も高く、以下「勤め人（常勤・フルタイム）」（23.6%）、「勤め人（パートタイム・アルバイト）」（19.6%）となっています。



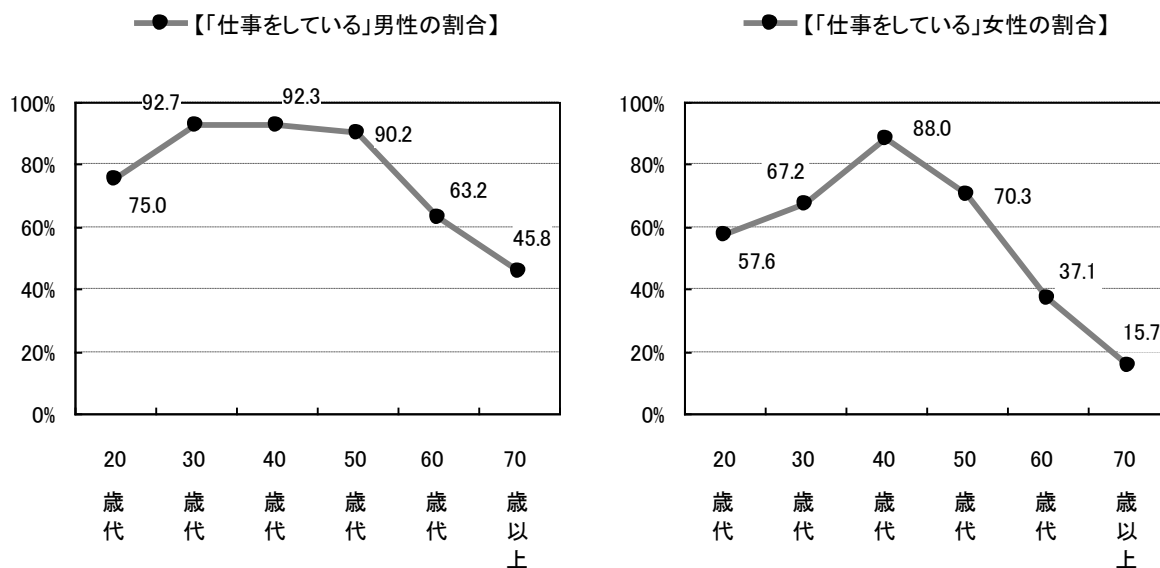
- 全体でみると、就労者は63.9%、未就労者は34.7%となっています。
- 性別でみると、就労者は男性が75.6%、女性が56.0%となっています。
- 性・年齢別でみると、男性の30歳～50歳代は9割以上が仕事をしています。一方、女性は、40歳代（88.0%）を頂点として逆V字型を描いており、30歳代が67.2%、50歳代が70.3%となっています。

〔就労状況〕



※「学生」は、未就労者でカウントしています。

〔性・年齢別〕

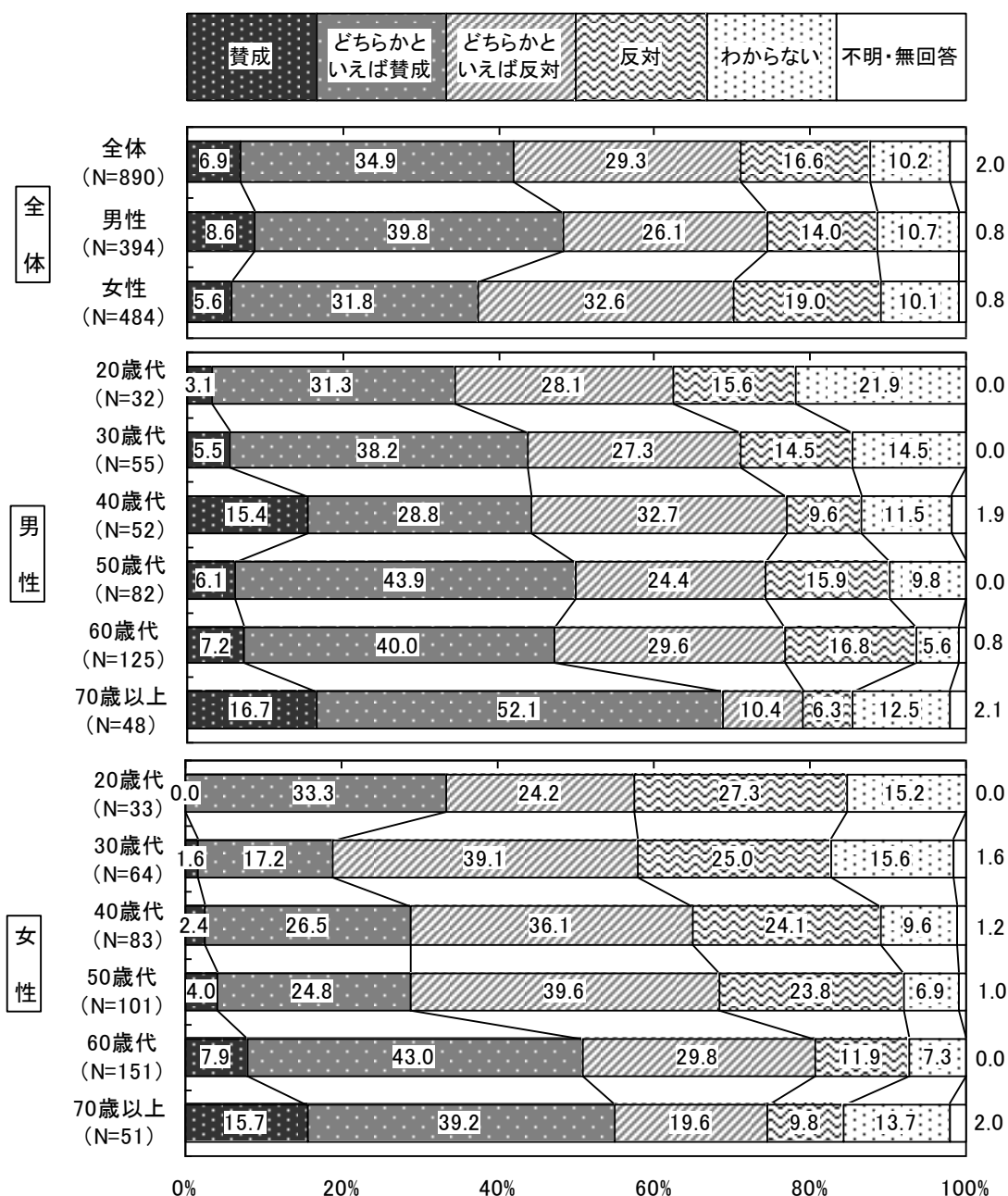


2. 男女平等・役割分担について

問1 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。(〇は1つ)

『賛成』は男性が5割程度、女性が4割程度となっている。

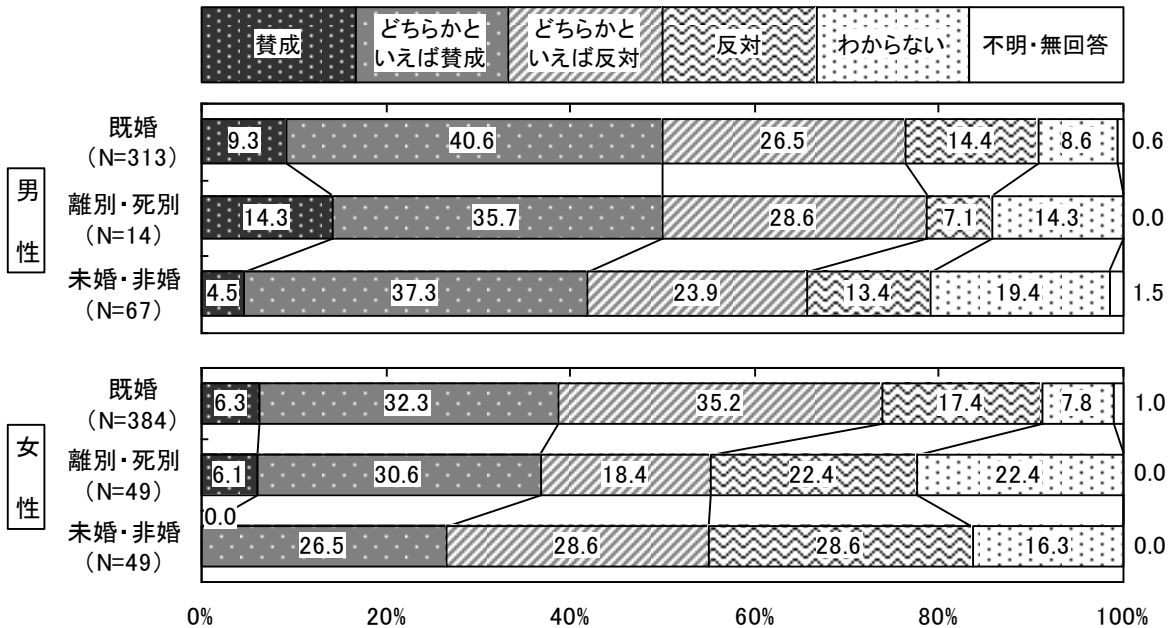
- 全体でみると、「賛成」(6.9%)と「どちらかといえば賛成」(34.9%)を合わせた『賛成』は41.8%となっています。一方、「反対」(16.6%)と「どちらかといえば反対」(29.3%)を合わせた『反対』は45.9%となっています。
- 性・年齢別でみると、男性は『賛成』が70歳以上において68.8%と最も高くなっていますが、それ以外は5割以下となっています。一方、女性は『反対』が30～50歳代で6割を超えて高くなっています。



既婚者は未婚者より性別役割分担意識が高い傾向にある。

- 婚姻状況別でみると、『反対』は女性の「未婚・非婚」が57.2%と最も高く、男性の「離婚・死別」（35.7%）が最も低くなっています。また、女性の「未婚・非婚」は『賛成』が26.5%と最も低く、そのうち「賛成」は0.0%となっています。

〔婚姻状況別〕

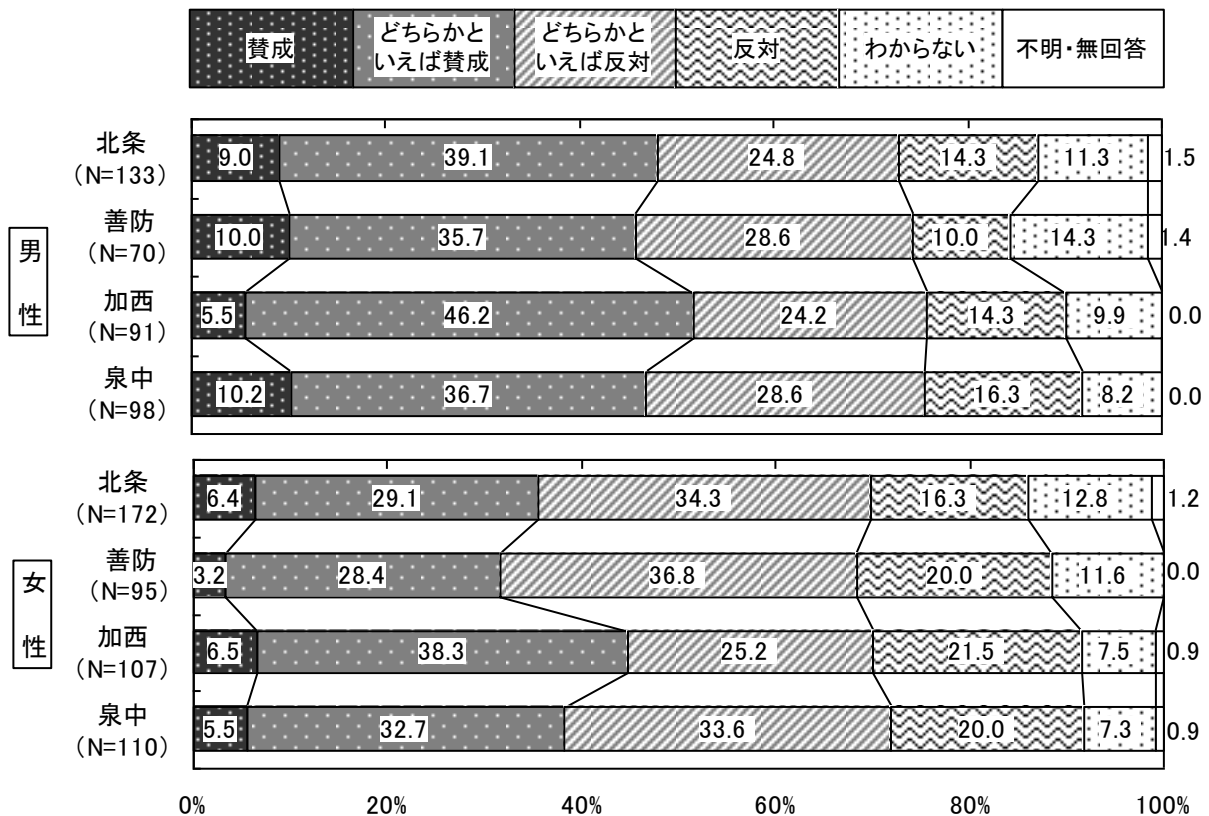


※「既婚」は、事実今も含みます。

加西中学校区は他の校区と比べて『賛成』が高くなっている。

- 中学校区別でみると、いずれの中学校区も男性は『賛成』が高く、特に「加西」は51.7%と半数以上を占めています。一方、女性は『反対』が高くなっており、「善防」で56.8%、「泉中」で53.6%、「北条」で50.6%となっています。「加西」は『賛成』が44.8%、『反対』が46.7%と大きな差はみられません。

〔中学校区別〕

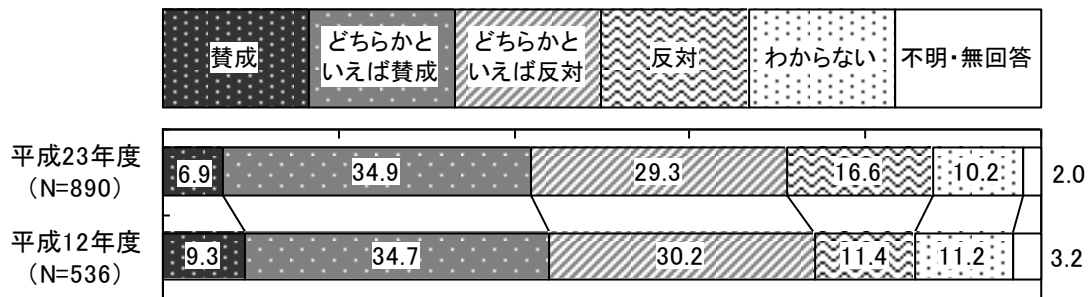


『賛成』は減少傾向、『反対』は増加傾向にある。

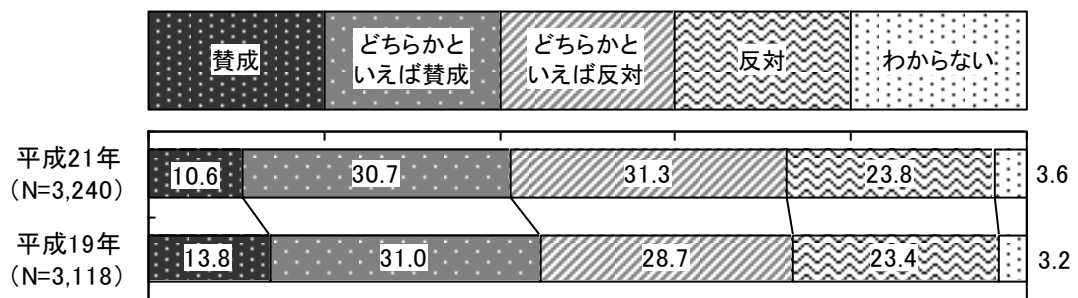
- 平成12年度と平成23年度を比較すると、『賛成』は2.2ポイント減少しており、『反対』は4.3ポイント増加しています。これは、内閣府調査が示す傾向と同様となっており、性別役割分担意識が少しずつ変化していることがうかがえます。

〔経年比較〕

【加西市】



【内閣府】



問2 日常的な家事・仕事等の役割分担についておうかがいします。(〇はそれぞれ1つ)

「A. 理想」はすべての方がお答えください。

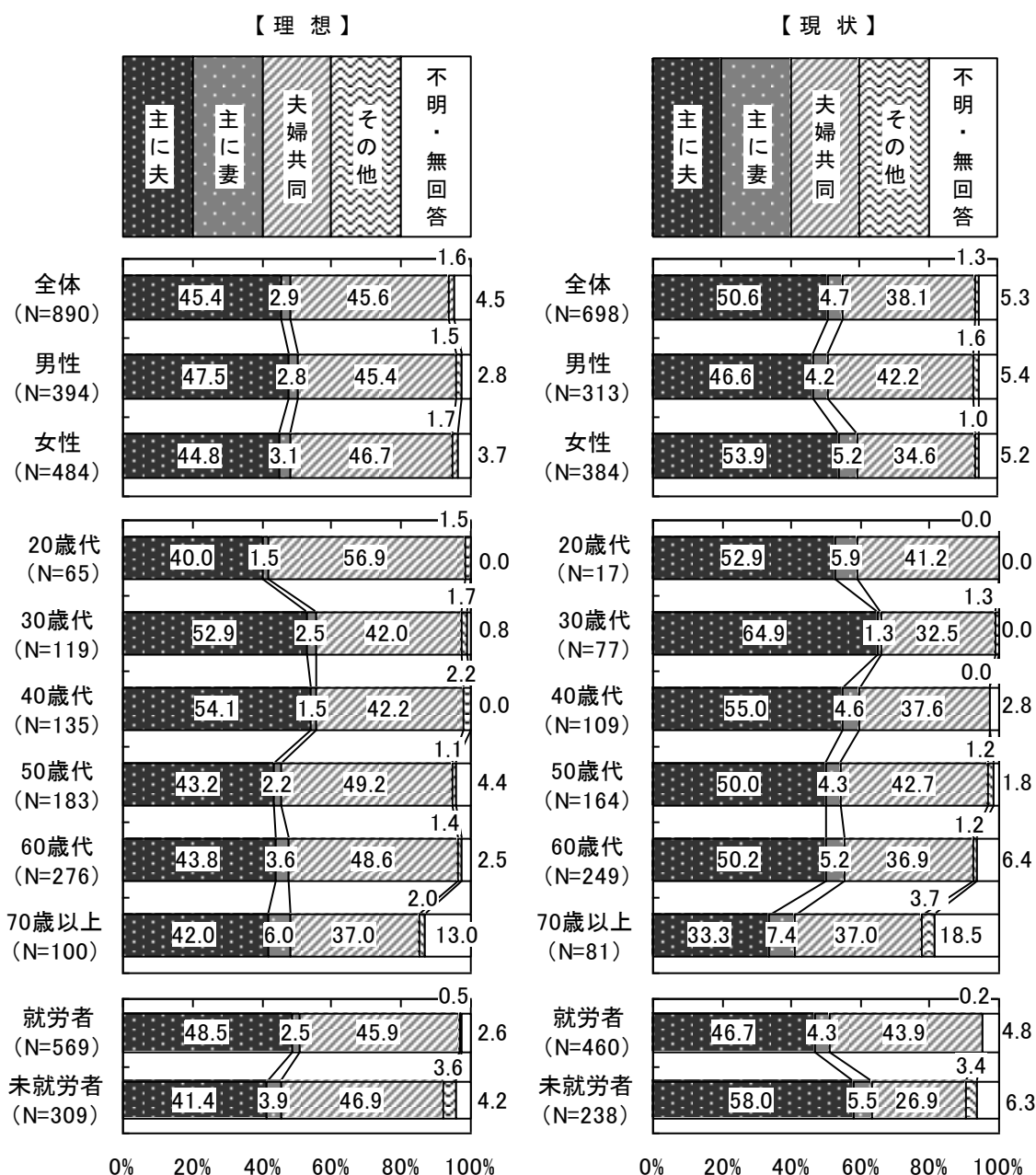
「B. 現状」は配偶者のいる方のみお答えください。また、子育て、高齢者の介護に関する項目は、該当する方のみお答えください。

① 生活費の確保

【理想】は「主に夫」、「夫婦共同」ともに5割弱となっており、

【現状】は「主に夫」が5割程度と高くなっている。

- 全体でみると、【現状】は「主に夫」(50.6%)が最も高く、【理想】においても45.4%と高くなっています。【理想】は「夫婦共同」(45.6%)が最も高く、【現状】(38.1%)より7.5ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、30歳代の【現状】は「主に夫」(64.9%)が他の年代に比べてやや高くなっています。一方、20歳代の【理想】は「夫婦共同」が56.9%と高くなっています。
- 就労別でみると、未就労者の【理想】は「夫婦共同」が46.9%と高くなっていますが、【現状】は26.9%と20ポイント低くなっています。

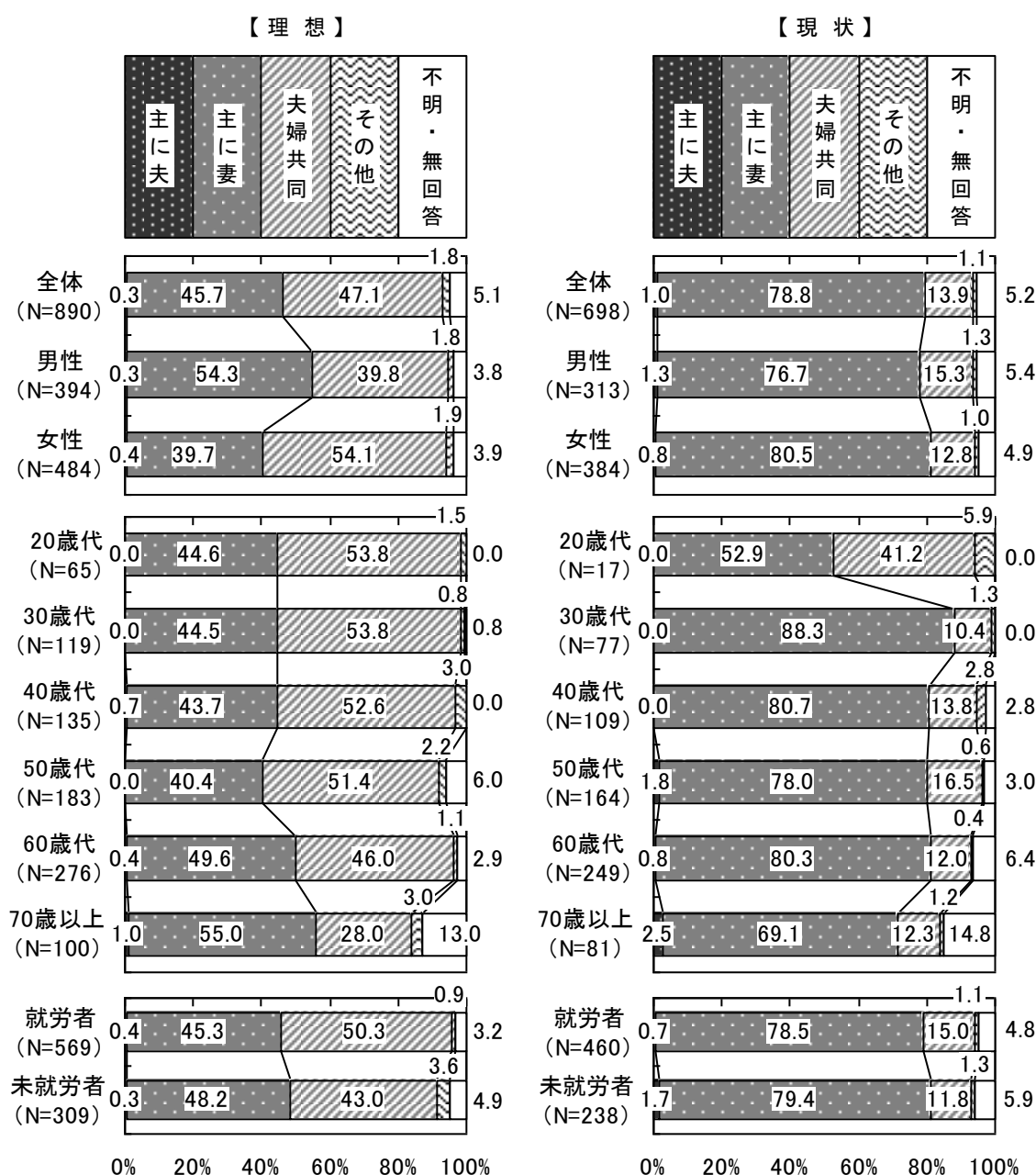


② 炊事・掃除・洗濯などの家事

【理想】は「主に妻」、「夫婦共同」ともに5割弱となっており、

【現状】は「主に妻」が8割程度と高くなっている。

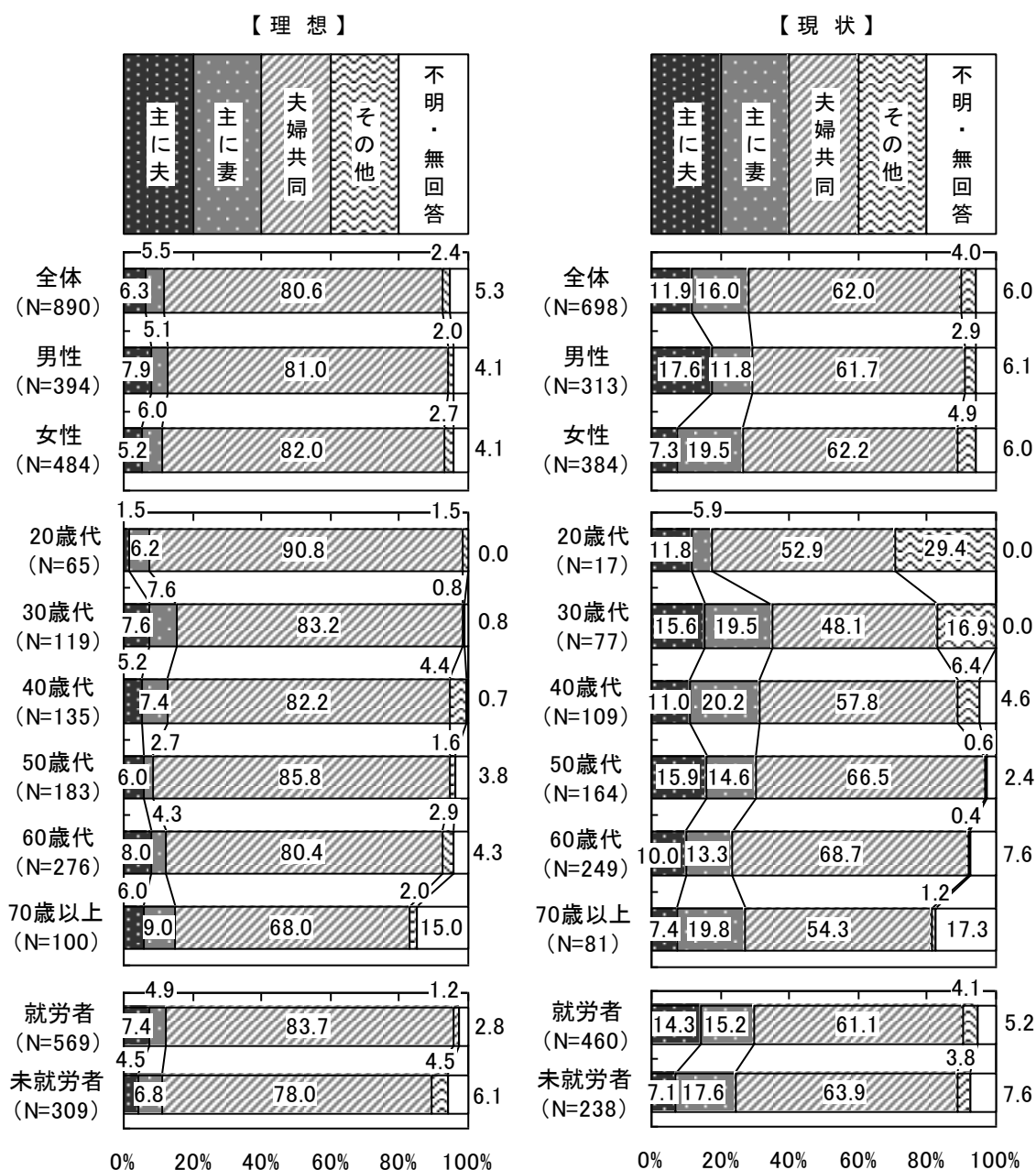
- 全体でみると【理想】は「夫婦共同」が47.1%となっていますが、【現状】は13.9%と33.2ポイント低く、「主に妻」が78.8%となっています。
- 性別でみると、女性の【理想】は「夫婦共同」が54.1%と男性の【理想】(39.8%)より高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代の【現状】は「夫婦共同」が41.2%と他の年代より3割ほど高くなっています。一方、【理想】は70歳以上を除く全ての年代において「夫婦共同」が5割程度となっています。
- 就労別でみると、【理想】と【現状】のどちらにおいても、「夫婦共同」は就労者が未就労者より高くなっています。



③ 近所との付き合い

【理想】は「夫婦共同」が8割程度となっており、
【現状】も「夫婦共同」が6割程度で高くなっている。

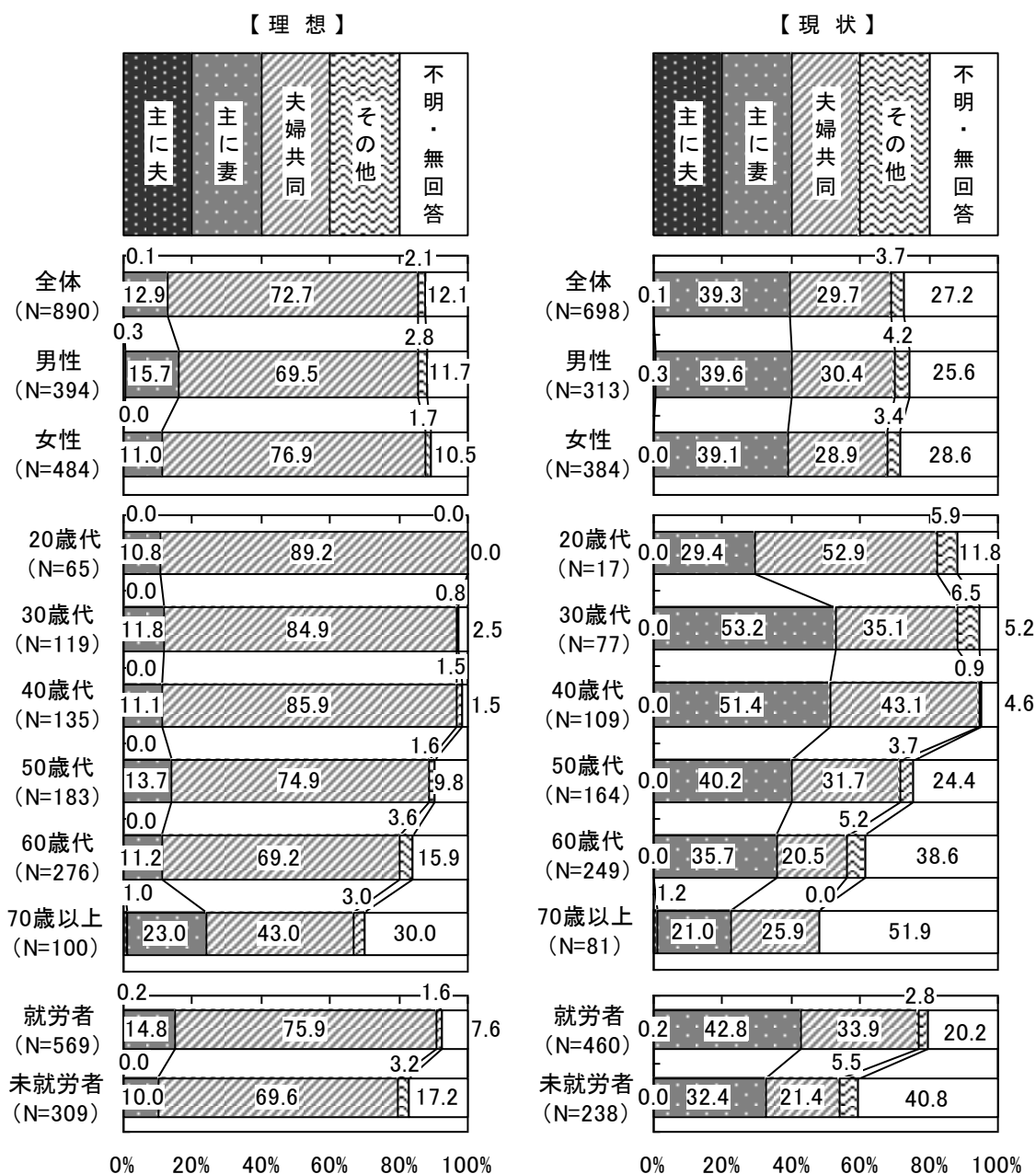
- 全体でみると【理想】は「夫婦共同」が80.6%と最も高く、【現状】も62.0%と最も高くなっています。
- 性別でみると、男性の【現状】は「主に夫」が17.6%で、女性の7.3%より10.3ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、50歳代及び60歳代の【現状】は「夫婦共同」が7割弱と高くなっていますが、20歳代及び30歳代の【現状】は5割程度となっています。
- 就労別では、目立った差異はみうけられません。



④ 子育て

【理想】は「夫婦共同」が7割程度となっており、
【現状】は「主に妻」が4割程度、「夫婦共同」が3割程度となっている。

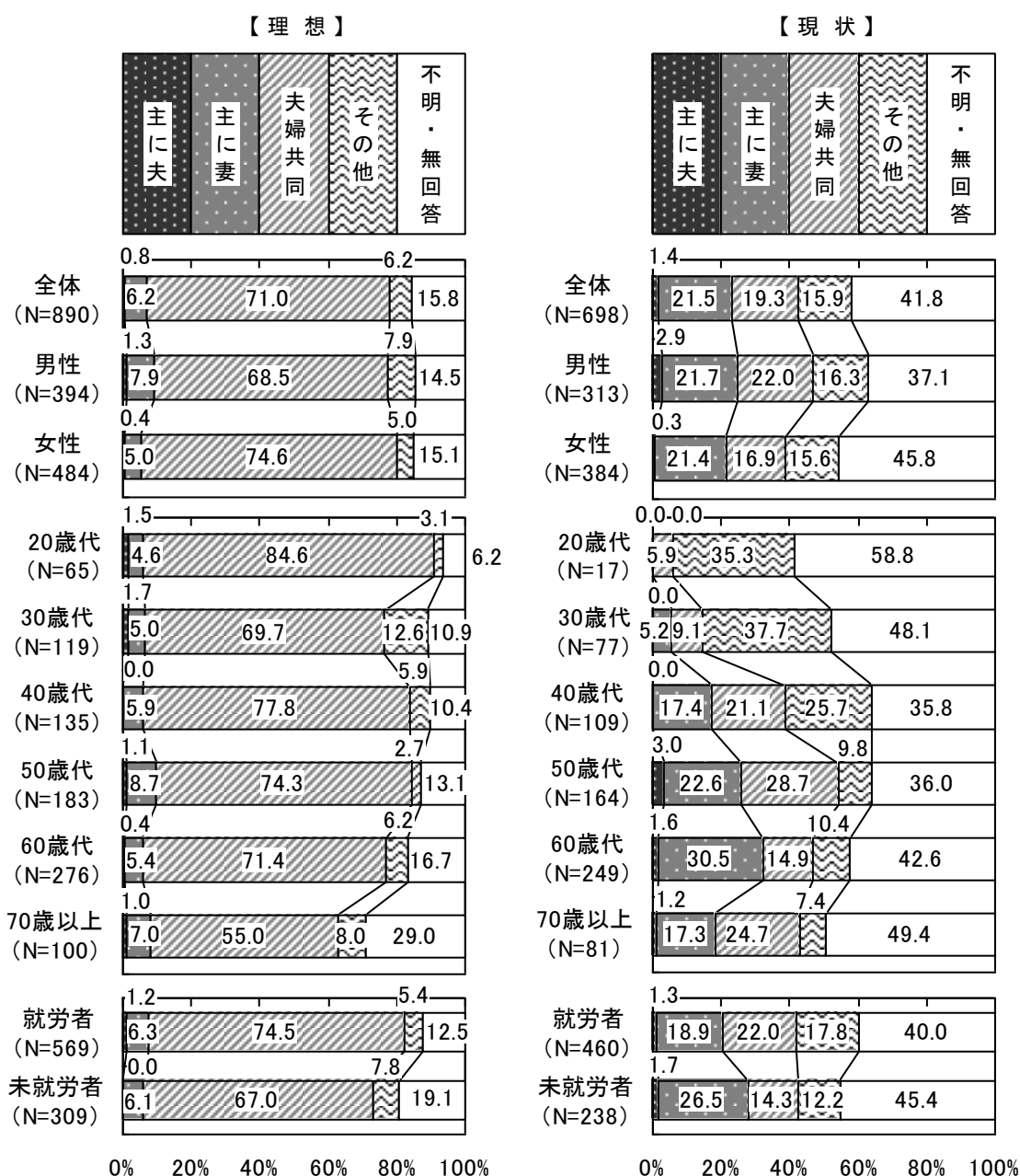
- 全体でみると【理想】は「夫婦共同」が72.7%と最も高くなっていますが、【現状】は「主に妻」が39.3%で、「夫婦共同」は29.7%に留まっています。
- 性別でみると、男女ともに【理想】は「夫婦共同」が7割程度、【現状】は「主に妻」が4割程度となっています。
- 年齢別でみると、70歳以上を除く全ての年代において【理想】は「夫婦共同」が7～9割を占めています。一方、【現状】は20歳代において「夫婦共同」が52.9%と高くなっていますが、30歳代及び40歳代は「主に妻」が5割以上となっています。
- 就労別でみると、【現状】は「主に妻」、「夫婦共同」において就労者が未就労者より1割程度高くなっています。しかし、未就労者は「不明・無回答」(40.8%)が高いことを考慮する必要があります。



⑤ 高齢者の介護

【理想】は「夫婦共同」が7割程度となっており、
【現状】は「主に妻」及び「夫婦共同」が2割前後となっている。

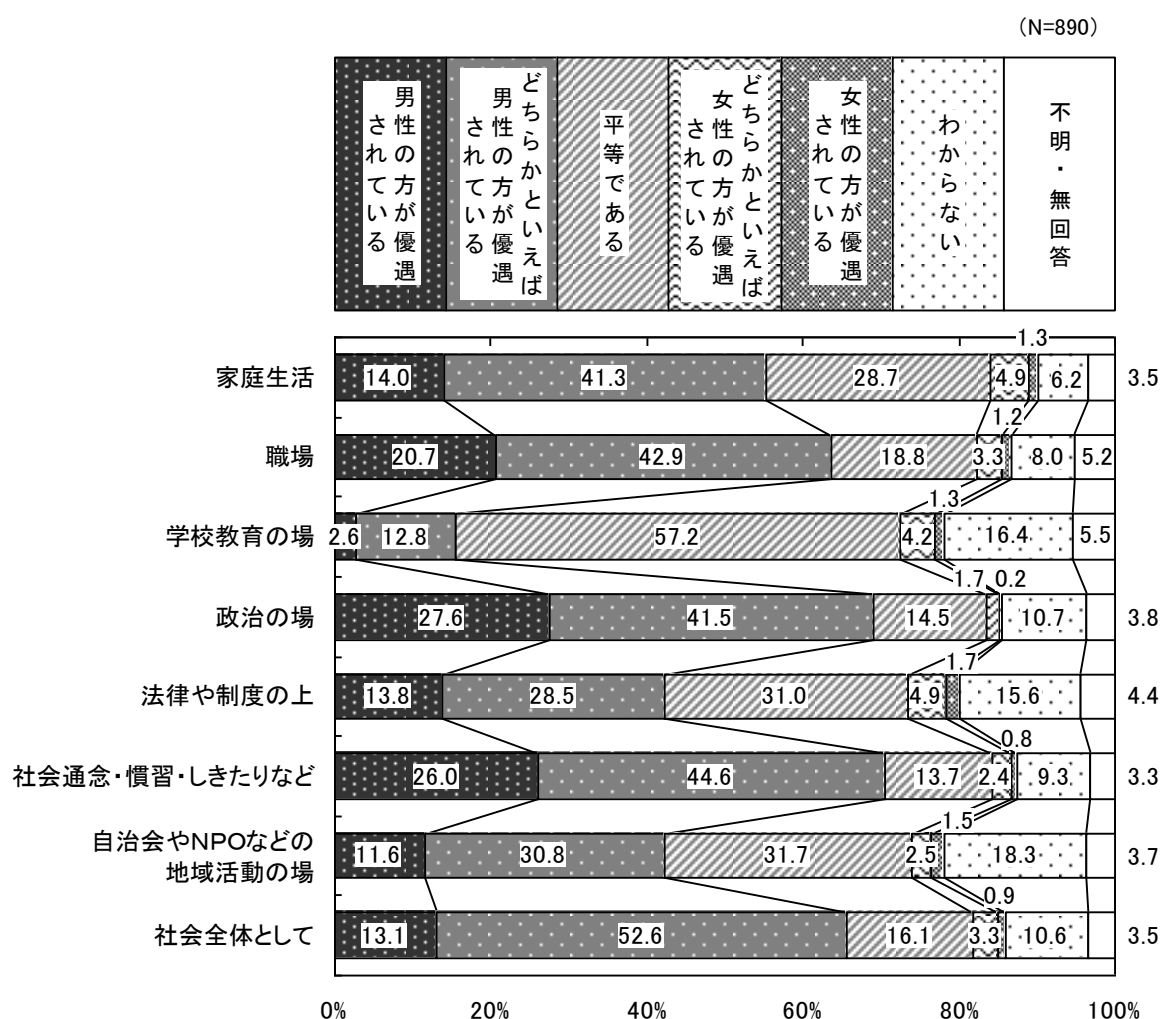
- 全体でみると、【理想】は「夫婦共同」が71.0%と最も高くなっていますが、【現状】は「主に妻」が21.5%、「夫婦共同」が19.3%となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 年齢別でみると、20歳代の【理想】は「夫婦共同」が84.6%と最も高く、70歳以上を除く全ての年代で、「夫婦共同」が7割程度となっています。一方、【現状】は20歳代及び30歳代は「その他」、「不明・無回答」の合計が8割以上となっており、40歳代以上において「主に妻」及び「夫婦共同」がともに2割前後となっています。
- 就労別でみると、【現状】において未就労者は「主に妻」(26.5%)が最も高く、就労者は「夫婦共同」(22.0%)が最も高くなっています。



問3 あなたは、次の各分野において男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

「学校教育の場」では「平等である」が高いが、「職場」、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体として」では『男性の方が優遇されている』が高くなっている。

- 「平等である」は「学校教育の場」が57.2%と最も高く、以下「自治会やNPOなどの地域活動の場」(31.7%)、「法律や制度の上」(31.0%)、「家庭生活」(28.7%)となっています。一方、『男性の方が優遇されている』は「社会通念・慣習・しきたりなど」が70.6%と最も高く、以下「政治の場」(69.1%)、「社会全体として」(65.7%)、「職場」(63.6%)、「家庭生活」(55.3%)となっています。

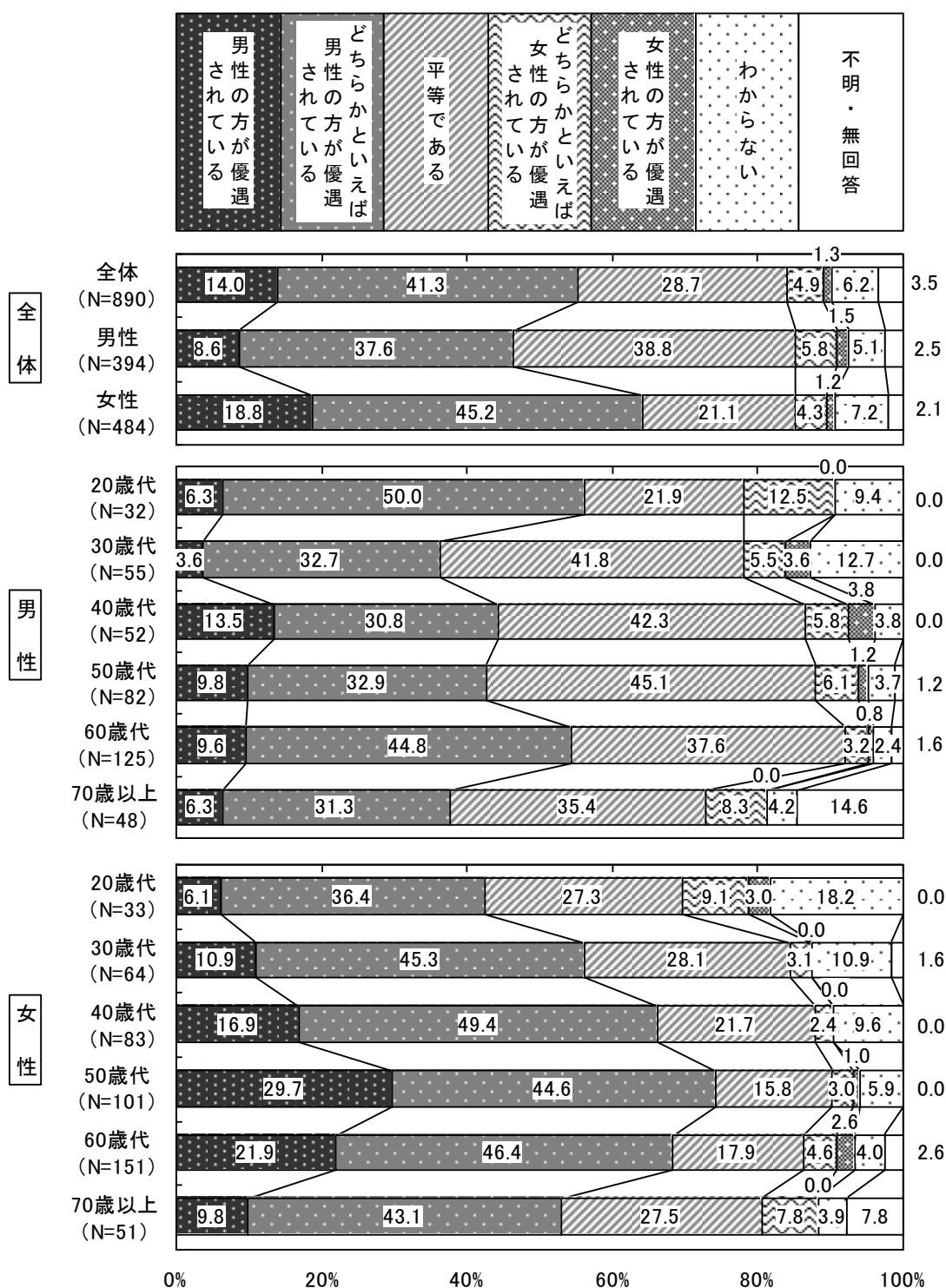


※『男性の方が優遇されている』は、本来の選択肢の「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合を合計したものです。『女性の方が優遇されている』は、本来の選択肢の「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

① 家庭生活

「平等である」は3割程度で、『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

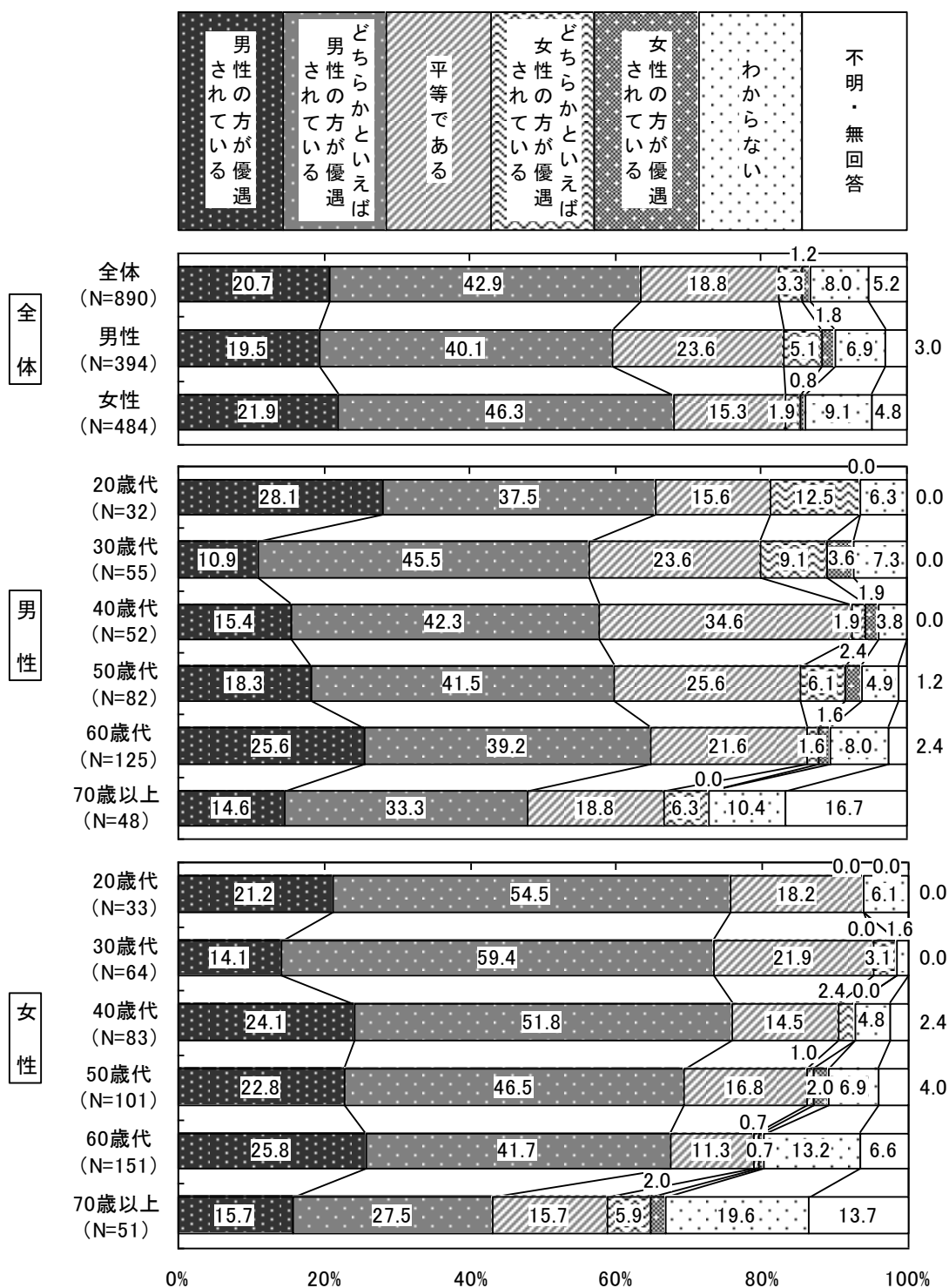
- 全体でみると、「平等である」は 28.7%、『男性の方が優遇されている』は 55.3%となっています。
- 性別でみると、女性は「平等である」が 21.1%と、男性（38.8%）より 17.7 ポイント低く、『男性の方が優遇されている』は 64.0%となっています。
- 性・年齢別でみると、「平等である」は 50 歳代女性が 15.8%と最も低く、50 歳代男性（45.1%）と比べると 29.3 ポイント低くなっています。ただ、20 歳代男性も 21.9%と低く、男性の他の年代より 2 割程度低くなっています。



② 職場

「平等である」は2割程度で、『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

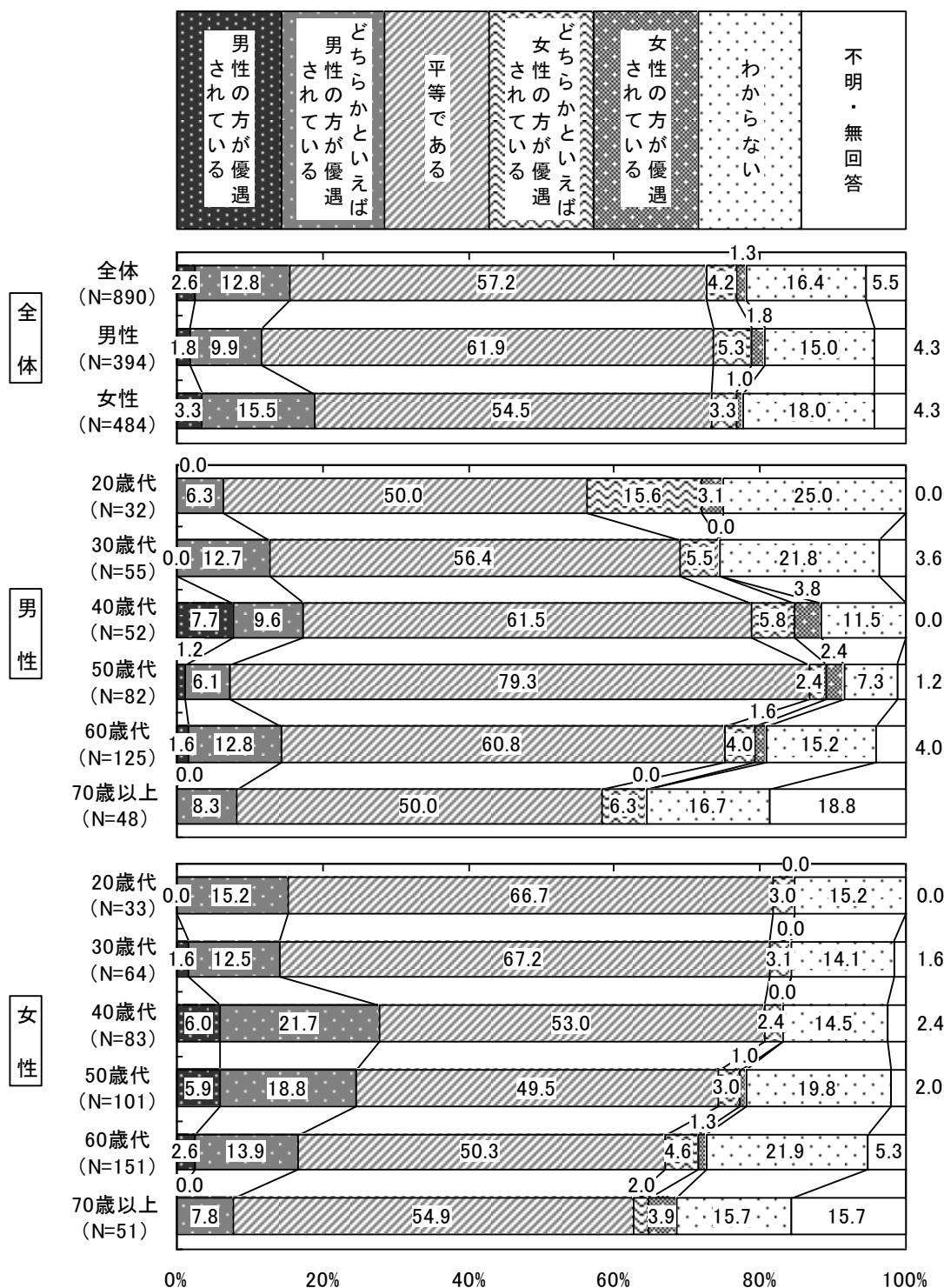
- 全体でみると、「平等である」は18.8%と低く、『男性の方が優遇されている』は63.6%と高くなっています。
- 性別でみると、女性は「平等である」が15.3%と、男性（23.6%）より8.3ポイント低くなっています。
- 性・年齢別でみると、「平等である」は60歳代女性が11.3%と最も低く、40歳代男性（34.6%）が最も高くなっています。一方、『女性の方が優遇されている』が20歳代及び30歳代男性で1割程度みうけられます。



③ 学校教育の場

「平等である」は6割程度を占めており、若い女性層が平等であると感じている。

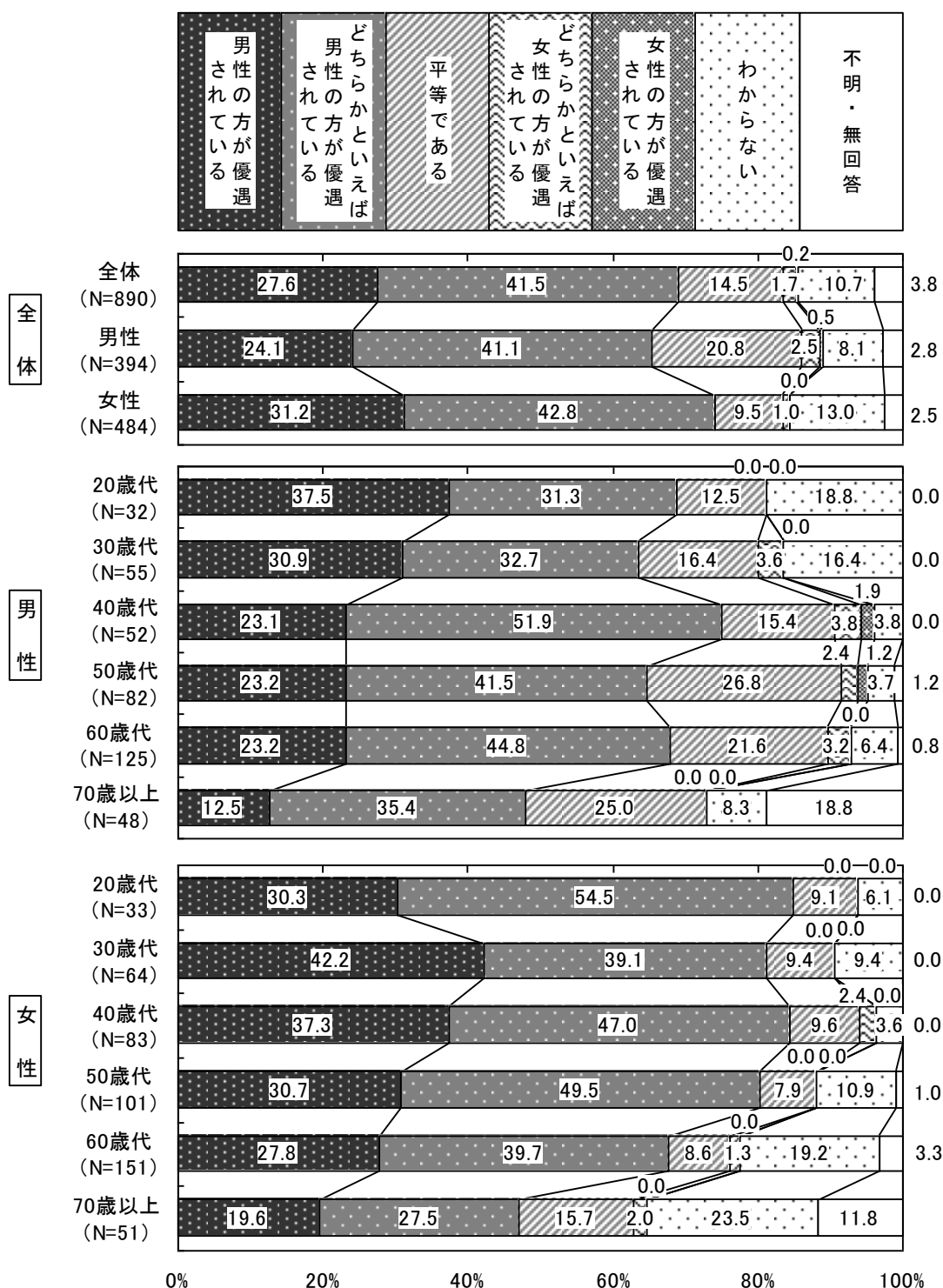
- 全体でみると、「平等である」は57.2%となっています。
- 性別でみると、女性は『男性の方が優遇されている』が18.8%と男性（11.7%）より7.1ポイント高くなっています。
- 性・年齢別でみると、「平等である」は50歳代女性が49.5%と最も低く、50歳代男性（79.3%）より29.8ポイント低くなっています。また、20歳代及び30歳代女性もそれぞれ66.7%、67.2%と高くなっています。



④ 政治の場

「平等である」は1割程度と低く、『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

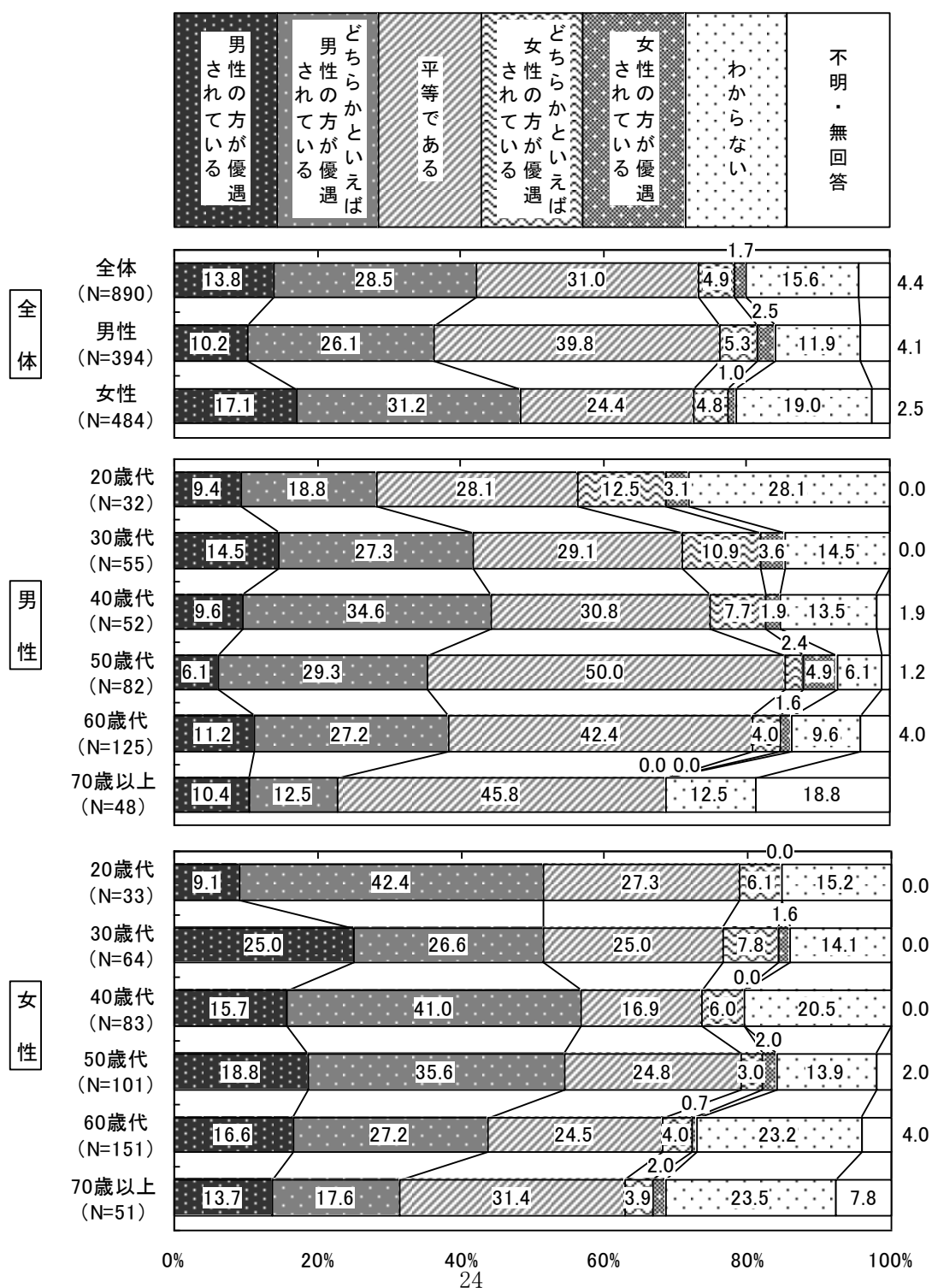
- 全体でみると、「平等である」は14.5%と低く、『男性の方が優遇されている』は69.1%と高くなっています。
- 性別でみると、女性は「平等である」が9.5%で、男性（20.8%）より11.3ポイント低くなっています。
- 性・年齢別でみると、「平等である」は50歳代男性が26.8%と他に比べて高くなっています。一方、20歳代女性は『男性の方が優遇されている』が84.8%と最も高く、若くなるほど男性が優遇されていると感じています。



⑤ 法律や制度の上

「平等である」は3割程度で、やや『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

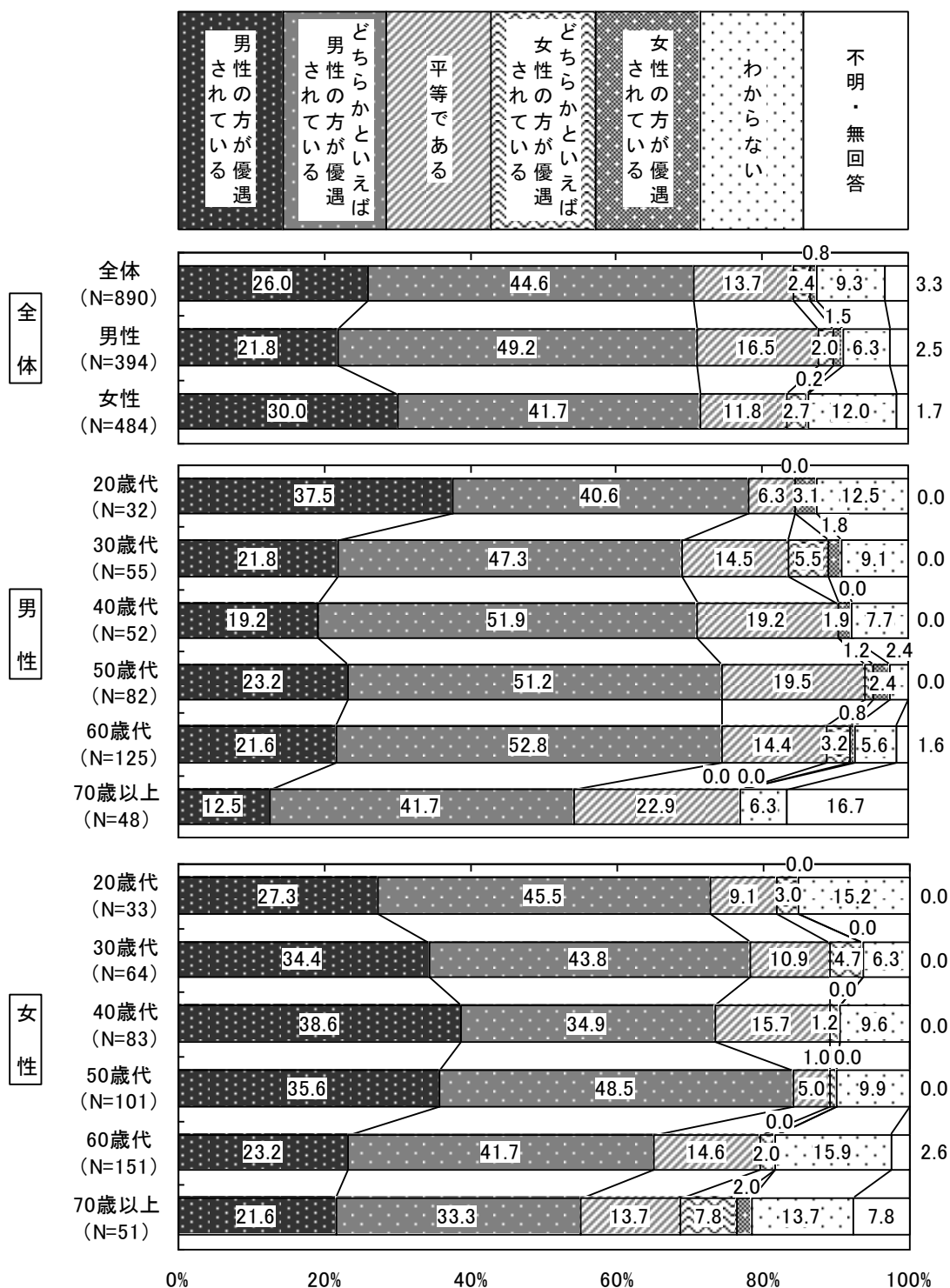
- 全体でみると、「平等である」は31.0%、『男性の方が優遇されている』は42.3%となっています。
- 性別でみると、女性は「平等である」が24.4%と、男性（39.8%）より15.4ポイント低くなっています。
- 性・年齢別でみると、50歳以上の男性は「平等である」が4割以上と高く、その他の層では、女性の70歳以上（31.4%）、男性の40歳代（30.8%）を除いて3割以下となっています。また、男女ともに30歳代以下は『女性の方が優遇されている』が1割程度みうけられます。



⑥ 社会通念・習慣・しきたりなど

「平等である」は1割程度と低く、『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

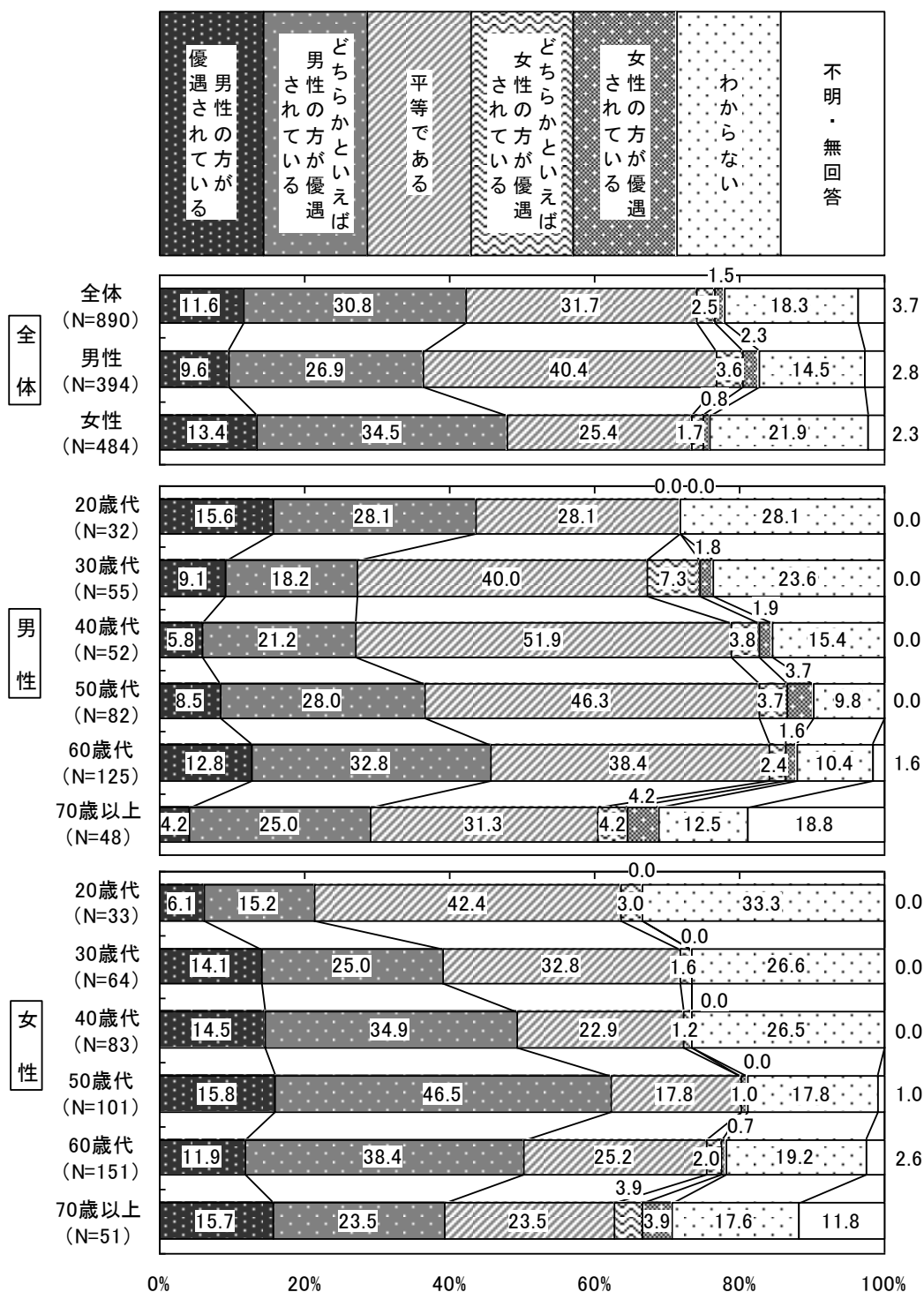
- 全体でみると、「平等である」は13.7%と低く、『男性の方が優遇されている』は70.6%となっています。
- 性別でみると、女性は「男性の方が優遇されている」が30.0%と男性（21.8%）より8.2ポイント高くなっています。
- 性・年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』は50歳代女性が84.1%と最も高く、20歳代男性においても78.1%と高くなっています。一方、40歳代以上の男性は「平等である」が2割前後となっています。



⑦ 自治会やNPOなどの地域活動の場

「平等である」は3割程度で、やや『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

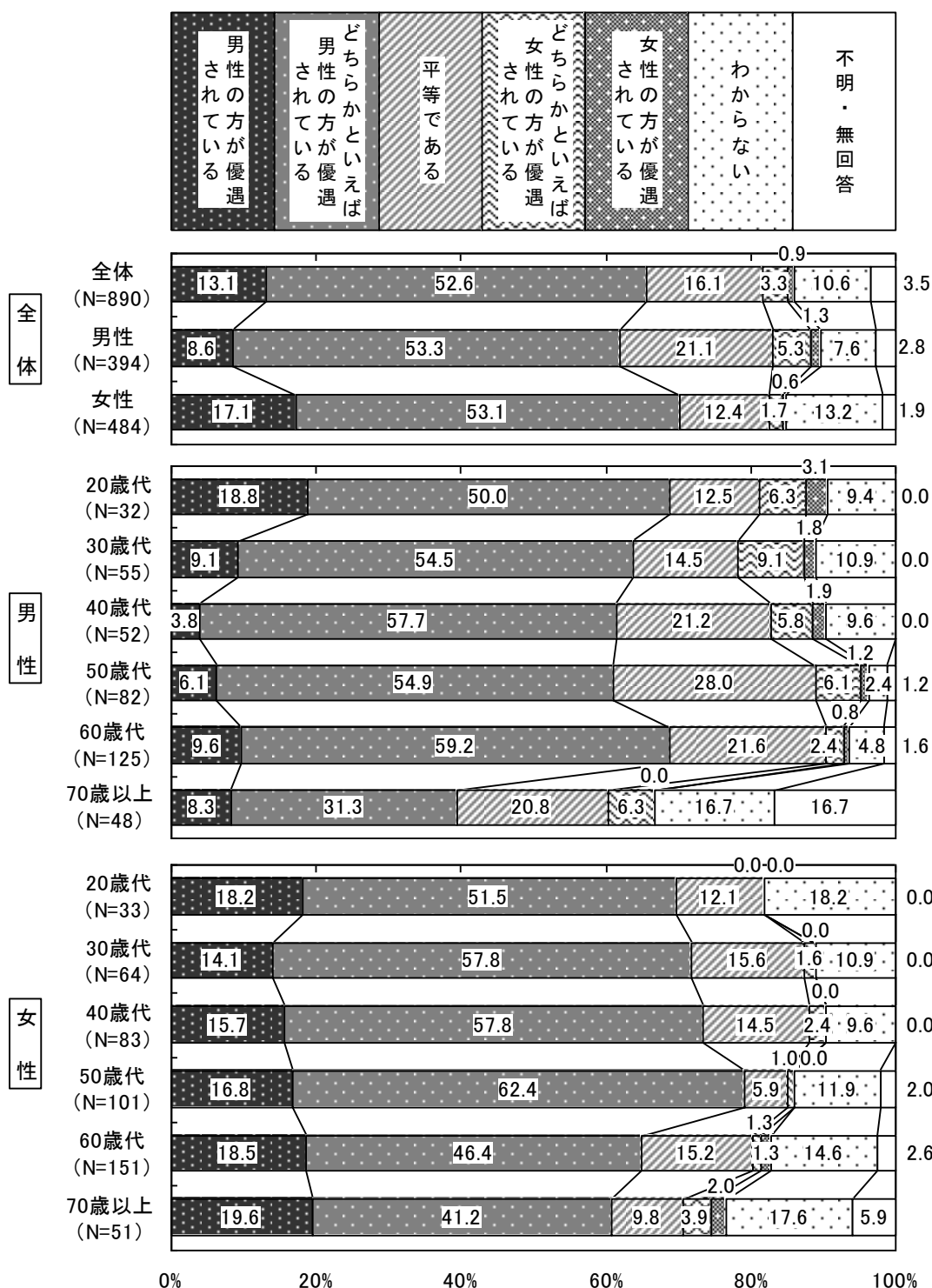
- 全体でみると、「平等である」は31.7%、『男性の方が優遇されている』は42.4%となっています。
- 性別でみると、女性は「平等である」が25.4%と、男性（40.4%）より15.0ポイント低くなっています。
- 性・年齢別でみると、「平等である」は40歳代男性が51.9%と最も高く、30歳代以上の男性は4割前後となっています。また、20歳代女性も42.4%と高くなっています。



⑧ 社会全体として

「平等である」は2割程度で、『男性の方が優遇されている』状況であることがうかがえる。

- 全体でみると、「平等である」は16.1%、『男性の方が優遇されている』は65.7%となっています。
- 性別でみると、女性は「平等である」が12.4%と、男性（21.1%）より低くなっています。
- 性・年齢別でみると、「平等である」は50歳代男性が28.0%と最も高く、40歳代以上の男性は2割以上となっています。その他の層においては、1割前後と低くなっています。

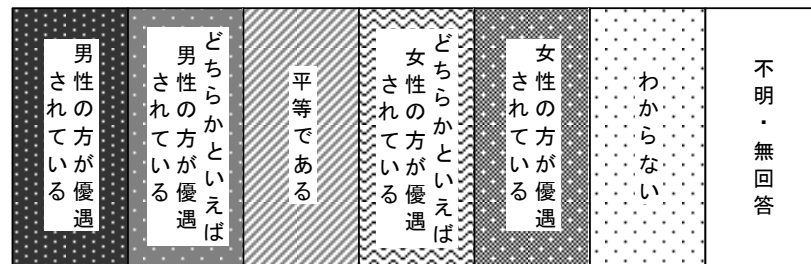


全体的に「平等である」という意識は上昇傾向にあるが、全国と比べると低い傾向にある。

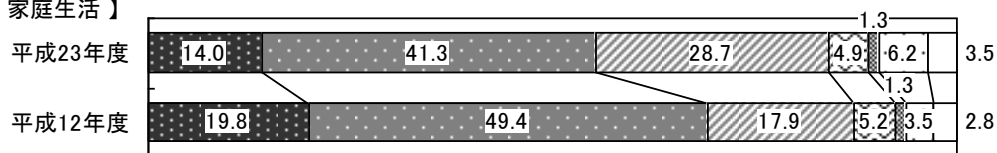
- 平成12年度と平成23年度を比較すると、全ての項目で「平等である」が高くなっており、『男性の方が優遇されている』が低くなっています。しかし、内閣府調査と比較すると、全ての項目において、加西市の「平等である」は低くなっています。

〔経年比較〕

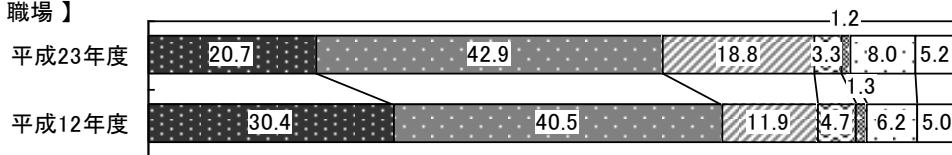
平成24年度 (N=890)
平成12年度 (N=536)



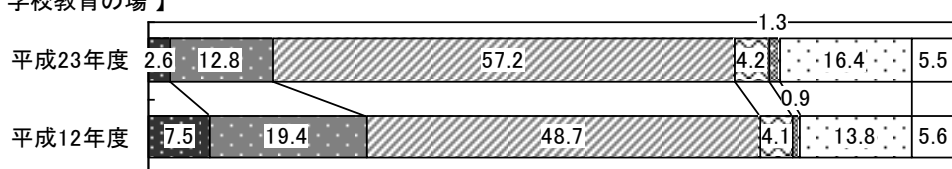
【家庭生活】



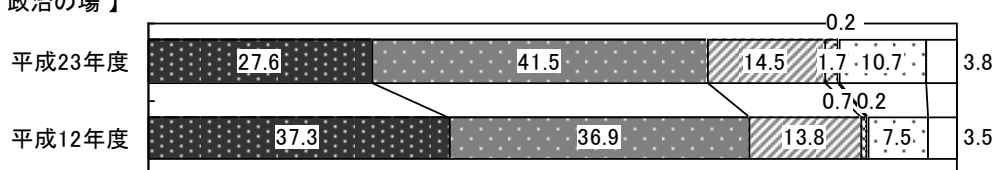
【職場】



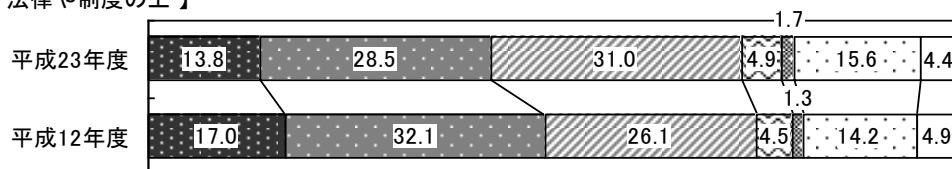
【学校教育の場】



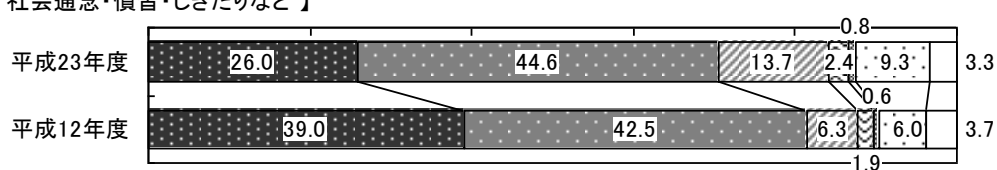
【政治の場】



【法律や制度の上】



【社会通念・慣習・しきたりなど】



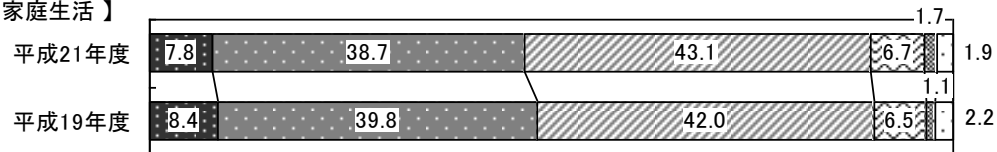
0% 20% 40% 60% 80% 100%

〔内閣府調査〕

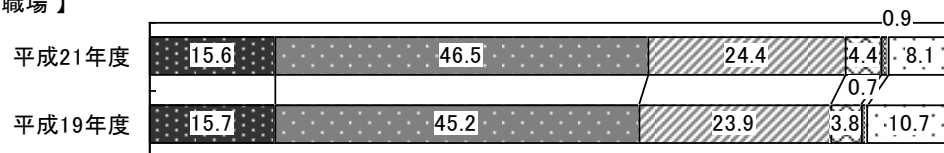
平成21年度 (N=3,240)
平成19年度 (N=3,118)



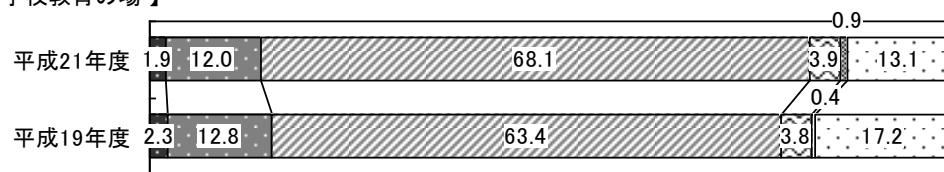
【家庭生活】



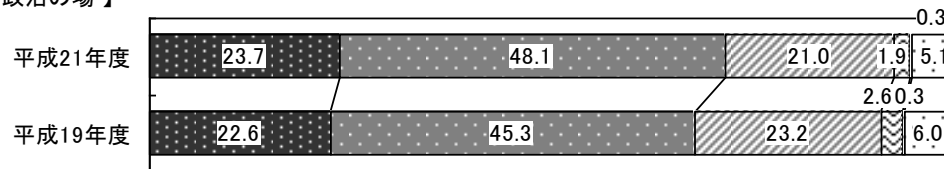
【職場】



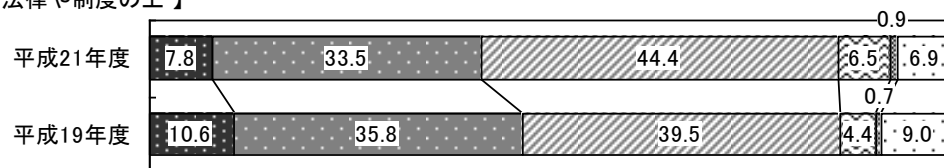
【学校教育の場】



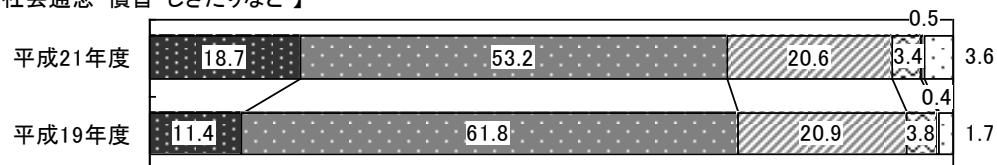
【政治の場】



【法律や制度の上】



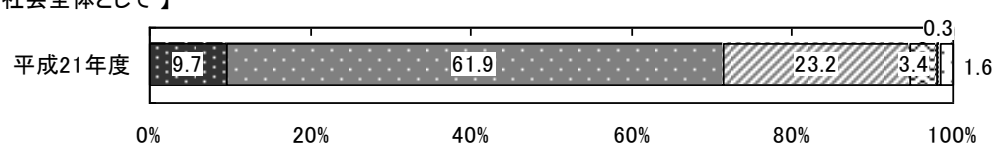
【社会通念・慣習・しきたりなど】



【自治会やNPOなどの地域活動の場】



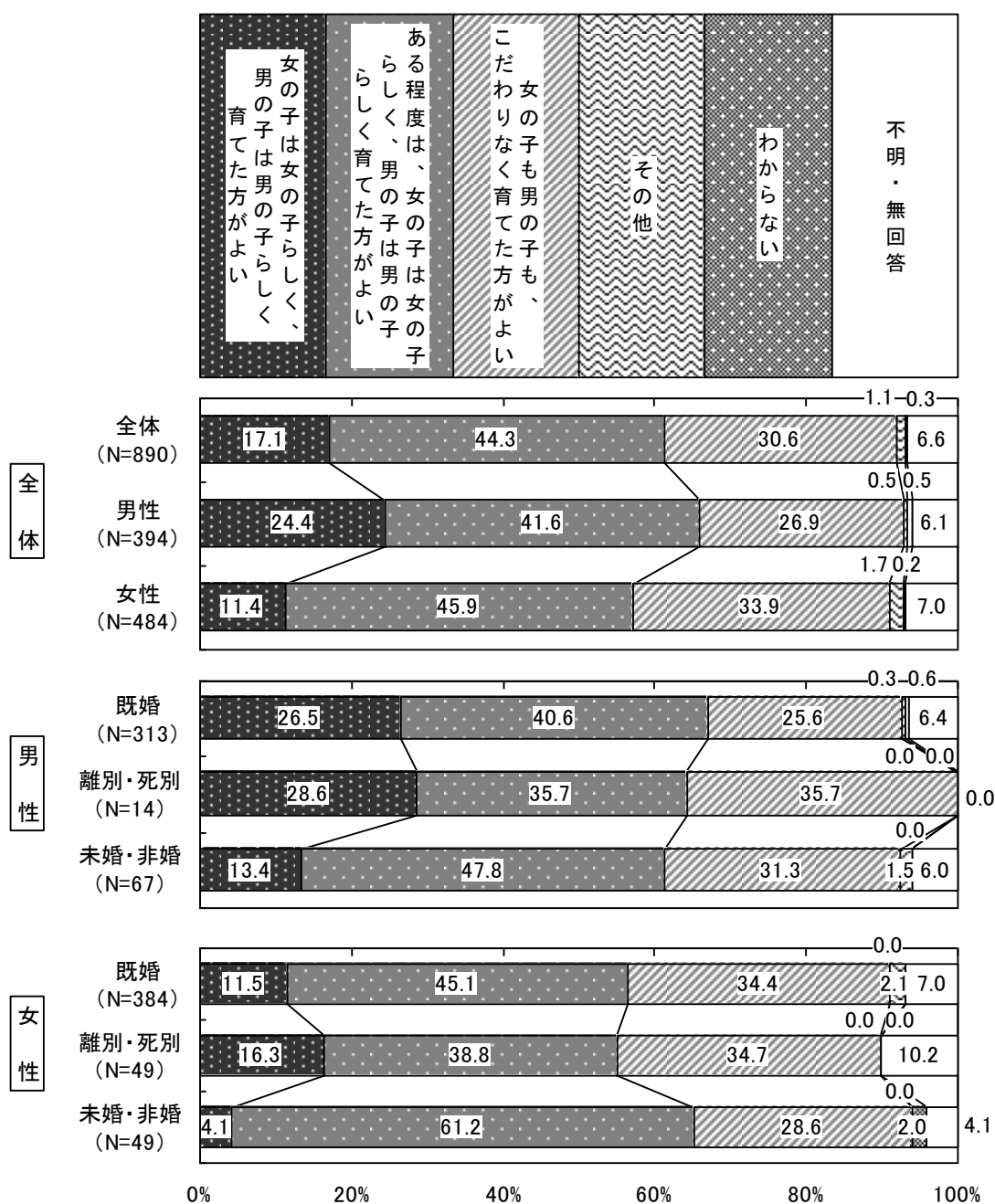
【社会全体として】



問4 現在子どもがいない方も子どもがいると仮定してお答えください。
あなたはどのように子どもを育てたいと思いますか。(〇は1つ)

性別にこだわらずに育てたいという回答は3割程度となっている。

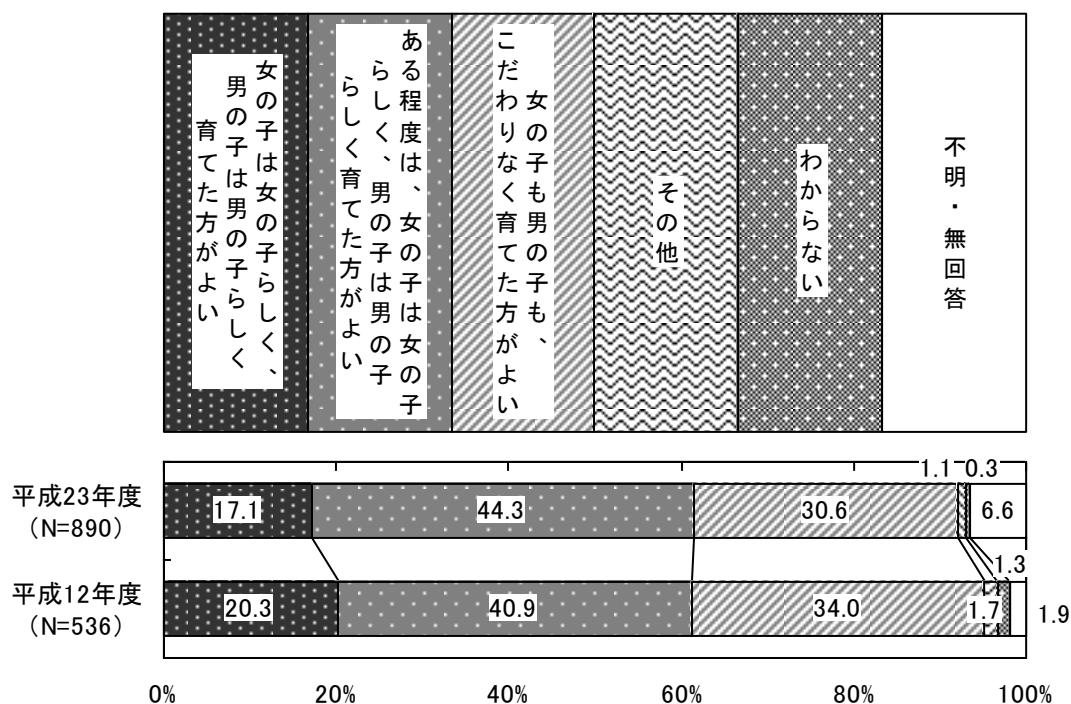
- 全体でみると、「女の子も男の子も、こだわらずに育てた方がよい」は30.6%、『女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい』は61.4%となっています。
- 性別でみると、男性は『女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい』が66.0%と、女性(57.3%)より高くなっています。
- 婚姻状況別でみると、男性の「既婚」及び女性の「未婚・非婚」は「女の子も男の子も、こだわらずに育てた方がよい」が25.6%、28.6%と他の層に比べて低くなっています。



性別にこだわりなく育てたいという回答はやや減少傾向にある。

- 平成 12 年度と平成 23 年度を比較すると、「女の子も男の子も、こだわりなく育てた方がよい」が 34.0%から 30.6%に減少しています。

〔経年比較〕

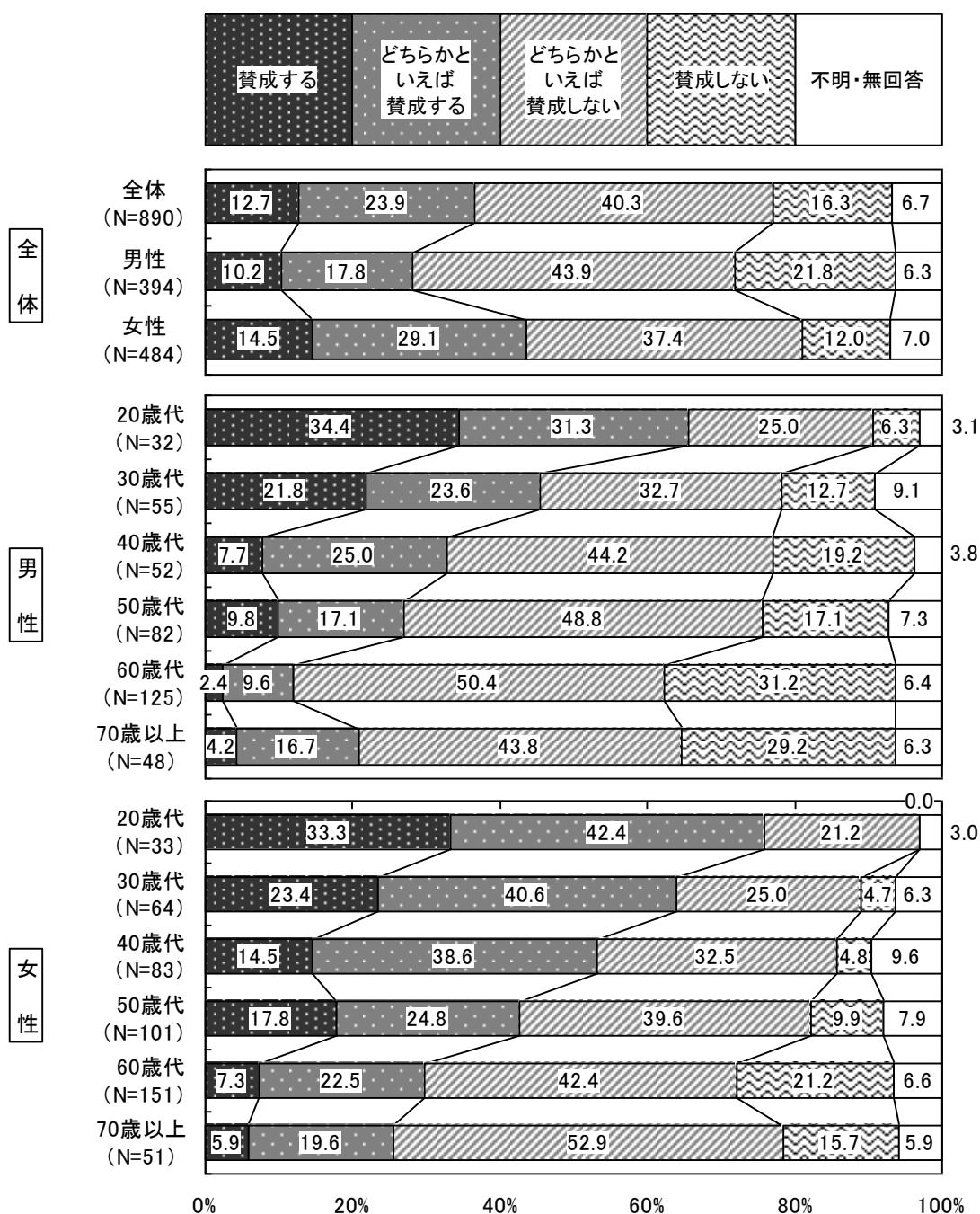


※『女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい』は、本来の選択肢の「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」と「ある程度は、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」の割合を合計したものです。

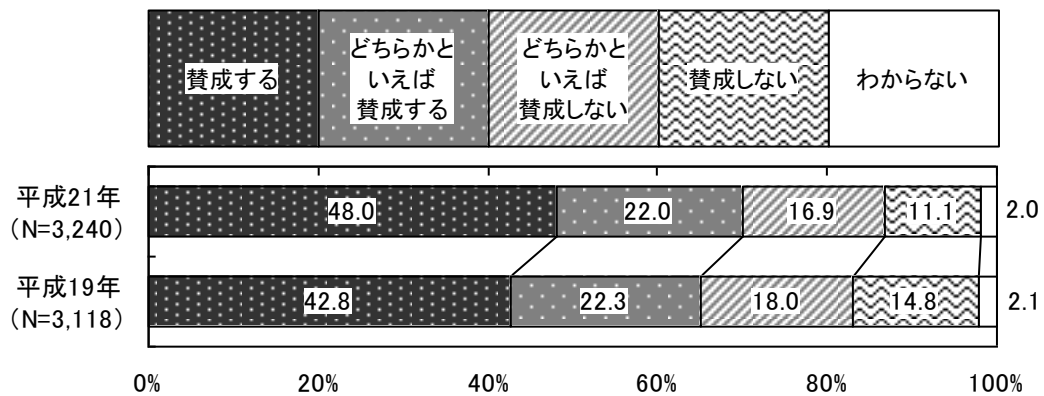
問5 「結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい」という考え方についてどう思いますか。(〇は1つ)

20歳代は賛成が7割前後と高く、年代が高くなるにつれ賛成は減少にある。

- 全体でみると、『賛成する』は 36.6%、『賛成しない』は 56.6%となっています。内閣府調査と比較すると、加西市の『賛成する』は全国（70.0%）より 33.4 ポイント低くなっています。
- 性別でみると、女性は『賛成する』が 43.6%と、男性（28.0%）より 15.6 ポイント高くなっています。
- 性・年齢別でみると、男女ともに『賛成する』は 20歳代（65.7%、75.7%）が最も高く、年代があがるにつれて割合が低くなっています。



〔内閣府調査〕

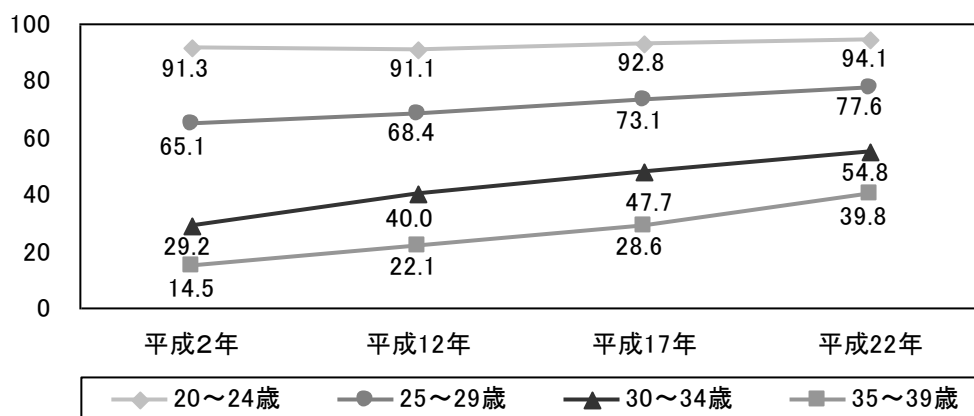


※『賛成する』は、本来の選択肢の「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の割合を合計したものです。『賛成しない』は、本来の選択肢の「賛成しない」と「どちらかといえば賛成しない」の割合を合計したものです。

参考資料：未婚率の動向

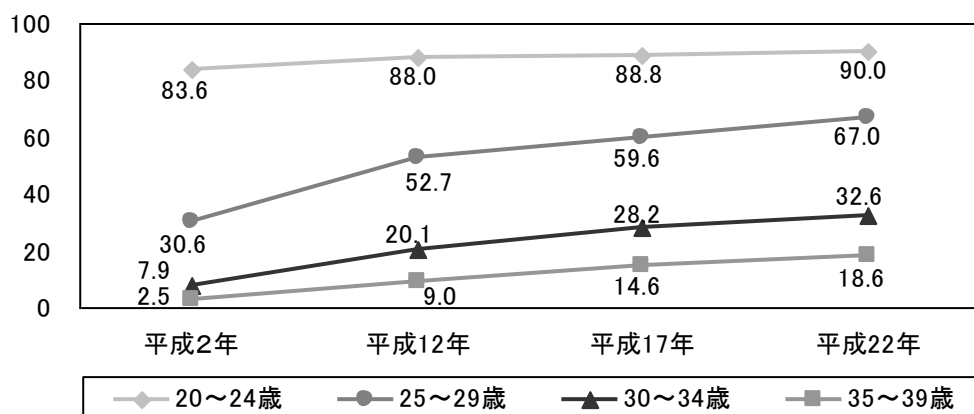
【男性】

(%)



【女性】

(%)



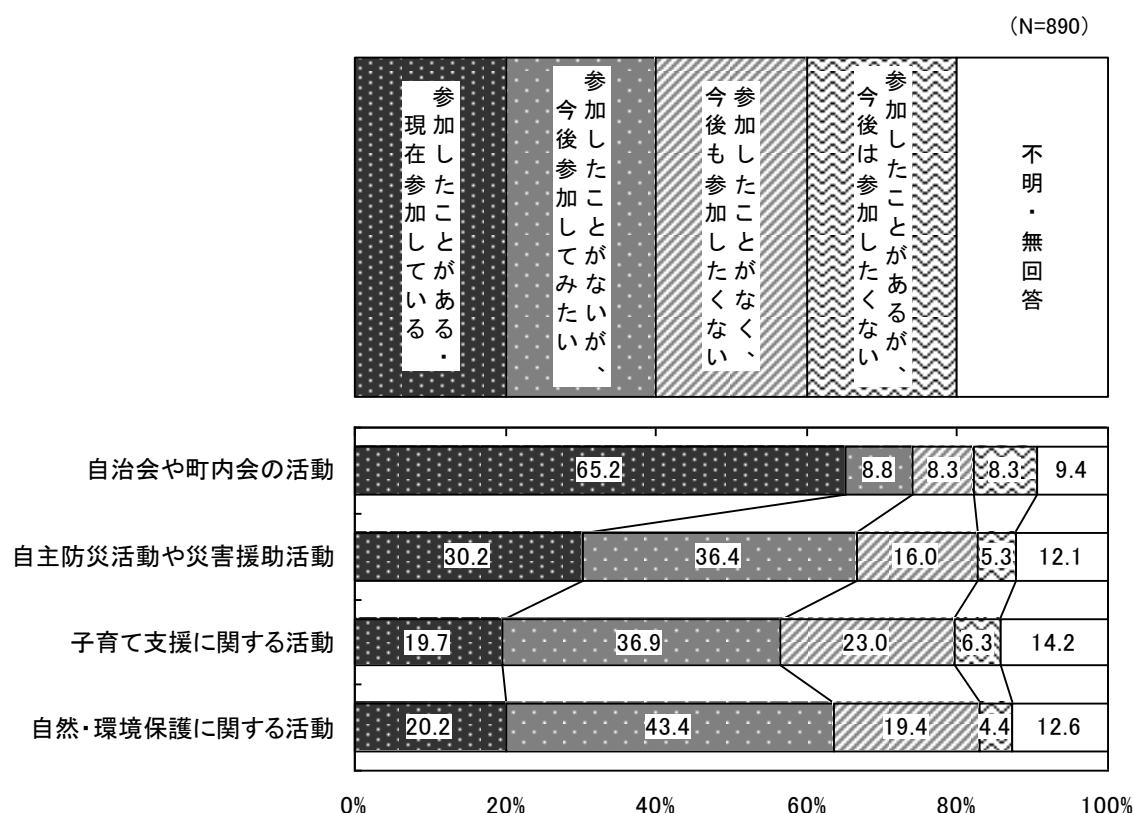
出典：国勢調査

問6 あなたは地域のための活動（実践的活動）に参加したことがありますか。また、参加している活動は男女共同参画の推進につながっていると思いますか。
（〇はそれぞれ1つ）

◎ 参加状況

自治会や町内会の活動への参加は6割以上、その他の項目も参加の意向は高い傾向にある。

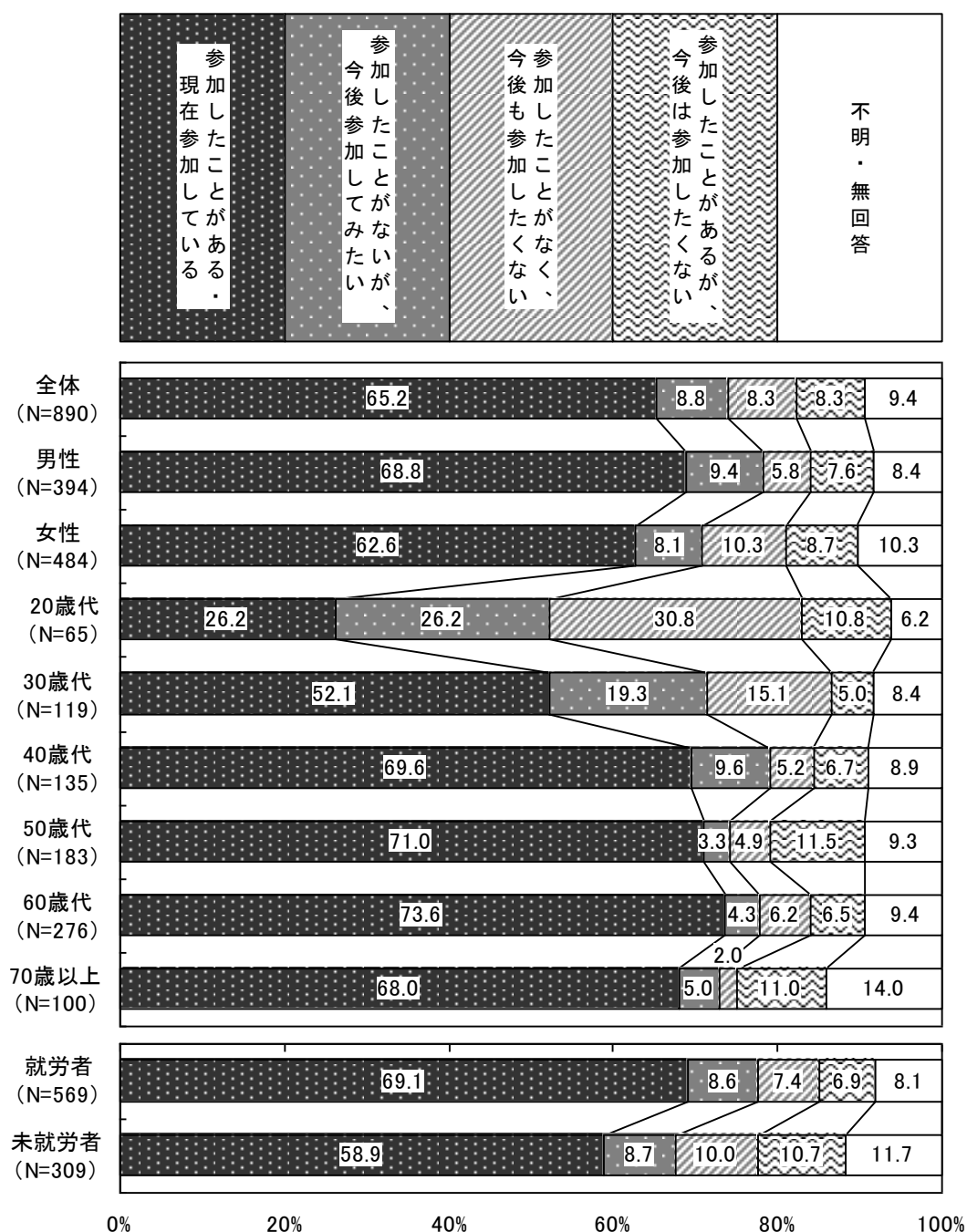
- 「参加したことがある・現在参加している」は「自治会や町内会の活動」が65.2%と最も高く、次いで「自主防災活動や災害援助活動」（30.2%）となっています。「参加したことがなく、今後も参加したくない」は「子育て支援に関する活動」が23.0%と最も高く、次いで「自然・環境保護に関する活動」（19.4%）となっています。



① 自治会や町内会の活動【参加状況】

活動への参加は6割以上となっているが、20歳代は低くなっている。

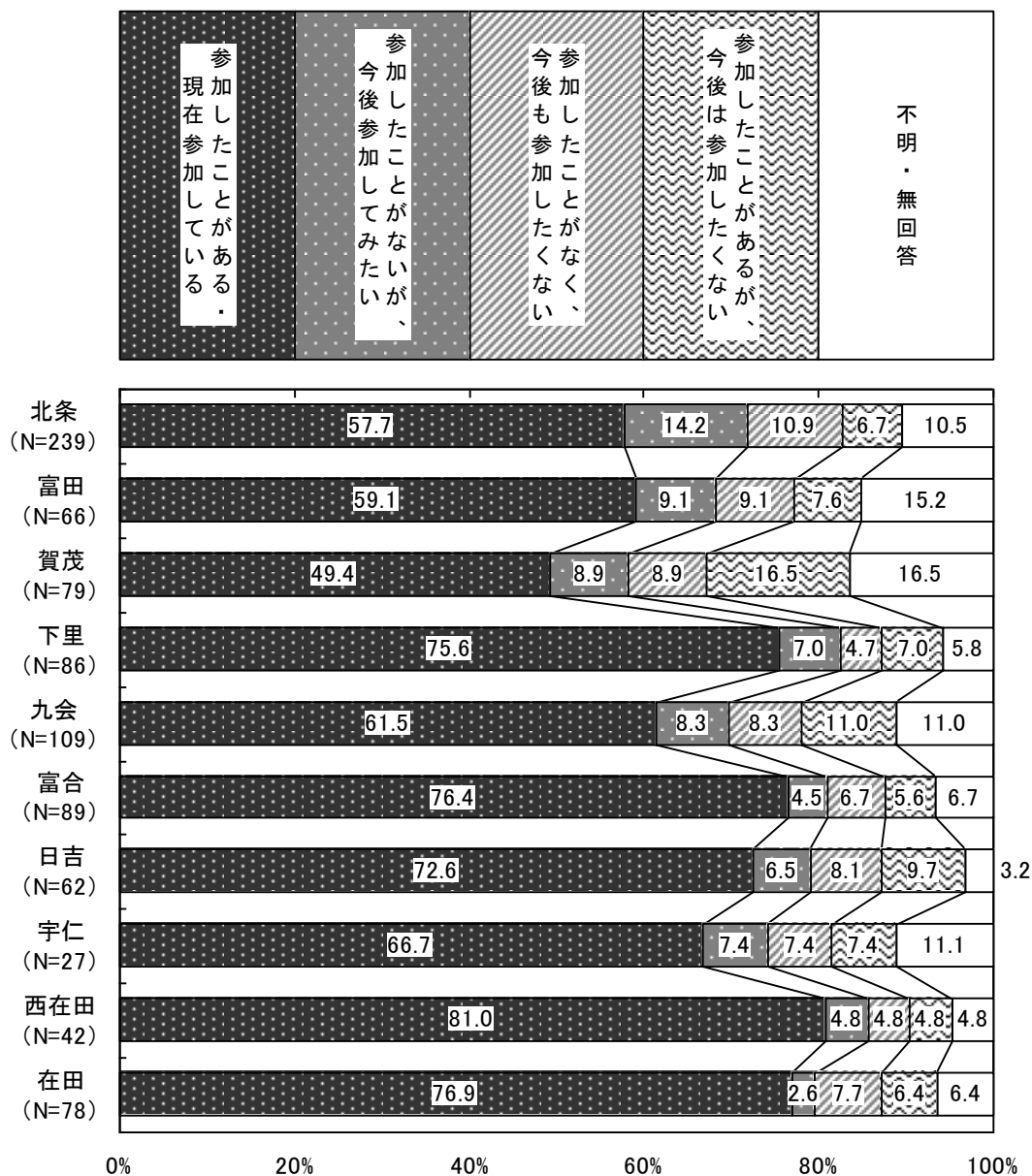
- 全体でみると、「参加したことがある・現在参加している」は65.2%となっています。
- 性別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は男性（68.8%）が女性（62.6%）より高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代は「参加したことがある・現在参加している」が26.2%、「参加したことがないが、今後参加してみたい」が26.2%と参加の意思が他に比べて低くなっています。
- 就労状況別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は就労者（69.1%）が未就労者（58.9%）より高くなっています。



西在田地区は活動への参加が8割と高いのに対し、賀茂地区は5割と低くなっている。

- 地区別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は「西在田」(81.0%)が最も高く、以下「在田」(76.9%)、「富合」(76.4%)、「下里」(75.6%)、「日吉」(72.6%)となっています。一方、「賀茂」は49.4%と最も低く、「参加したことがあるが、今後は参加したくない」が16.5%と他の地区に比べて高くなっています。

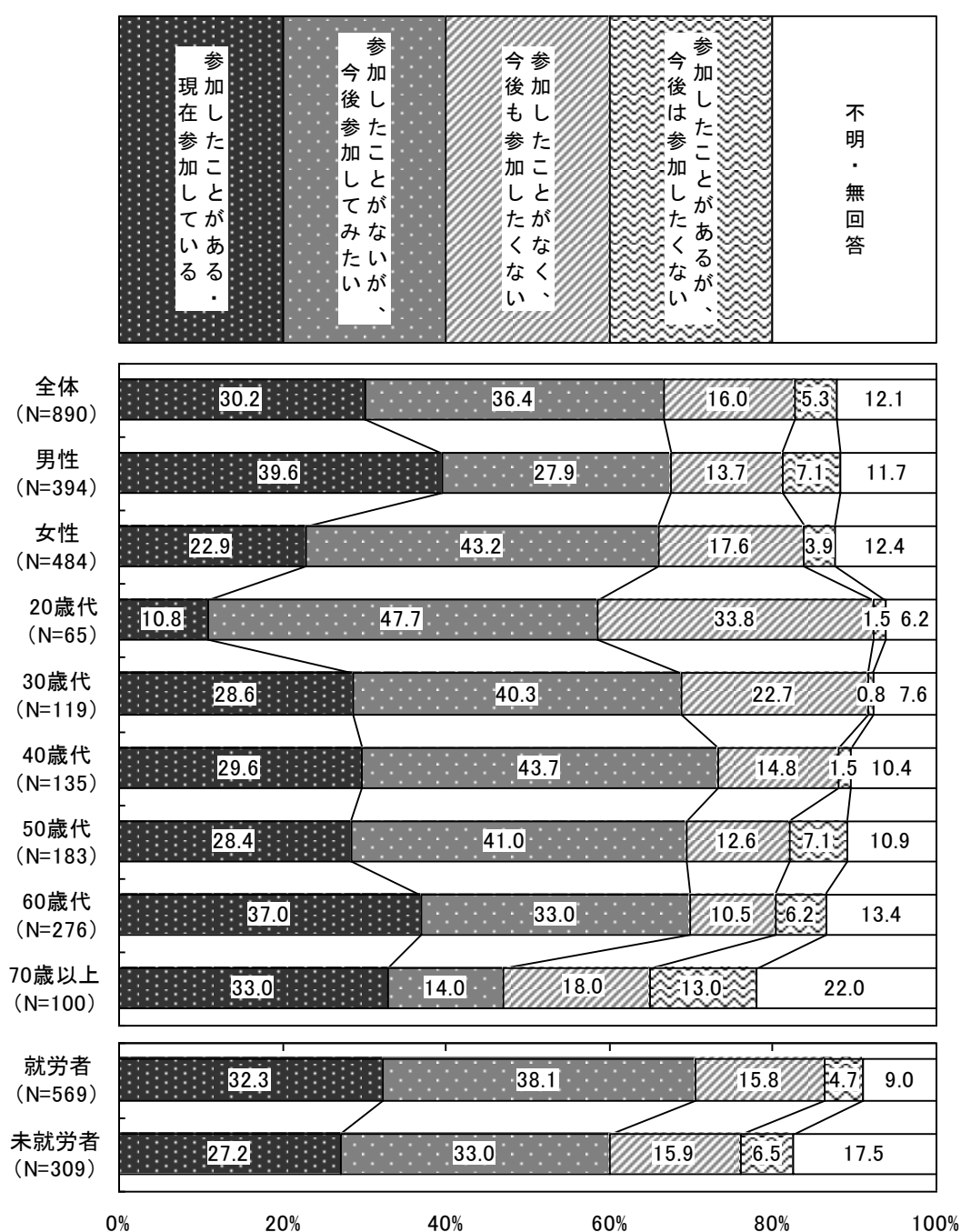
〔地区別〕



② 自主防災活動や災害援助活動【参加状況】

活動への参加は3割程度となっているが、参加意向は6割以上となっている。

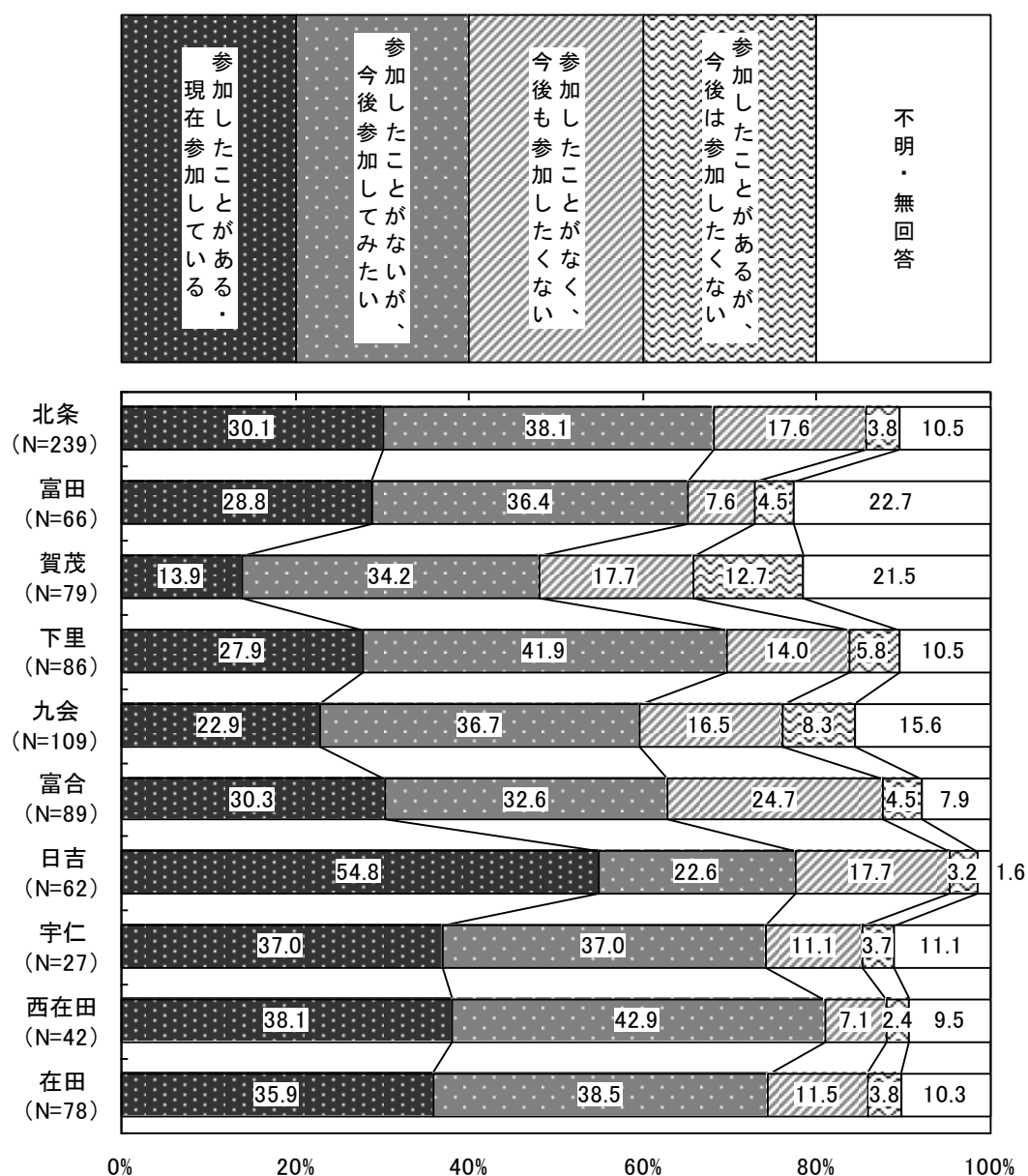
- 全体でみると、「参加したことがある・現在参加している」は30.2%、「参加したことがないが、今後参加してみたい」が36.4%となっています。
- 性別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は男性(39.6%)が女性(22.9%)より高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代は「参加したことがある・現在参加している」が10.8%と特に低くなっています。また、「参加したことがなく、今後も参加したくない」が33.8%と高くなっています。
- 就労状況別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は就労者(32.3%)が未就労者(27.2%)より高くなっています。



日吉地区は活動への参加が5割と高いのに対し、賀茂地区は1割程度と低くなっている。

- 地区別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は「日吉」(54.8%) が特に高く、以下「西在田」(38.1%)、「宇仁」(37.0%)、「在田」(35.9%) となっています。一方、「賀茂」は13.9%と最も低くなっています。また、「富合」は「参加したことがなく、今後も参加したくない」が24.7%と他の地区に比べて高くなっています。

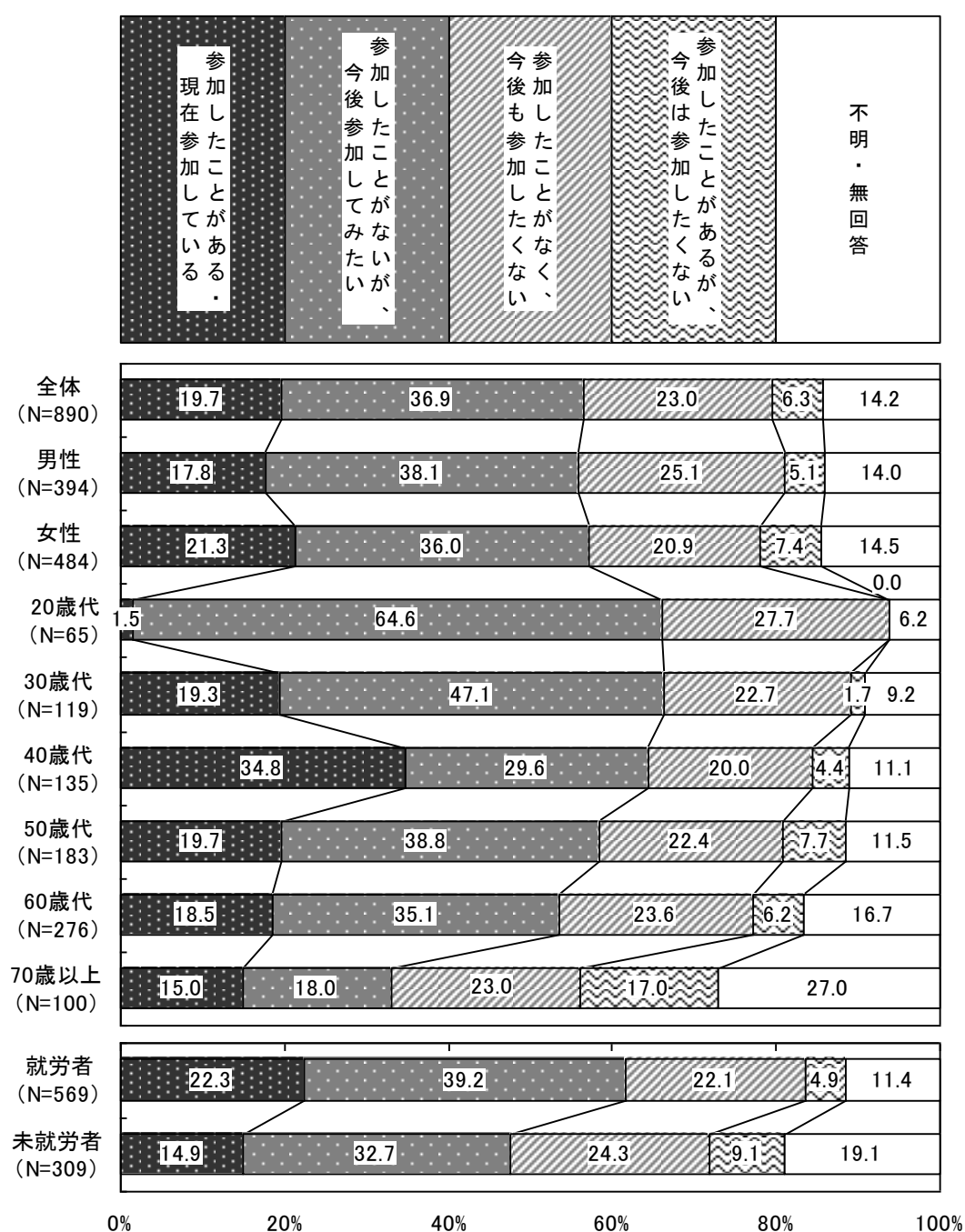
〔地区別〕



③ 子育て支援に関する活動【参加状況】

活動への参加は2割程度となっているが、参加意向は5割以上となっている。

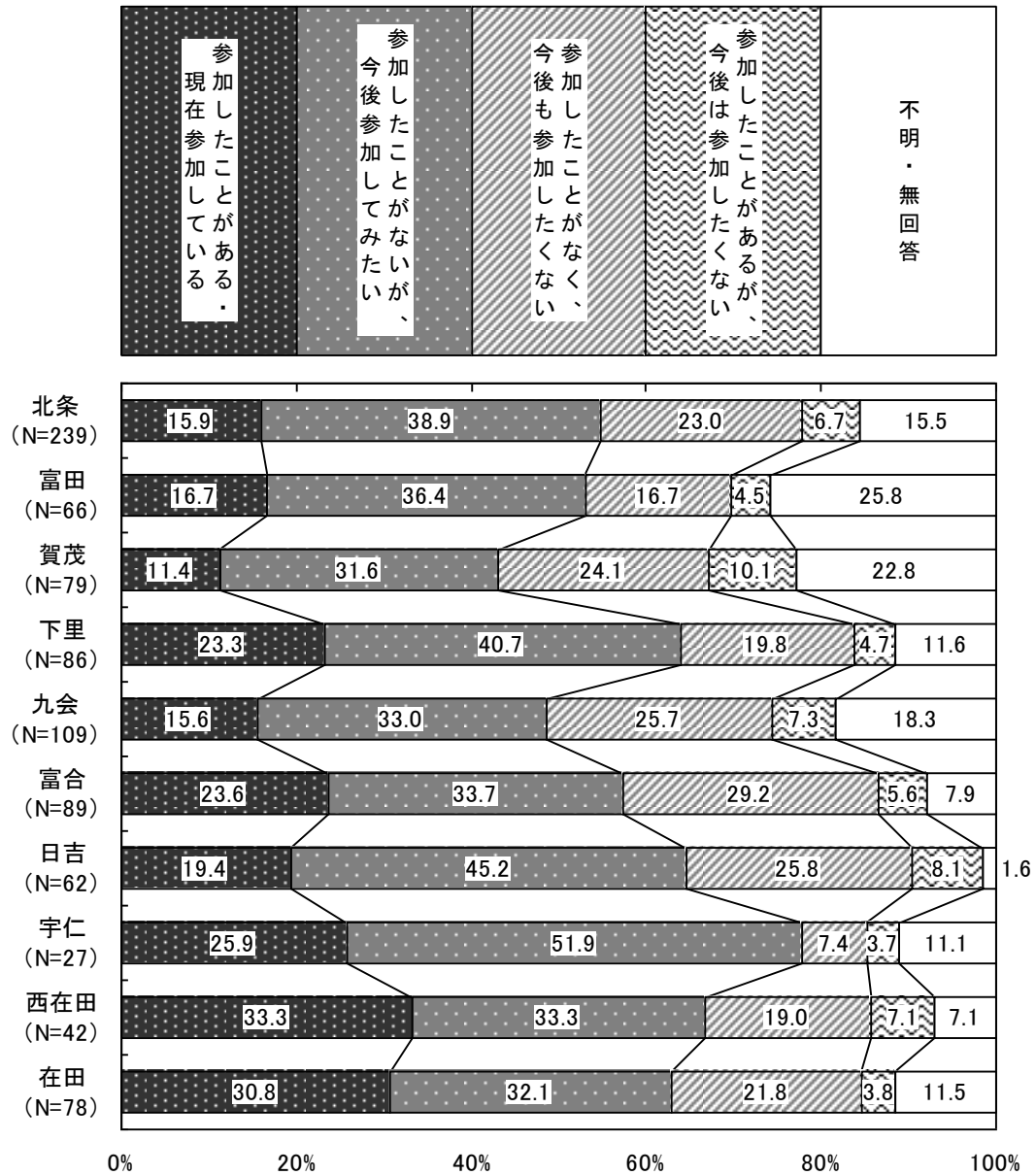
- 全体でみると、「参加したことがある・現在参加している」は19.7%と低く、「参加したことがないが、今後参加してみたい」が36.9%となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 年齢別でみると、20歳代は「参加したことがある・現在参加している」が1.5%と極めて低くなっていますが、「参加したことがないが、今後参加してみたい」は64.6%と高くなっています。しかし、「参加したことがなく、今後も参加したくない」は27.7%と他の年代に比べて高くなっています。
- 就労状況別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は就労者（22.3%）が未就労者（14.9%）より高くなっています。



参加意向は宇仁地区が7割以上と高くなっている。

- 地区別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は「西在田」(33.3%)が最も高く、次いで「在田」(30.8%)となっています。また、「参加したことがないが、今後参加してみたい」は「宇仁」が51.9%と他の地区に比べて高くなっています。

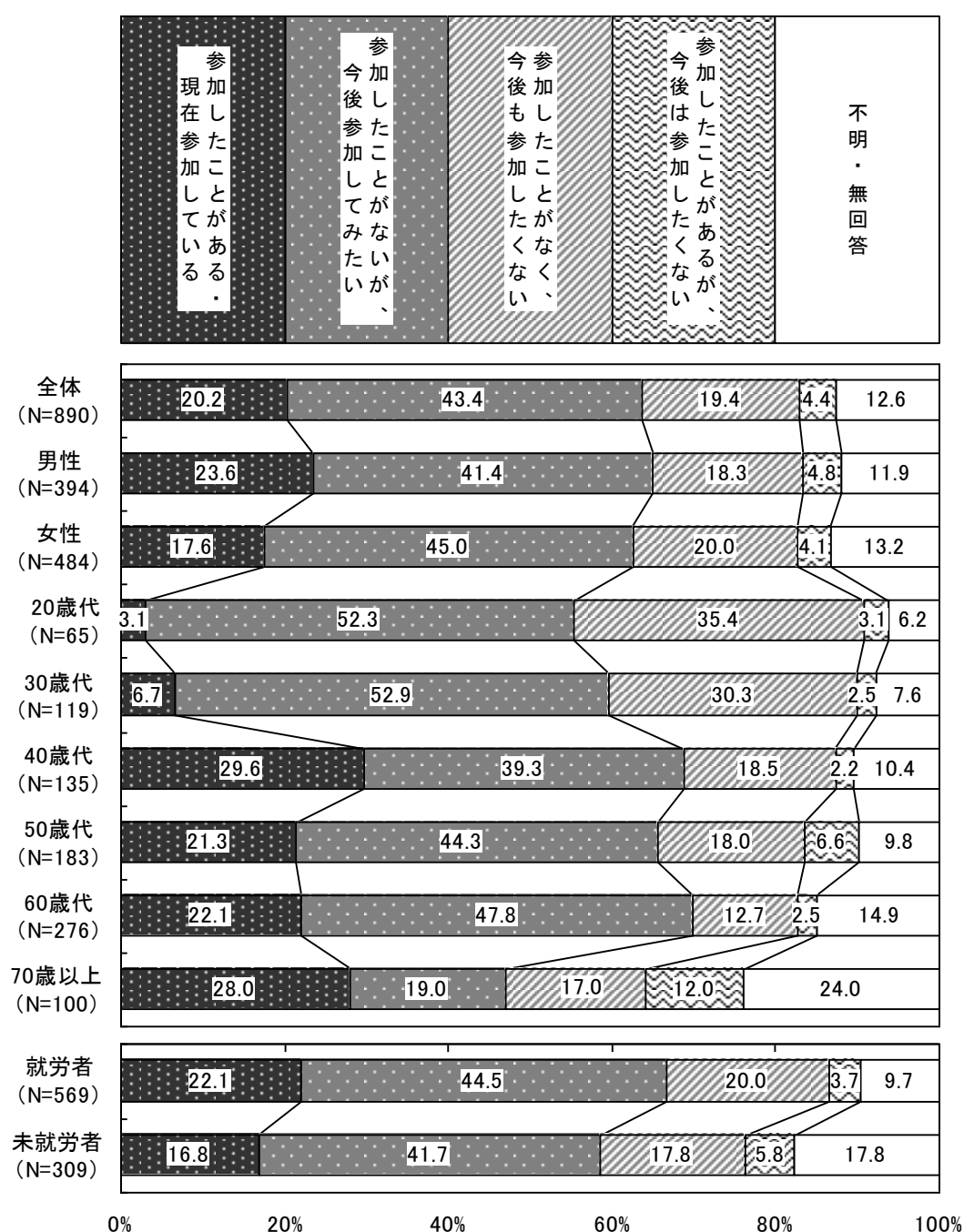
〔地区別〕



④ 自然・環境保護に関する活動【参加状況】

活動への参加は2割程度となっているが、参加意向は6割以上となっている。

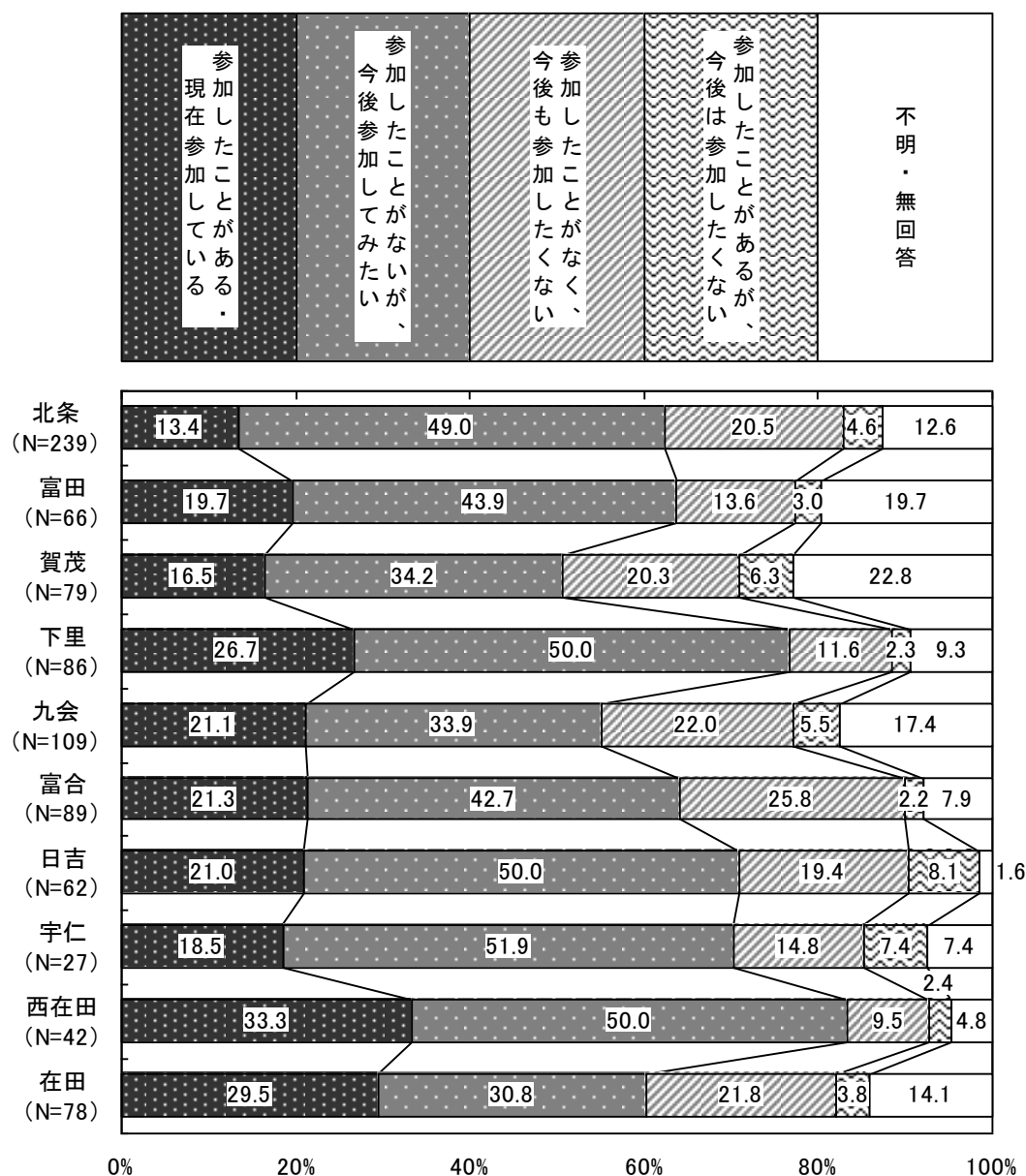
- 全体でみると、「参加したことがある・現在参加している」は20.2%と低く、「参加したことがないが、今後参加してみたい」が43.4%となっています。
- 性別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は男性（23.6%）が女性（17.6%）より高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代及び30歳代は「参加したことがある・現在参加している」が3.1%、6.7%と低くなっていますが、「参加したことがないが、今後参加してみたい」は52.3%、52.9%と高くなっています。しかし、「参加したことがなく、今後参加したくない」は35.4%、30.3%と他の年代に比べて高くなっています。
- 就労状況別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は就労者（22.1%）が未就労者（16.8%）より高くなっています。



参加意向は西在田・下里・日吉・宇仁地区が7割以上と高くなっている。

- 地区別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は「西在田」(33.3%)が最も高く、次いで「在田」(29.5%)となっています。また、「参加したことがないが、今後参加してみたい」は「宇仁」が51.9%と最も高く、次いで「下里」、「日吉」、「西在田」がそれぞれ50.0%となっています。

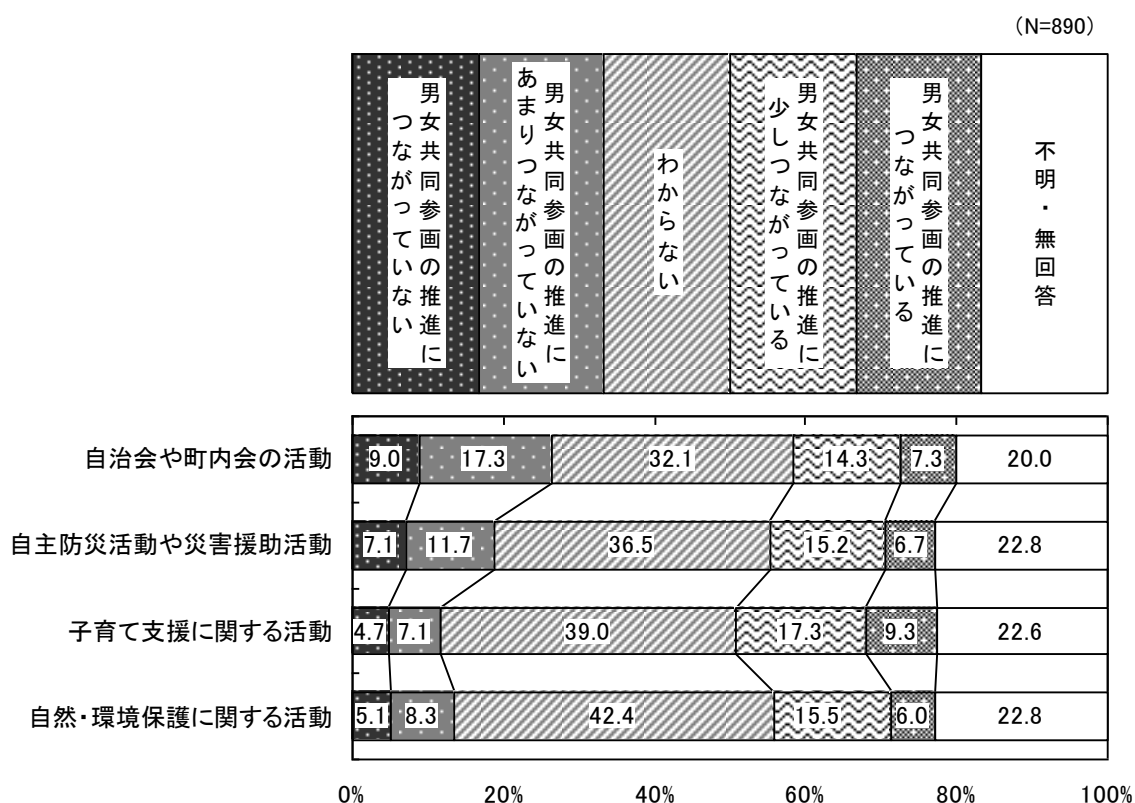
〔地区別〕



◎ 男女共同参画へのつながり

各活動が推進につながっているという回答は2割程度にとどまっている。

- 『男女共同参画の推進につながっていない』は「自治会や町内会の活動」が26.3%と最も高く、次いで「自主防災活動や災害援助活動」が18.8%となっています。一方、『男女共同参画の推進につながっている』は「子育てや支援に関する活動」が26.6%と最も高く、他も2割強となっています。但し、「わからない」、「不明・無回答」が5割以上となっていることを考慮にいれる必要があります。

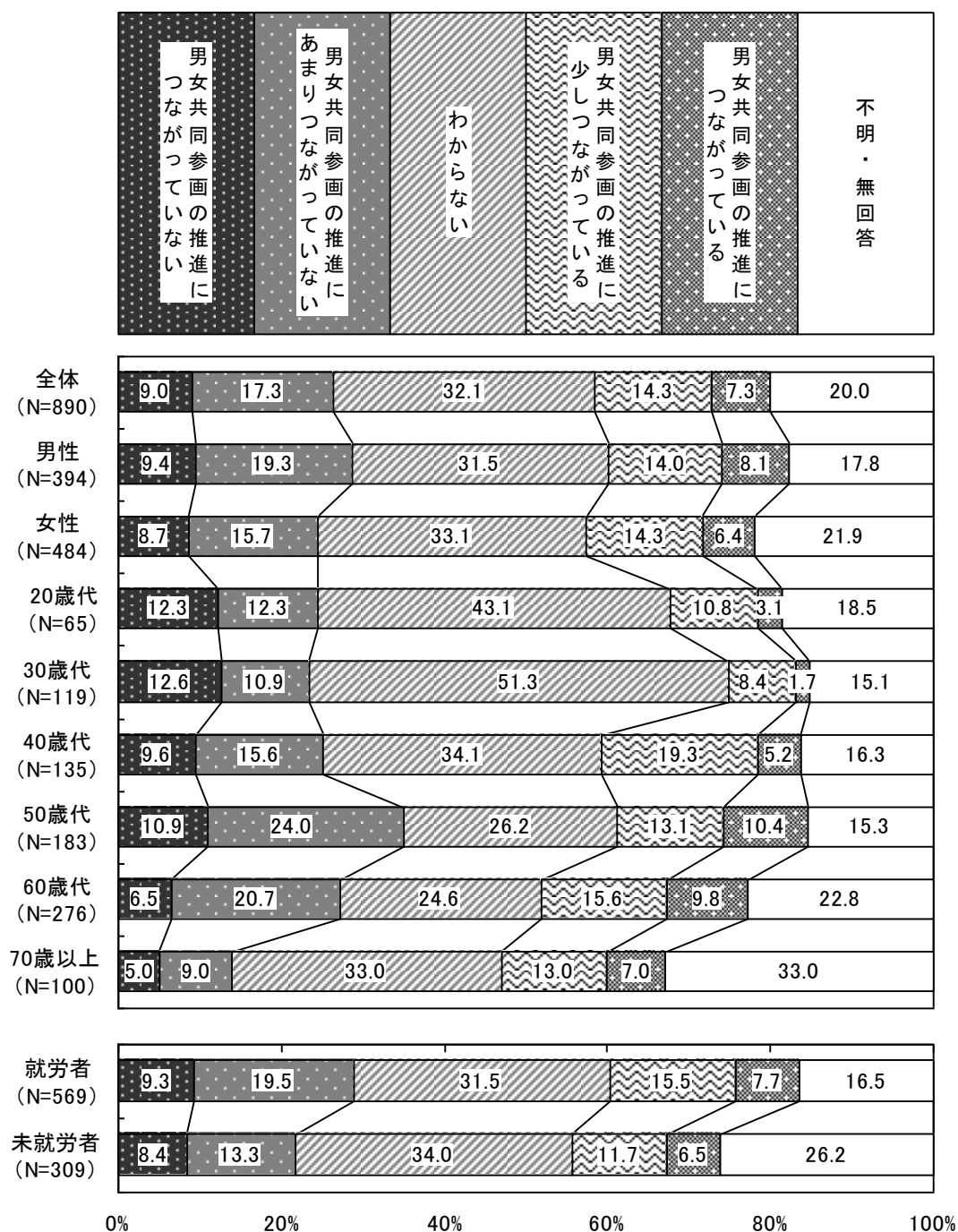


※『男女共同参画の推進につながっていない』は、本来の選択肢の「男女共同参画の推進につながっていない」と「男女共同参画の推進にあまりつながっていない」の割合を合計したものです。『男女共同参画の推進につながっている』は、本来の選択肢の「男女共同参画の推進につながっている」と「男女共同参画の推進に少しつながっている」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

① 自治会や町内会の活動【男女共同参画へのつながり】

つながりの有無はともに2割程度となっており、『つながっていない』がやや上回っている。

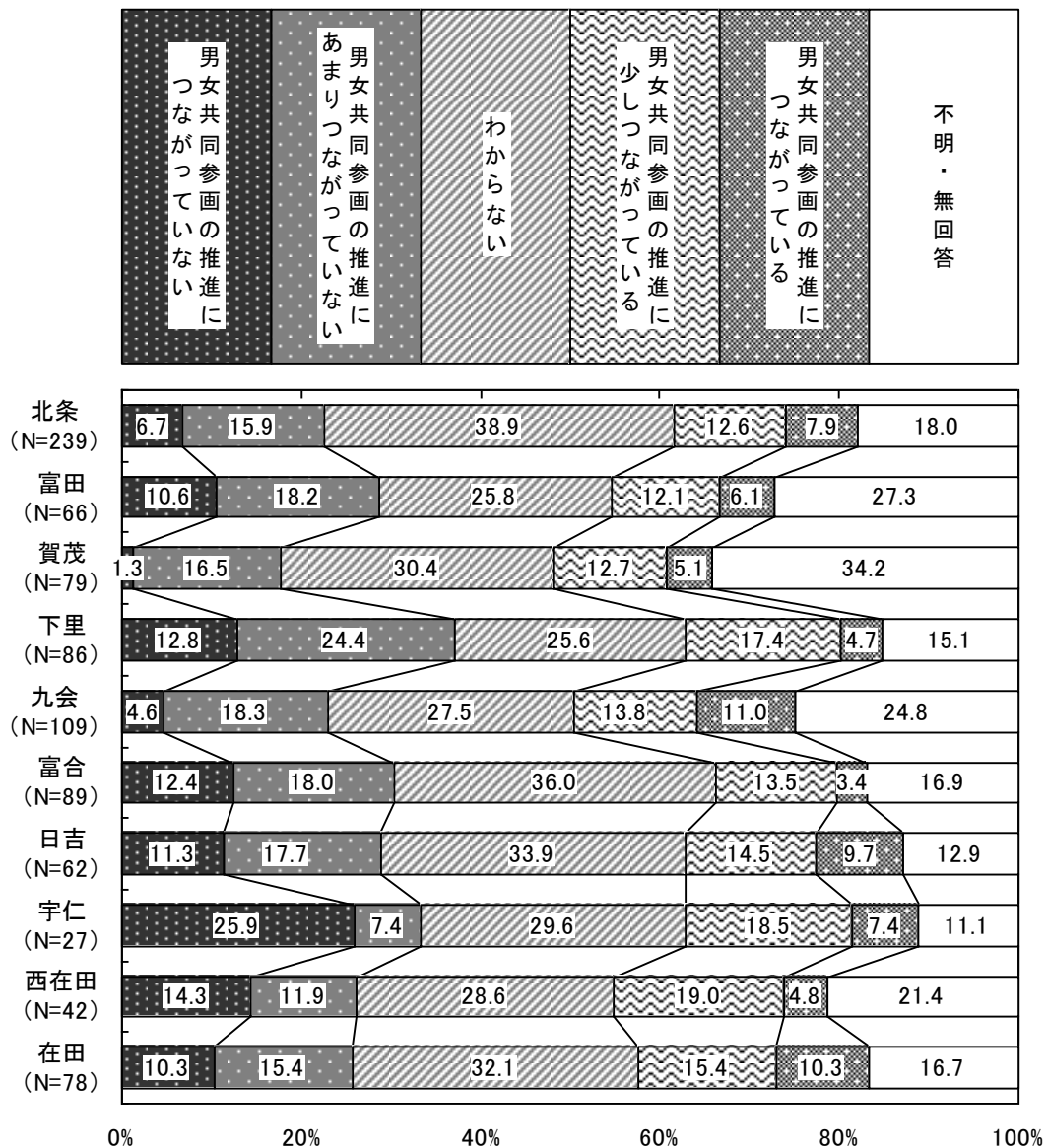
- 全体でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』が26.3%、『男女共同参画の推進につながっている』が21.6%、「わからない」が32.1%となっています。
- 性別でみると、男性は『つながっていない』が28.7%で、女性（24.4%）より4.3ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』は50歳代が34.9%と最も高くなっています。また、20歳代及び30歳代は「わからない」が43.1%、51.3%と高くなっています。
- 就労状況別では、目立った差異はみうけられません。



下里地区は『つながっていない』が4割程度で高くなっている。

- 地区別でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』は「下里」(37.2%)が最も高く、次いで「宇仁」(33.3%)となっています。一方、『男女共同参画の推進につながっている』は「宇仁」が25.9%と最も高く、次いで「在田」が25.7%となっています。また、「北条」、「富合」は「わからない」(38.9%、36.0%)が高くなっています。「九会」は『男女共同参画の推進につながっている』(24.8%)が『男女共同参画の推進につながっていない』(22.9%)を上回っています。但し、「賀茂」を中心に「不明・無回答」が高いことを考慮に入れる必要があります。

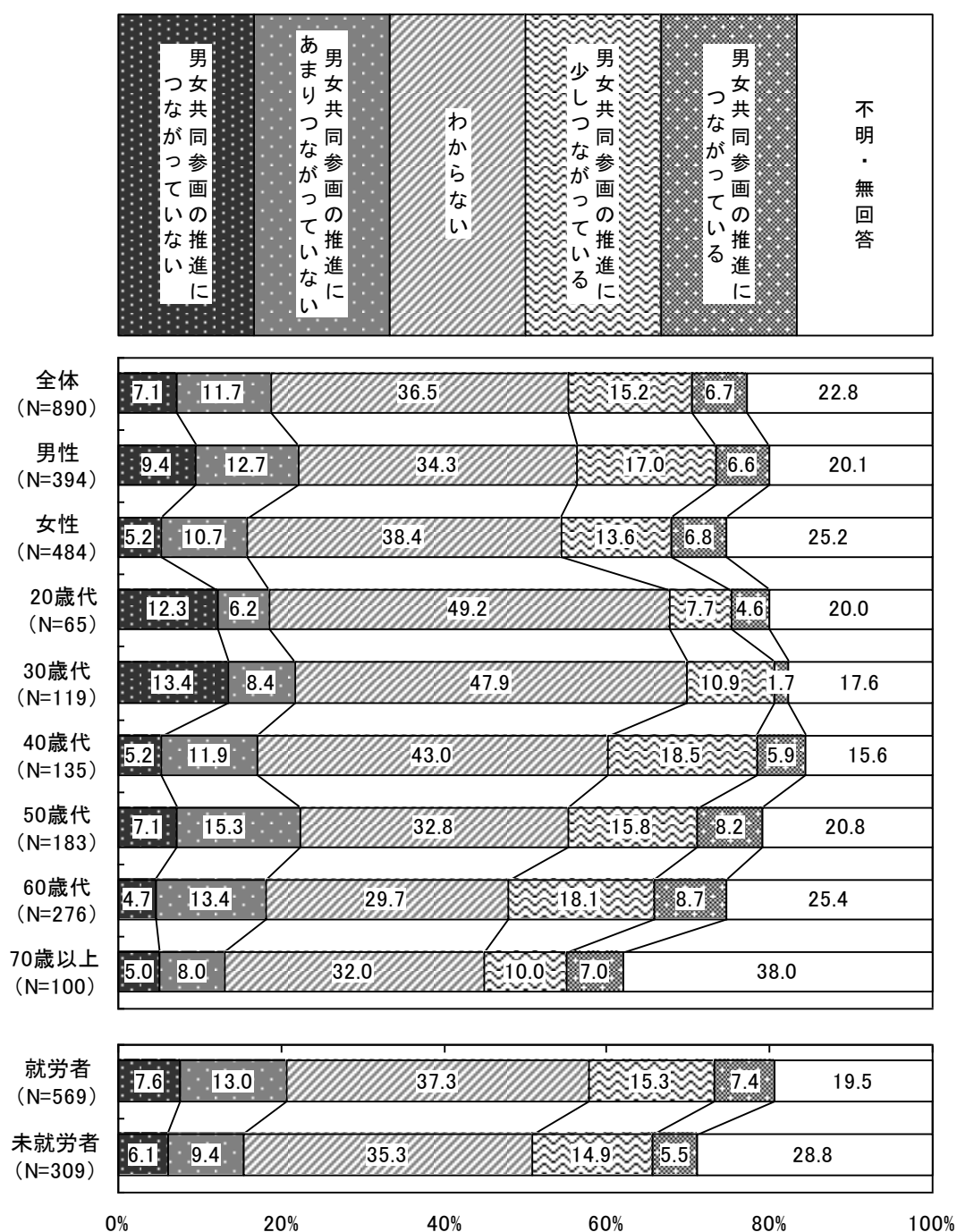
〔地区別〕



② 自主防災活動や災害援助活動【男女共同参画へのつながり】

つながりの有無はともに2割前後となっており、『つながっている』がやや上回っている。

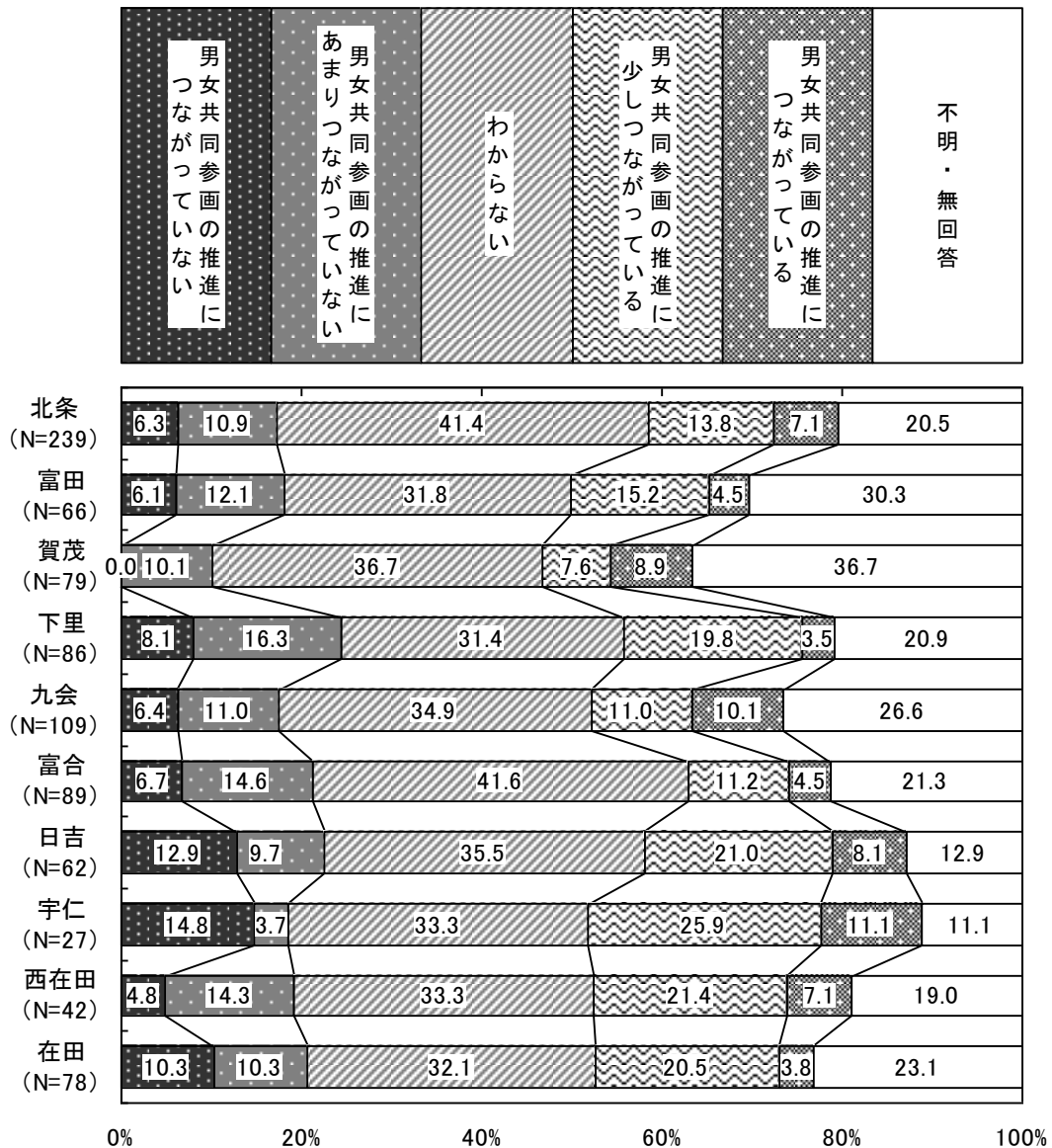
- 全体でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』が18.8%、『男女共同参画の推進につながっている』が21.9%、「わからない」が36.5%となっています。
- 性別でみると、男性は『男女共同参画の推進につながっていない』が22.1%で、女性（15.9%）より6.2ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』は50歳代（22.4%）が最も高く、『男女共同参画の推進につながっている』は60歳代（26.8%）が最も高くなっています。また、20歳代及び30歳代は「わからない」が49.2%、47.9%と他の年代に比べて高くなっています。
- 就労状況別では、目立った差異はみうけられません。但し、未就労者の「不明・無回答」が多いことを考慮にいれる必要があります。



宇仁地区は『つながっている』が4割程度で高くなっている。

- 地区別でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』は「下里」（24.4％）が最も高く、次いで「日吉」（22.6％）となっています。一方、『男女共同参画の推進につながっている』は「宇仁」が37.0％と最も高く、次いで「日吉」が29.1％となっています。また、「北条」、「富合」は「わからない」（41.4％、41.6％）が高くなっています。但し、「賀茂」を中心に「不明・無回答」が高いことも考慮にいれる必要があります。

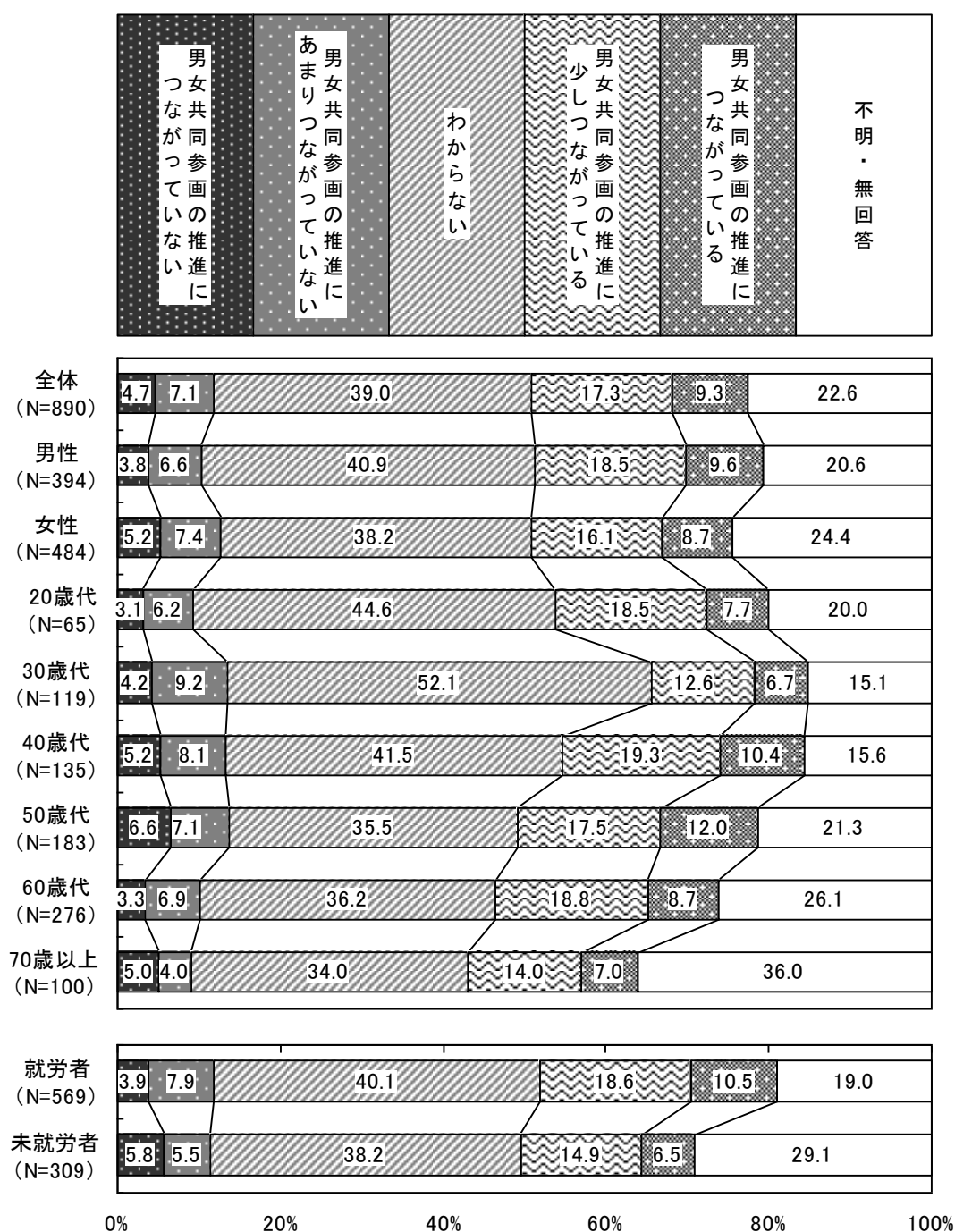
〔地区別〕



③ 子育て支援に関する活動【男女共同参画へのつながり】

『つながっている』が3割程度、『つながっていない』が1割程度となっている。

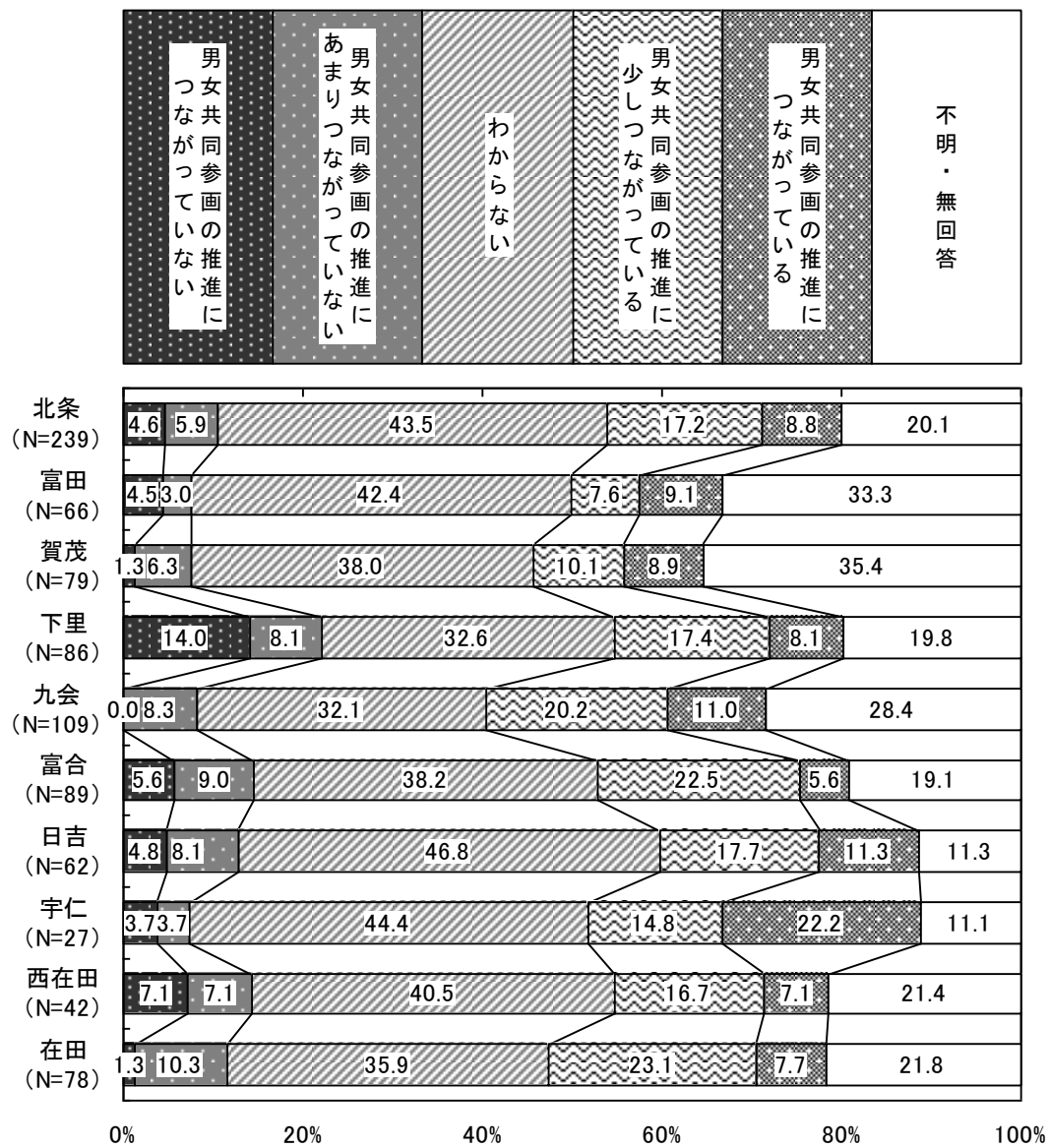
- 全体でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』が11.8%、『男女共同参画の推進につながっている』が26.6%、「わからない」が39.0%となっています。
- 性別でみると、目立った差異はみうけられません。
- 年齢別でみると、30歳代及び70歳以上を除く全ての年代で『男女共同参画の推進につながっている』が3割程度となっています。30歳代は「わからない」が52.1%と高くなっています。
- 就労別でみると、就労者は『男女共同参画の推進につながっている』が29.1%と、未就労者（21.4%）より高くなっています。



宇仁地区は『つながっている』が4割程度と高くなっている。

- 地区別でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』は「下里」（22.1%）が最も高くなっています。一方、『男女共同参画の推進につながっている』は「宇仁」が37.0%と最も高く、次いで「九会」が31.2%となっています。但し、「富田」、「賀茂」を中心に「不明・無回答」が高いことを考慮にいれる必要があります。

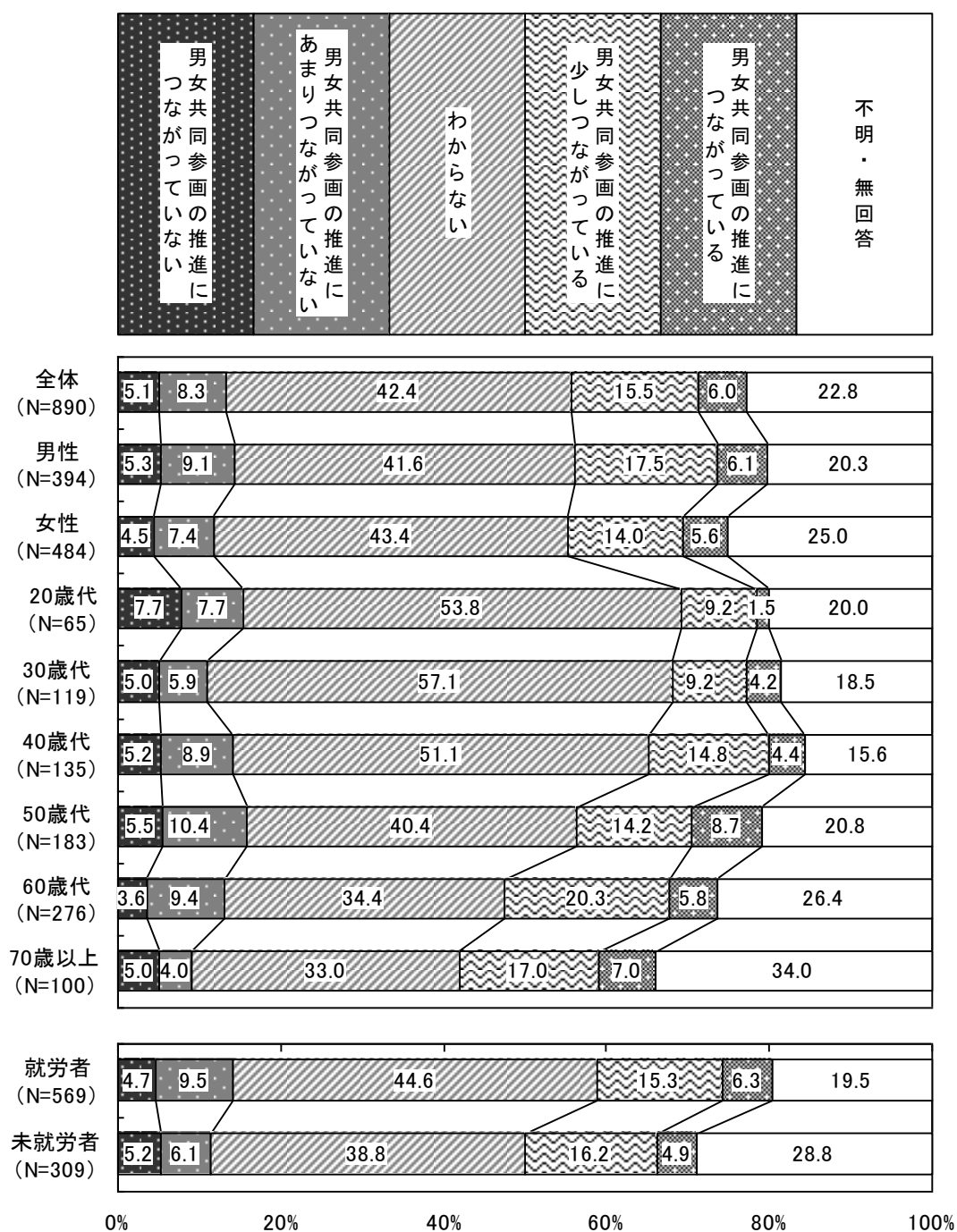
〔地区別〕



④ 自然・環境保護に関する活動【男女共同参画へのつながり】

『つながっている』が2割程度、『つながっていない』が1割程度となっている。

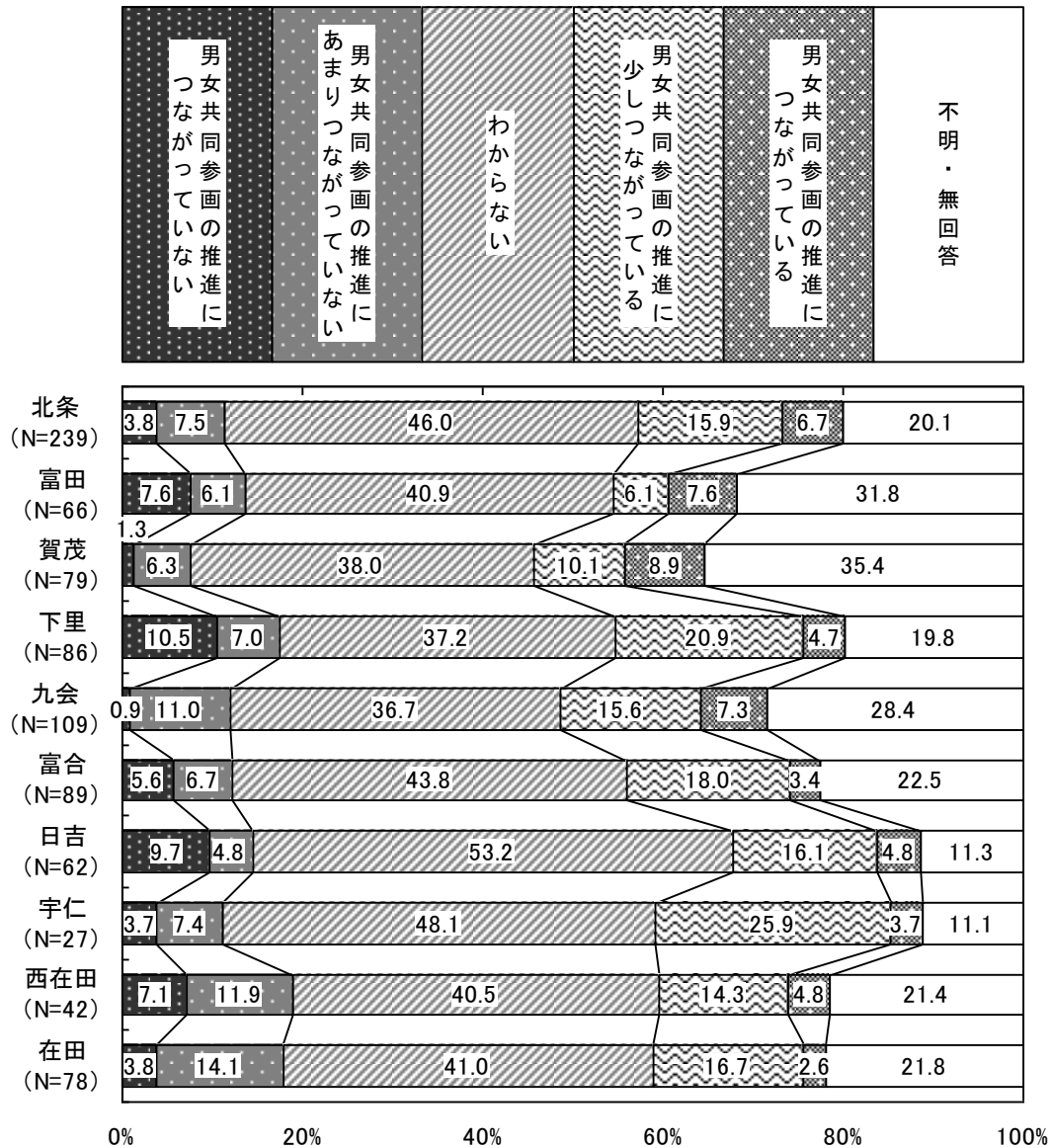
- 全体でみると、『男女共同参画の推進につながっていない』が13.4%、『男女共同参画の推進につながっている』が21.5%、「わからない」が42.4%となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 年齢別でみると、『男女共同参画の推進につながっている』は60歳代が26.1%と最も高くなっています。また、20歳代、30歳代、40歳代は「わからない」が5割以上となっています。
- 就労状況別では、目立った差異はみうけられません。



宇仁地区は『つながっている』が3割程度と高くなっている。

- 地区別でみると、『男女共同参画の推進につながっている』は「宇仁」が29.6%と最も高くなっています。但し、「富田」、「賀茂」、を中心に「不明・無回答」が高いことを考慮に入れる必要があります。

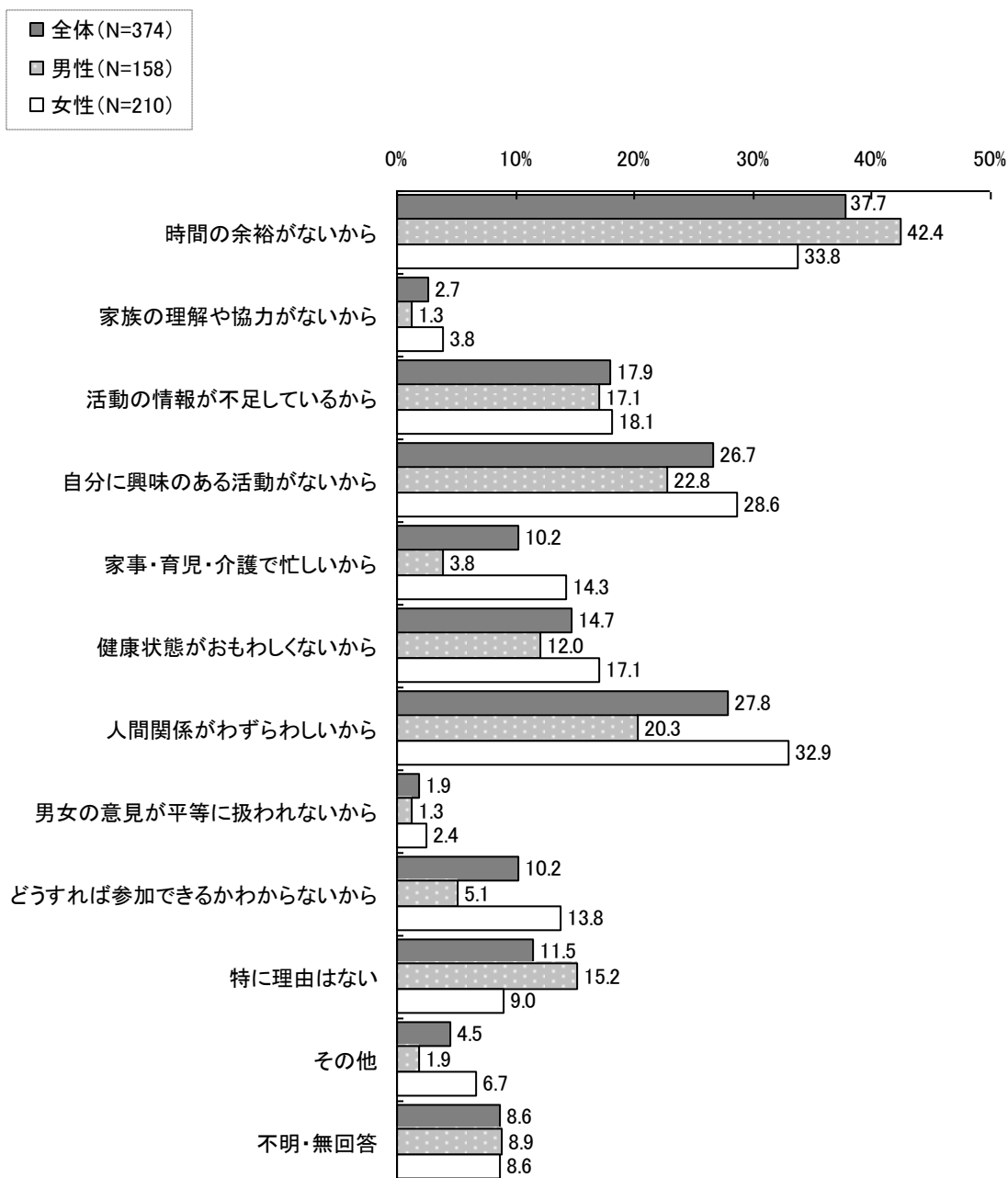
〔地区別〕



問6-1 問6の参加状況で「3. 参加したことがなく、今後も参加したくない」「4. 参加したことがあるが、今後は参加したくない」とお答えの方におうかがいします。
あなたが参加したことがない・参加したくない理由に近いものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「時間に余裕がないから」が最も高くなっている。

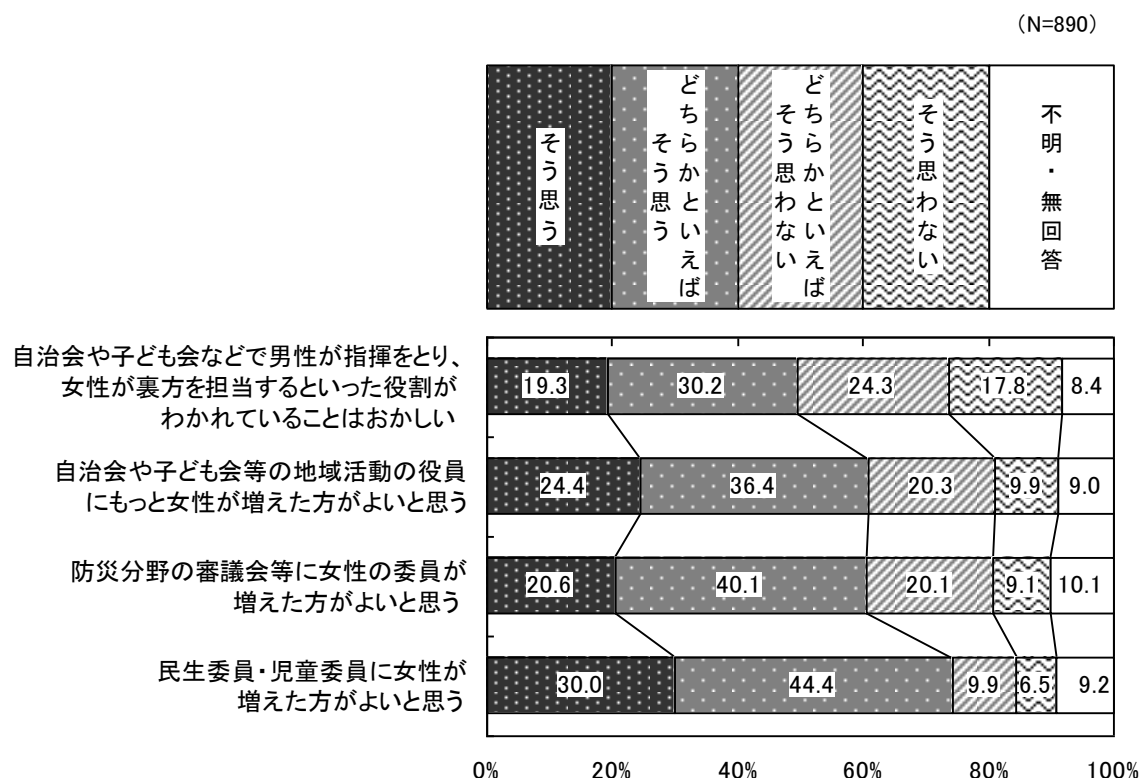
- 全体でみると、「時間に余裕がないから」が37.7%と最も高く、以下「人間関係がわずらわしいから」(27.8%)、「自分に興味のある活動がないから」(26.7%)となっています。
- 性別でみると、男性は「時間に余裕がないから」(42.4%)が特に高くなっています。女性は「時間に余裕がないから」(33.8%)が最も高く、次いで「人間関係がわずらわしいから」(32.9%)となっています。



問7 地域・社会活動を行う上であなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

地域・社会活動において、女性の参加・参画を望む回答が6割程度となっている。

- 『そう思う』は「民生委員・児童委員に女性が増えた方がよいと思う」が74.4%と最も高く、以下「自治会や子ども会等の地域活動の役員にもっと女性が増えた方がよいと思う」(60.8%)、「防災分野の審議会等に女性の委員が増えた方がよいと思う」(60.7%)となっています。一方、「自治会や子ども会などで男性が指揮をとり、女性が裏方を担当するといった役割がわかれていることはおかしい」は、『そう思う』、『そう思わない』ともに5割に満たない状況となっています。

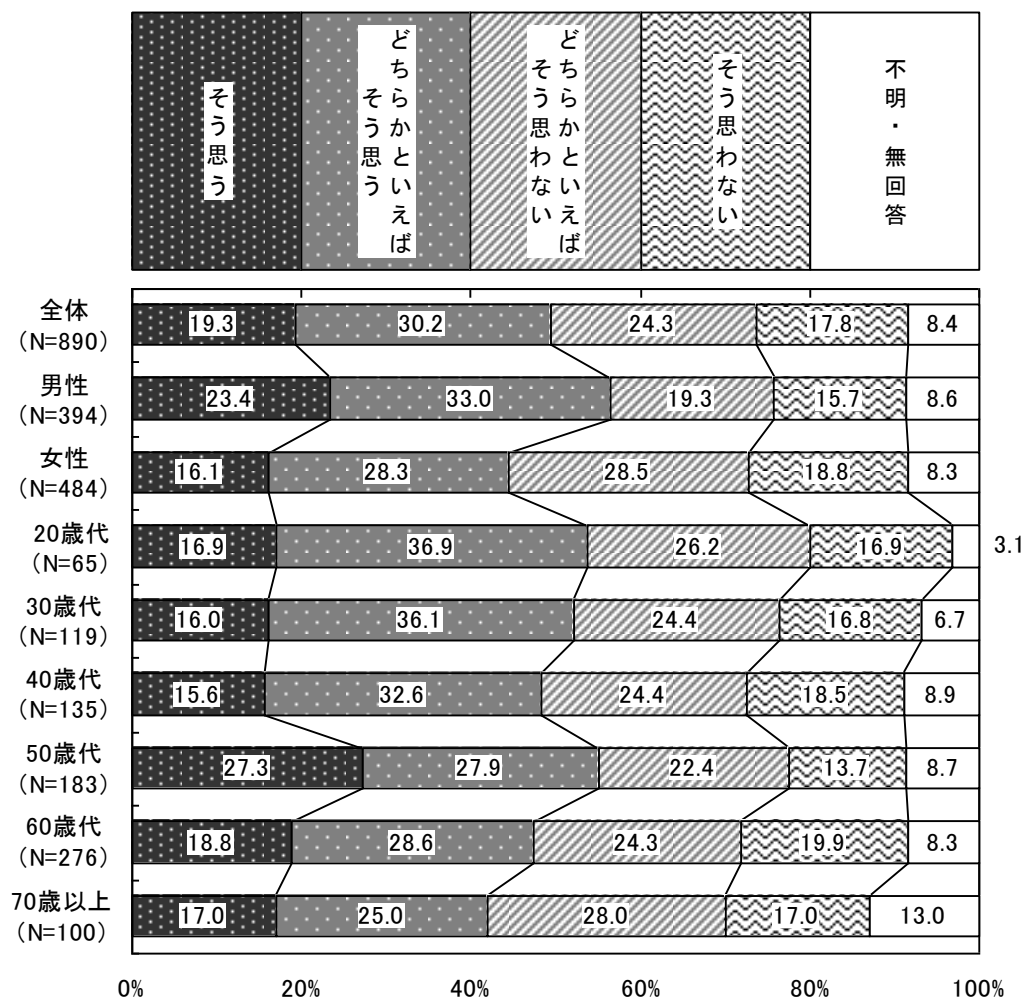


※『そう思う』は、本来の選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を合計したものです。『そう思わない』は、本来の選択肢の「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

① 自治会や子ども会などで男性が指揮をとり、女性が裏方を担当するといった役割がわかれていることはおかしい

『そう思う』は5割程度、『そう思わない』は4割程度となっている。

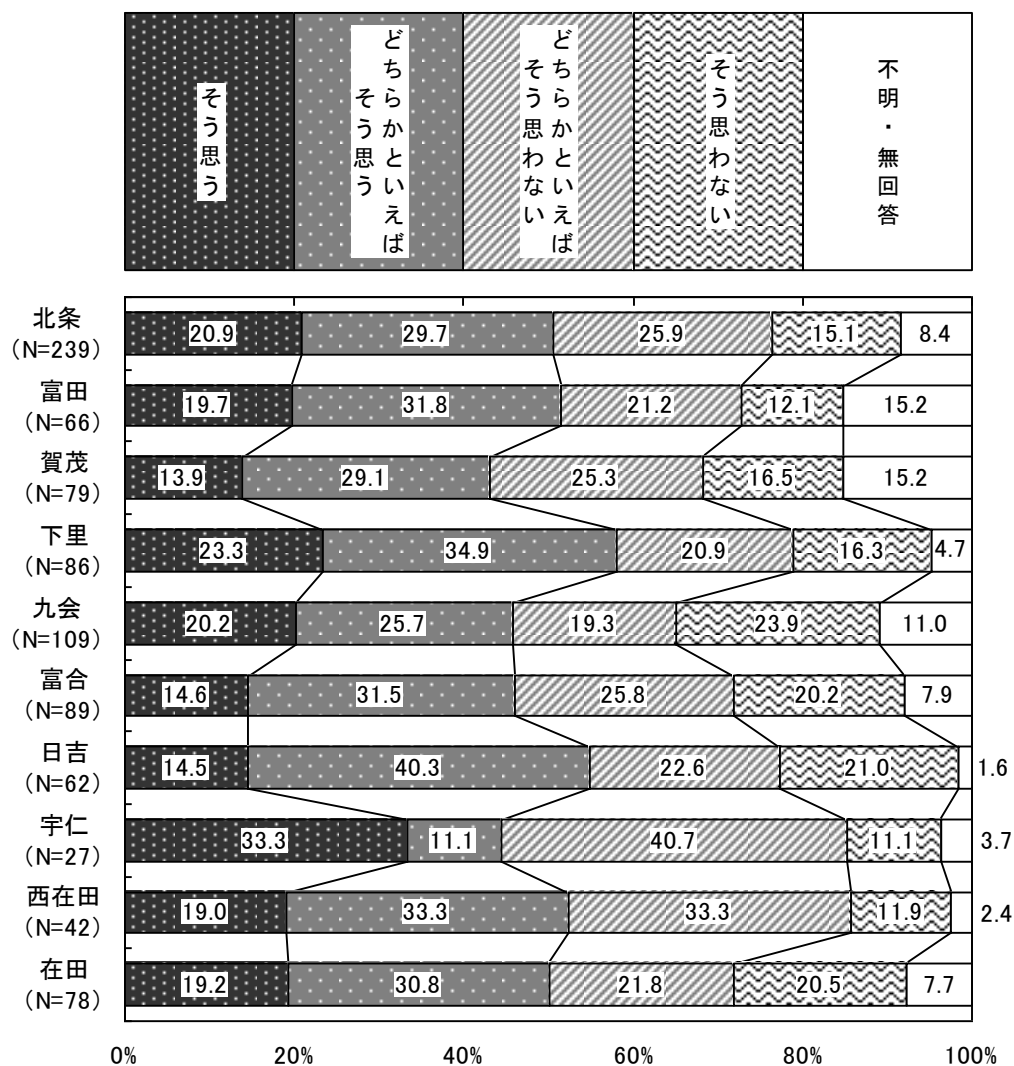
- 全体でみると、『そう思う』が49.5%、『そう思わない』が42.1%となっています。
- 性別でみると、男性は『そう思う』が56.4%と、女性（44.4%）より12.0ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、『そう思う』は50歳代が55.2%と最も高くなっています。



下里地区は『そう思う』が6割程度、宇仁地区は『そう思わない』が5割程度となっている。

- 地区別でみると、『そう思う』は「下里」が58.2%と最も高く、次いで「日吉」(54.8%)となっています。一方、『そう思わない』は「宇仁」が51.8%と最も高くなっています。

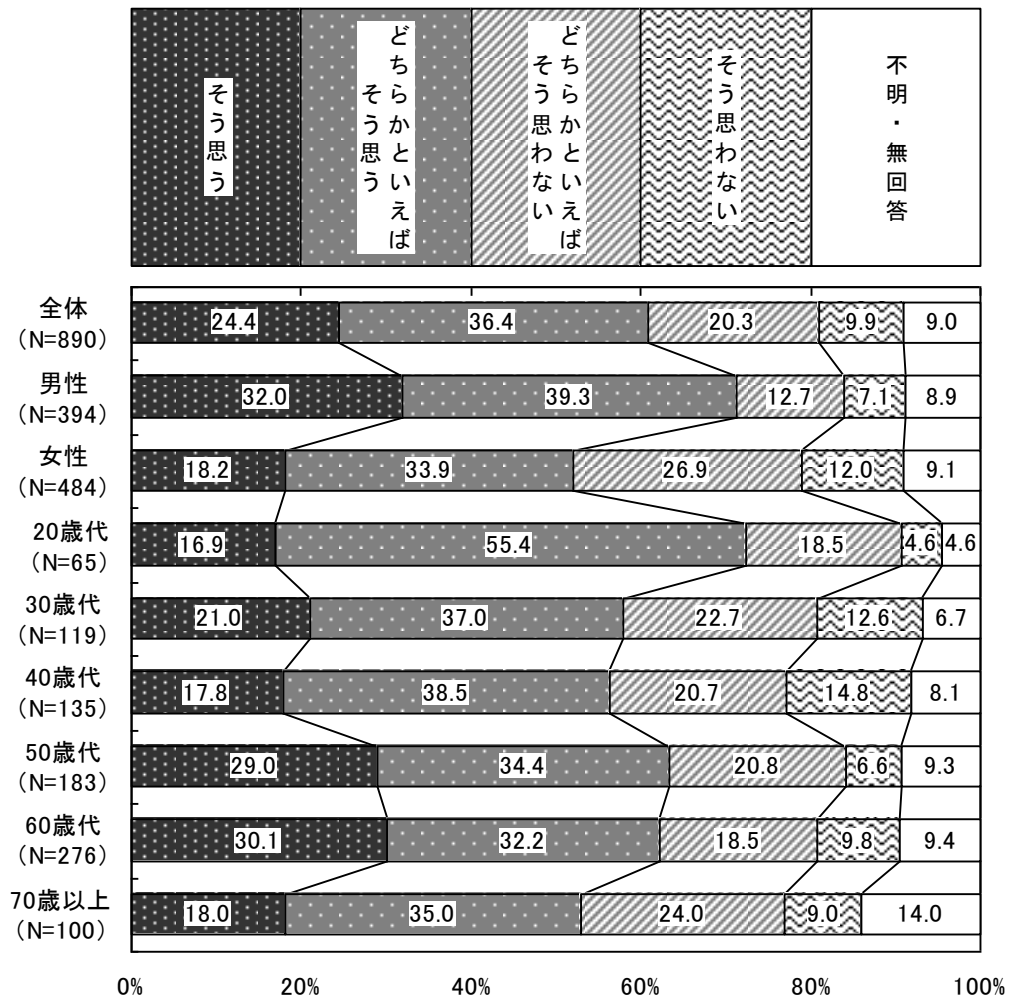
〔地区別〕



② 自治会や子ども会等の地域活動の役員にもっと女性が増えた方がよいと思う

『そう思う』が6割以上となっており、特に男性は7割以上と高くなっている。

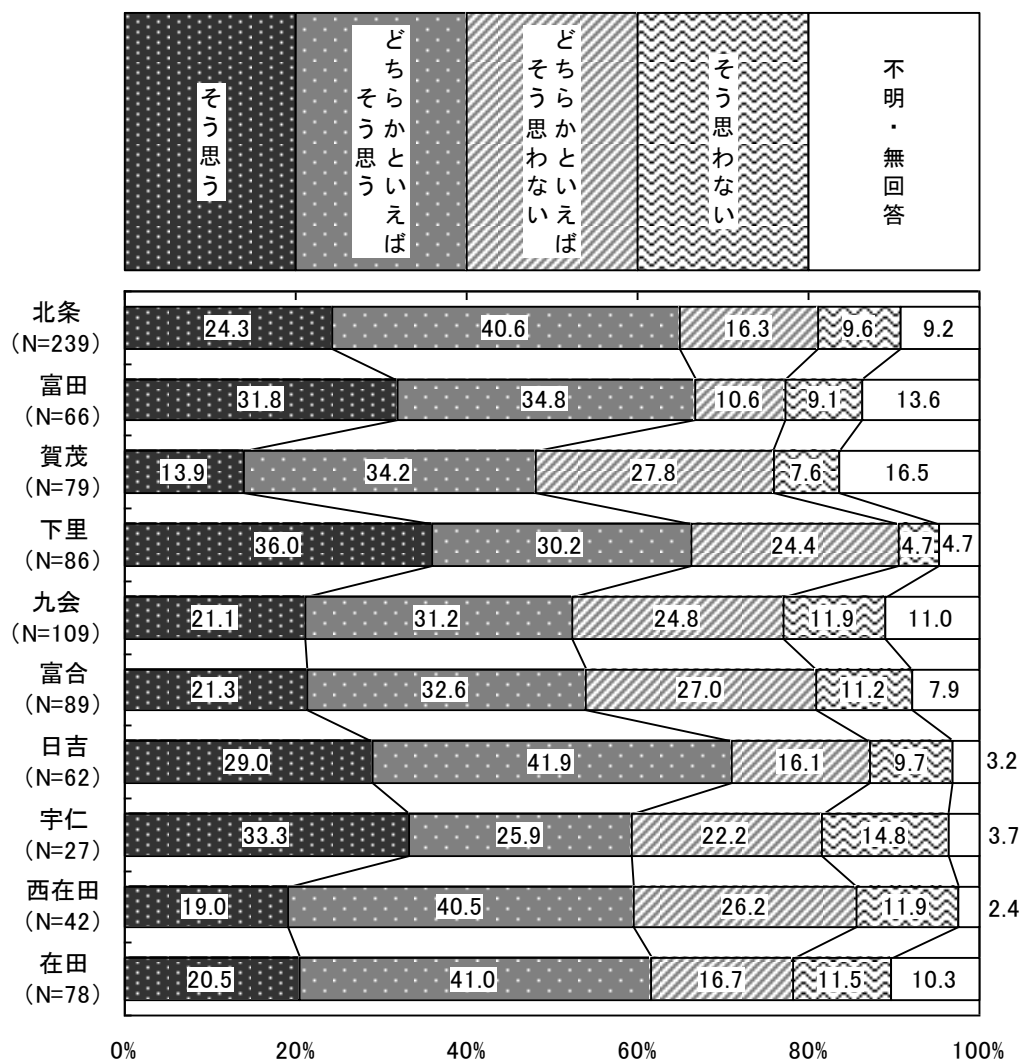
- 全体でみると、『そう思う』が60.8%、『そう思わない』が30.2%となっています。
- 性別でみると、男性は『そう思う』が71.3%と、女性（52.1%）より19.2ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、『そう思う』は20歳代が72.3%と最も高くなっています。



日吉・富田・下里地区は『そう思う』が7割程度と高くなっている。

- 地区別でみると、『そう思う』は「日吉」が 70.9%と最も高く、以下「富田」(66.6%)、「下里」(66.2%)、「北条」(64.9%) となっています。一方、『そう思わない』は「富合」が 38.2%と最も高く、次いで「西在田」(38.1%) となっています。

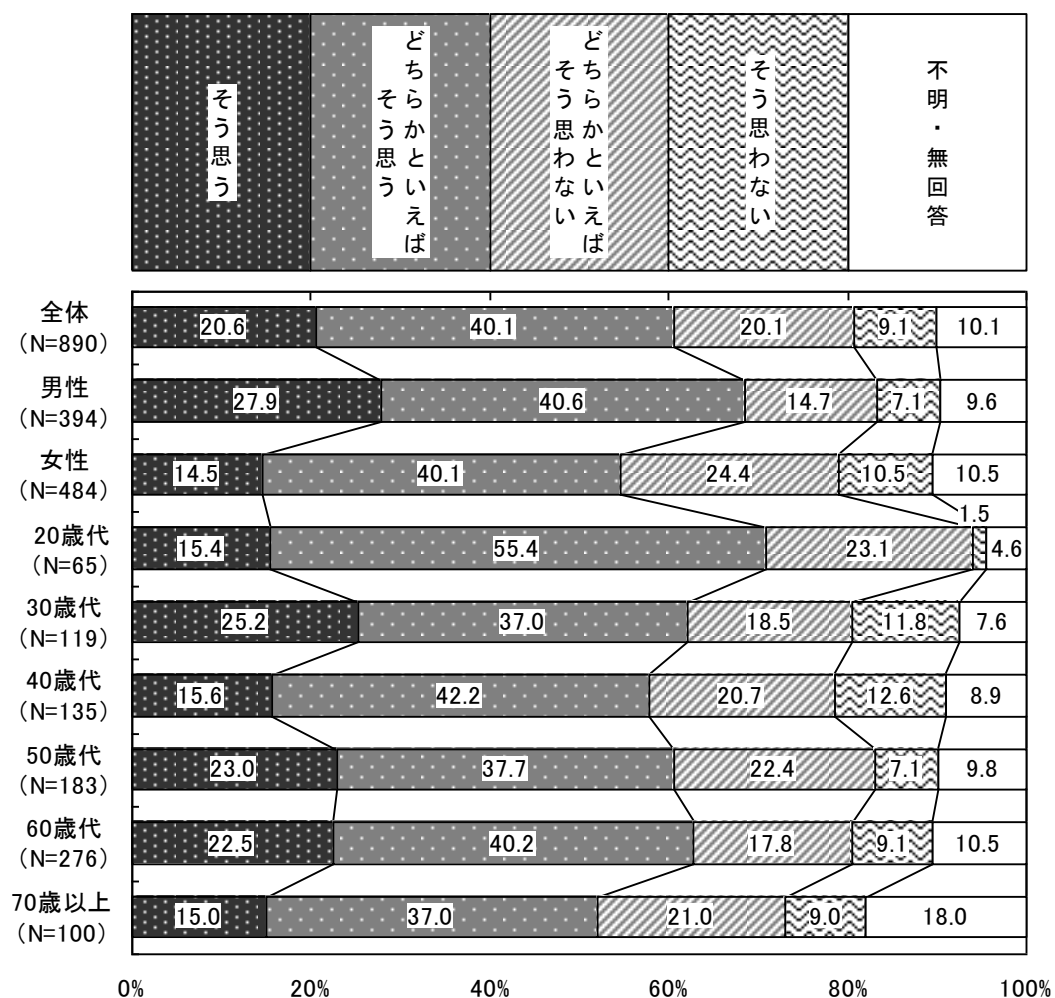
〔地区別〕



③ 防災分野の審議会等に女性の委員が増えた方がよいと思う

『そう思う』が6割程度となっており、特に男性は7割以上と高くなっている。

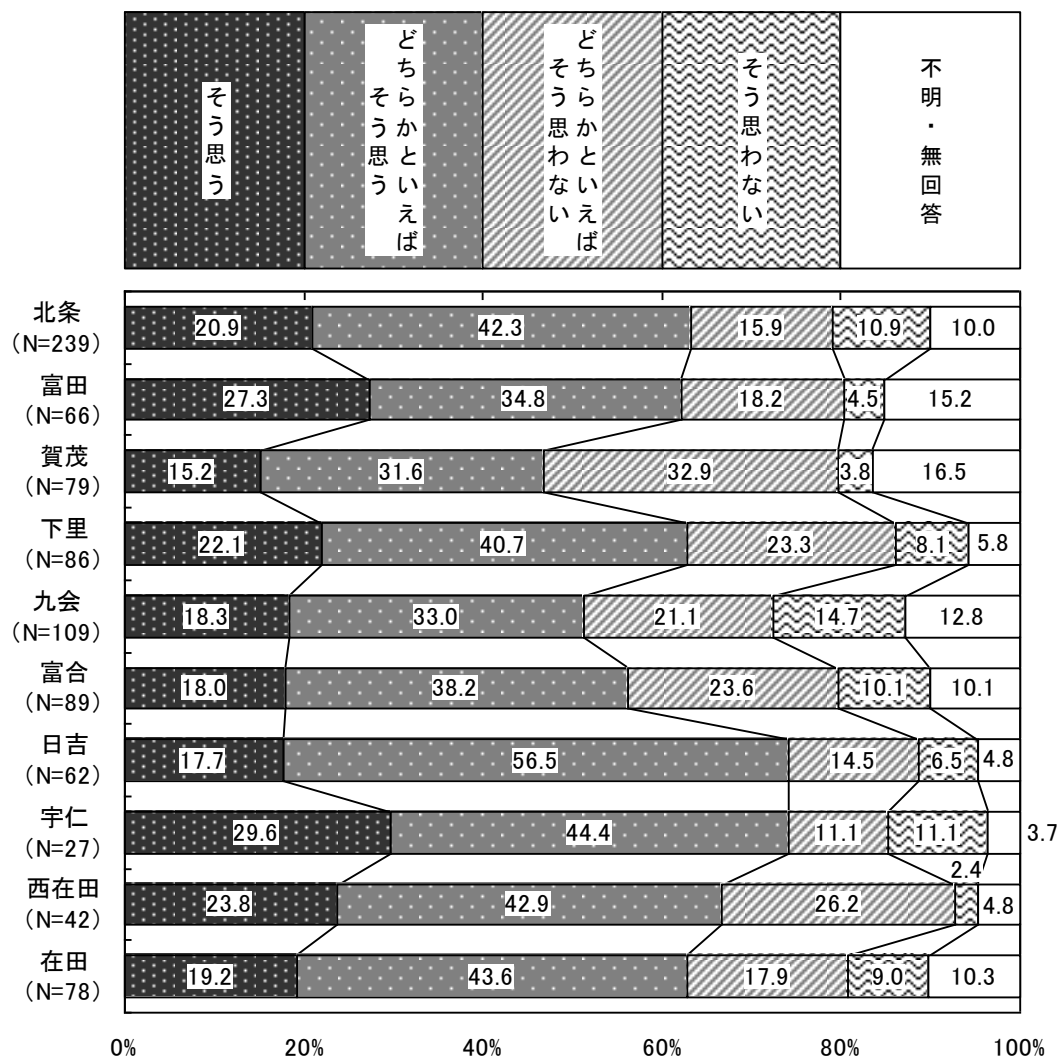
- 全体でみると、『そう思う』が60.7%、『そう思わない』が29.2%となっています。
- 性別でみると、男性は『そう思う』が68.5%と、女性（54.6%）より13.9ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、『そう思う』は20歳代が70.8%と最も高くなっています。



日吉・宇仁・西在田地区は『そう思う』が7割程度と高くなっている。

- 地区別でみると、『そう思う』は「日吉」が74.2%と最も高く、以下「宇仁」(74.0%)、「西在田」(66.7%)となっています。一方、『そう思わない』は「賀茂」が36.7%と最も高く、次いで「九会」(35.8%)となっています。

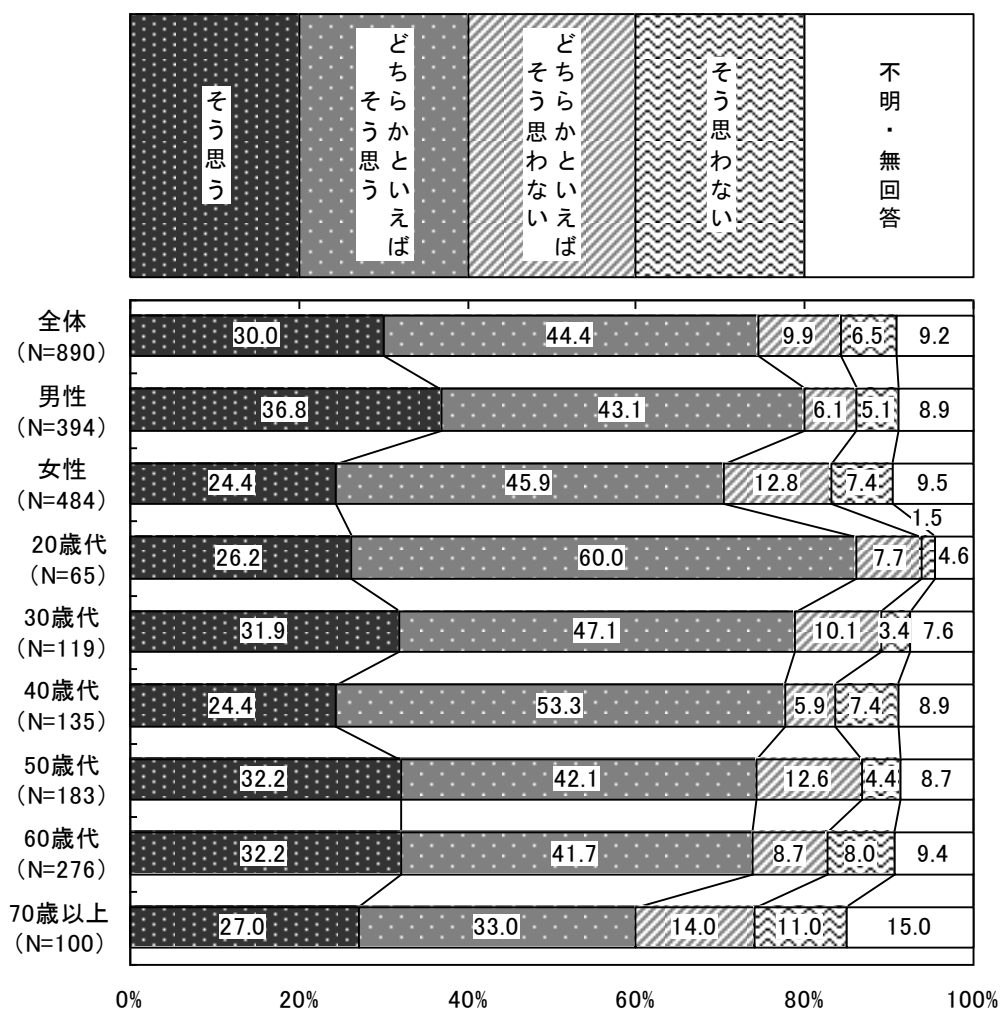
〔地区別〕



④ 民生委員・児童委員に女性が増えた方がよいと思う

『そう思う』が7割程度となっており、特に男性は8割程度と高くなっている。

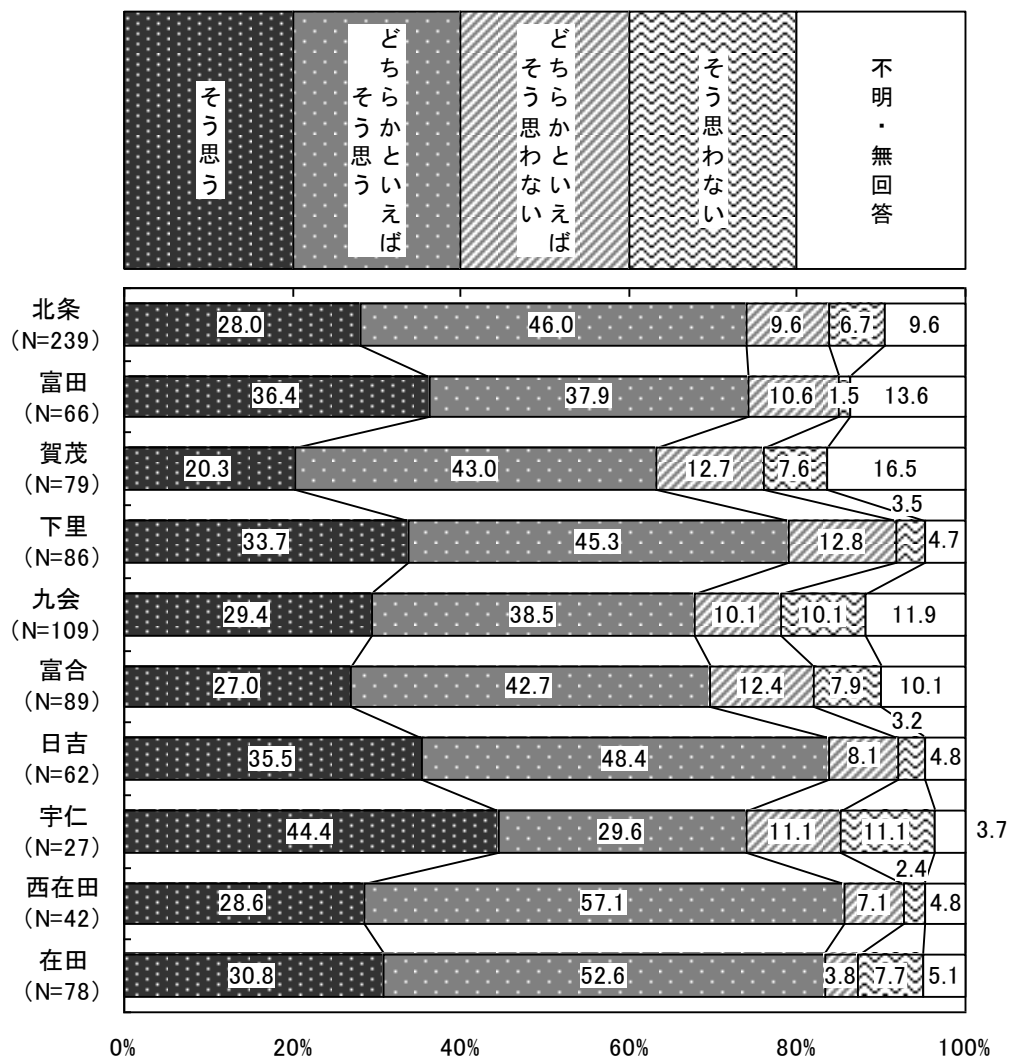
- 全体でみると、『そう思う』が74.4%、『そう思わない』が16.4%となっています。
- 性別でみると、男性は『そう思う』が79.9%と、女性（70.3%）より9.6ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、『そう思う』は20歳代が86.2%と最も高く、年代があがるにつれ低くなっています。



日吉・西在田・在田地区は『そう思う』が8割以上と高くなっている。

- 地区別でみると、『そう思う』は「西在田」が85.7%と最も高く、以下「日吉」(83.9%)、「在田」(83.4%)となっています。

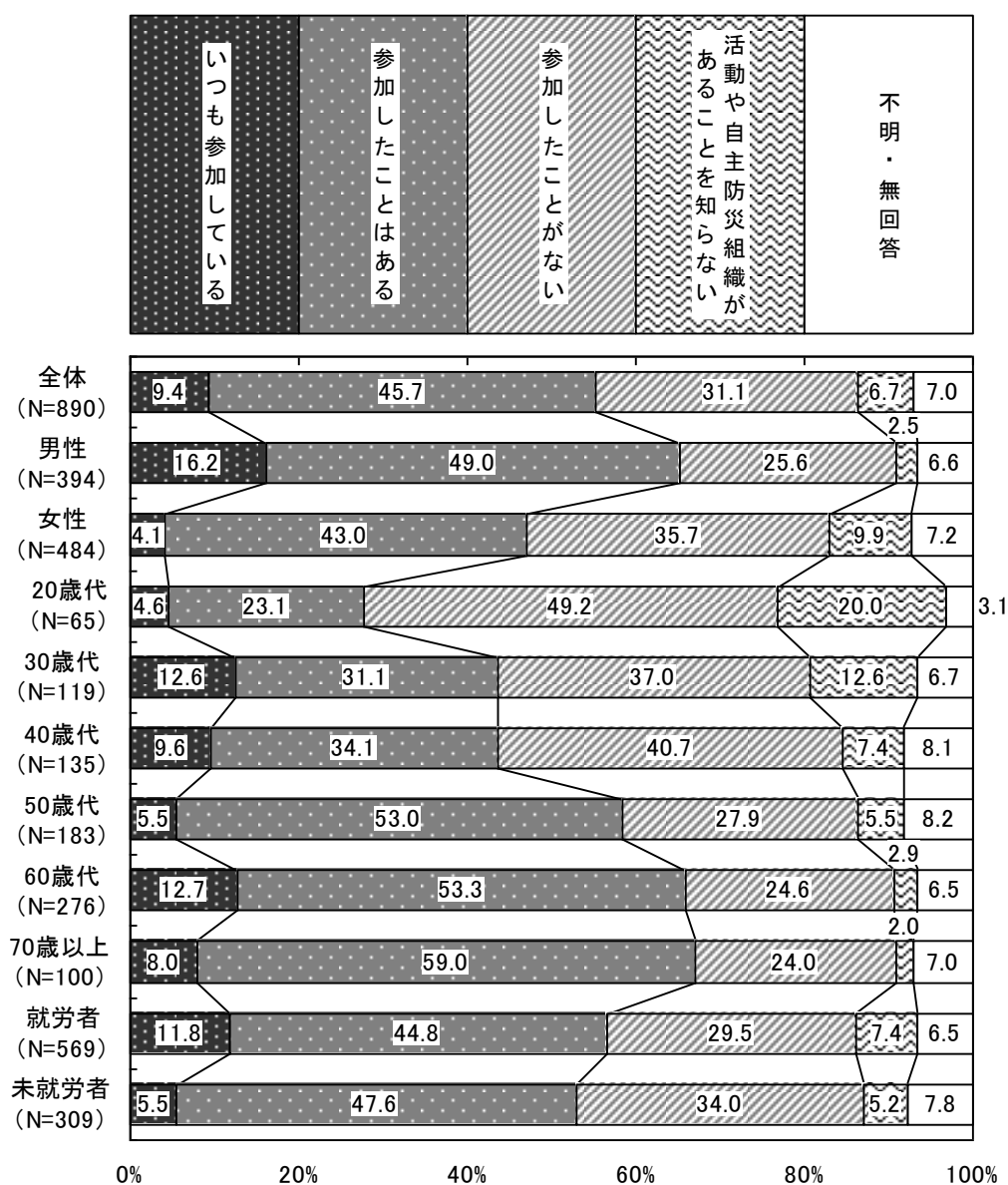
〔地区別〕



問8 あなたは自主防災組織による消防訓練などの活動に参加したことがありますか。
(〇は1つ)

男性及び50歳代以上は『参加したことがある』が6割程度となっている。

- 全体でみると、『参加したことがある』は55.1%となっています。一方、「参加したことがない」は31.1%、「活動や自主防災組織があることを知らない」が6.7%となっています。
- 性別でみると、男性は『参加したことがある』が65.2%と、女性（47.1%）より18.1ポイント高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代は「参加したことがない」が49.2%と高く、年代があがるにつれ『参加したことがある』の割合が高くなっています。また、20歳代は「活動や自主防災組織があることを知らない」が20.0%と他の年代に比べて高くなっています。

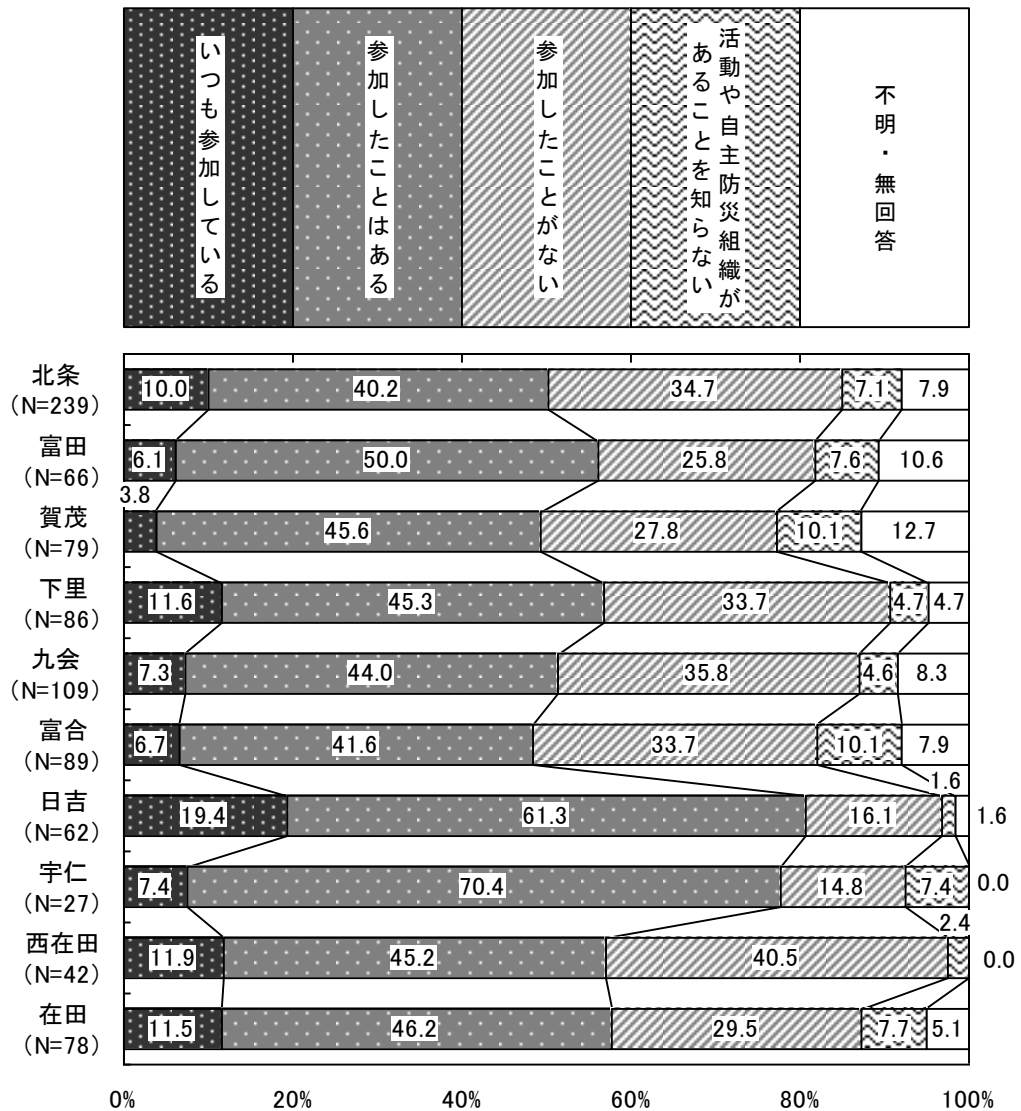


※『参加したことがある』は、本来の選択肢の「いつも参加している」と「参加したことはある」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

日吉・宇仁地区は『参加したことがある』が8割程度と高くなっている。

- 地区別でみると、『参加したことがある』は「日吉」が80.7%と最も高く、次いで「宇仁」が77.8%となっています。その他の地区は5割前後に留まっています。

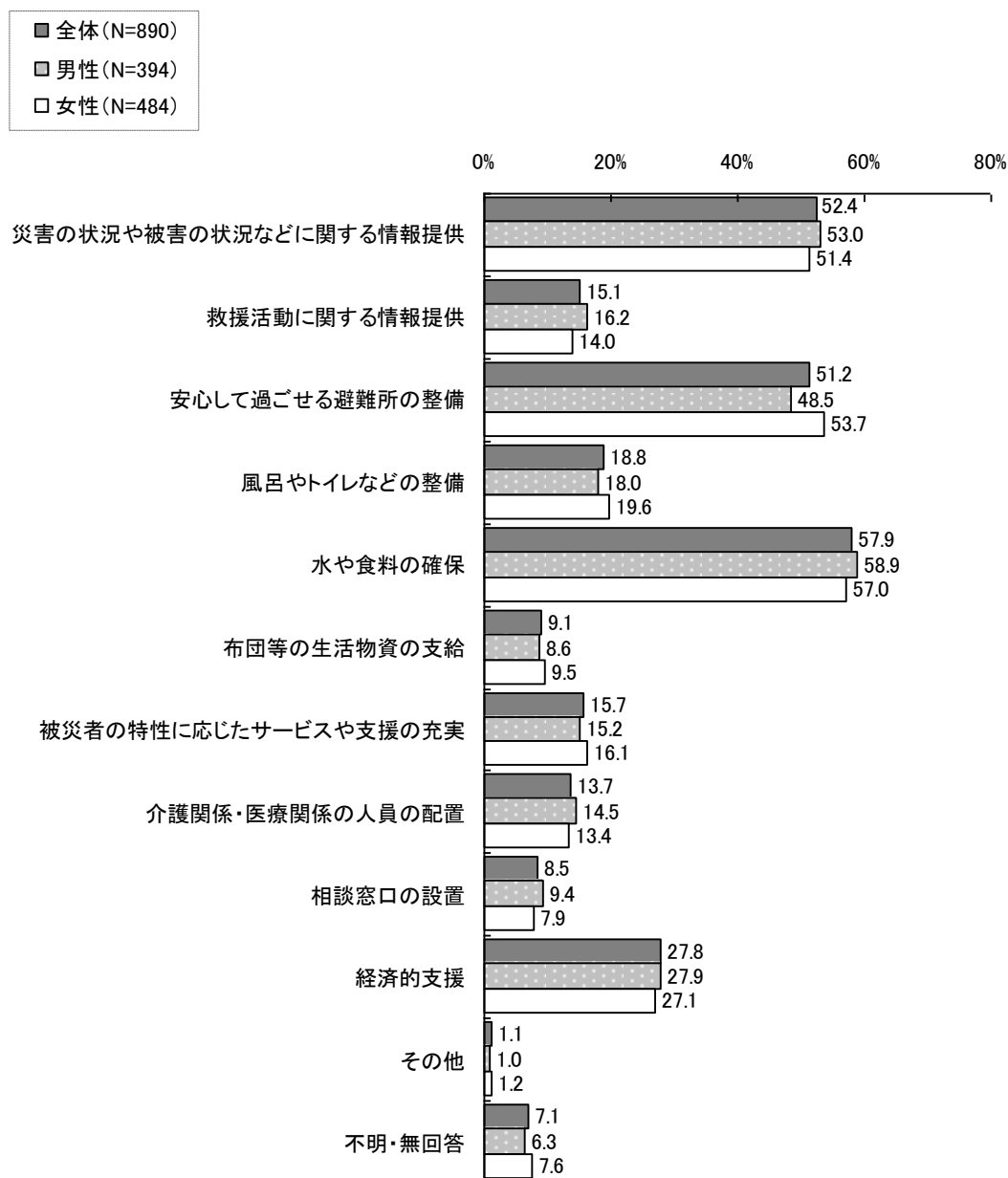
〔地区別〕



問9 災害が発生した場合、特に必要であると思うものは何ですか。(〇は3つまで)

「水や食料の確保」が最も高く、次いで「災害時の情報提供」、「避難所の整備」が高くなっている。

- 全体でみると、「水や食料の確保」が 57.9%と最も高く、以下「災害の状況や被害の状況などに関する情報提供」(52.4%)、「安心して過ごせる避難所の整備」(51.2%)となっています。
- 性別では、男女ともに「水や食料の確保」が最も高く、次いで男性では「災害の状況や被害の状況などに関する情報提供」が 53.0%、女性では「安心して過ごせる避難所の整備」が 53.7%となっています。

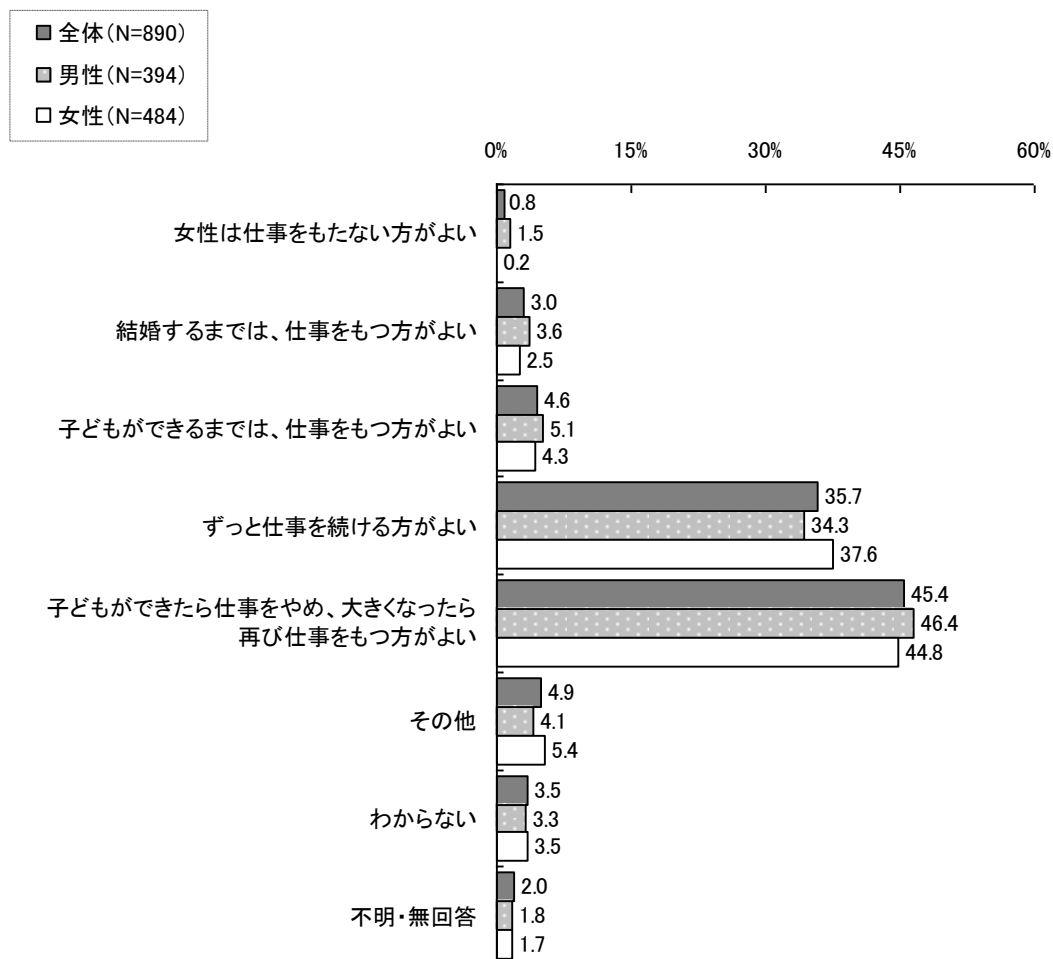


3. 就労・働き方について

問 10 あなたは、一般的に女性が仕事をもつことについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は1つ)

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が最も高く、次いで「ずっと仕事を続ける方がよい」が高くなっている。

- 全体でみると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が45.4%と最も高く、次いで「ずっと仕事を続ける方がよい」(35.7%)となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 就労状況別でみると、女性就労者は「ずっと仕事を続ける方がよい」が43.2%と他の層に比べて高くなっています。



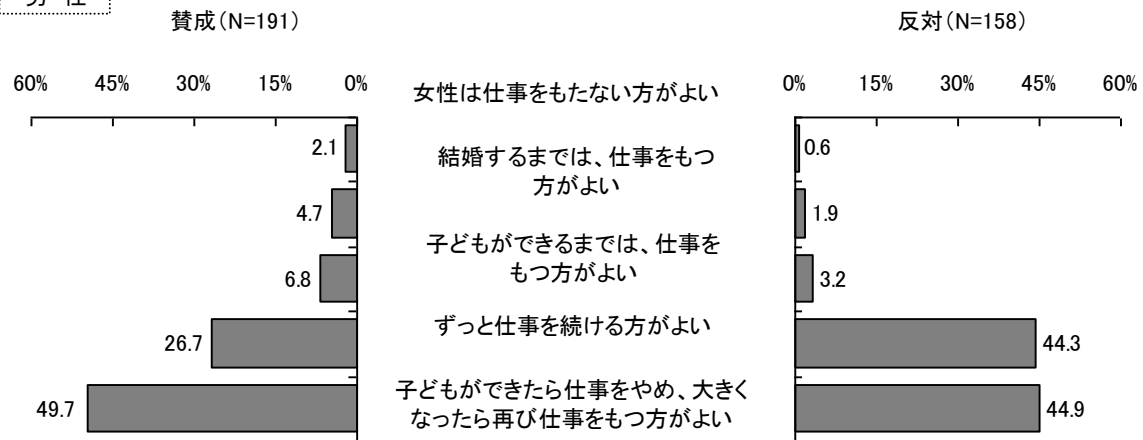
〔就労状況別〕

上段:件数 下段:%		女性が よい仕事 をもたない	結婚する までは、 仕事を もつ方が よい	子どもが できるま では、 仕事を もつ方が よい	ずっと 仕事を 続ける 方が よい	子ども ができ たら 仕事 をやめ、 大き くな たら 再び 仕事 をも つ 方 が よ い	その他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
男性	就労者 (N=298)	5 1.7	7 2.3	13 4.4	106 35.6	139 46.6	14 4.7	8 2.7	6 2.0
	未就労者 (N=96)	1 1.0	7 7.3	7 7.3	29 30.2	44 45.8	2 2.1	5 5.2	1 1.0
女性	就労者 (N=271)	1 0.4	9 3.3	4 1.5	117 43.2	111 41.0	20 7.4	6 2.2	3 1.1
	未就労者 (N=212)	— —	3 1.4	17 8.0	65 30.7	105 49.5	6 2.8	11 5.2	5 2.4

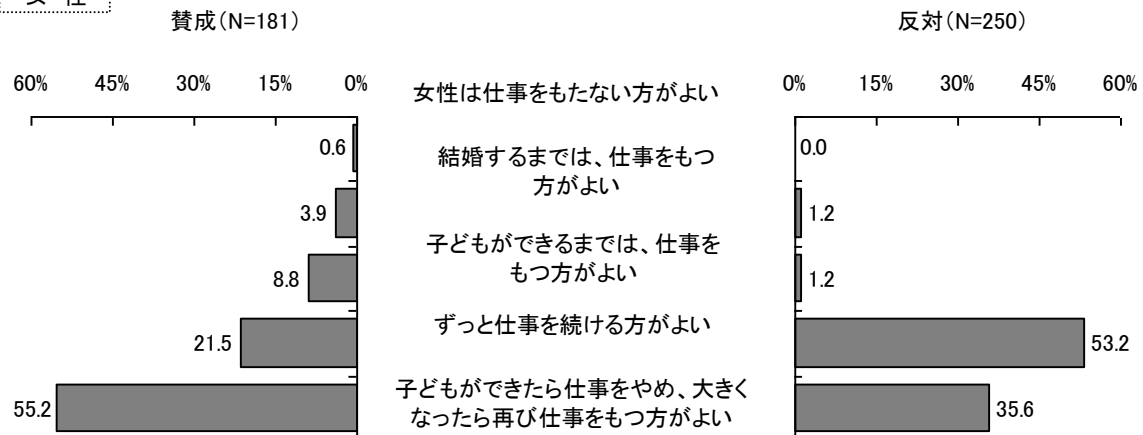
参考資料：「男は仕事、女は家事・育児」（問１） × 「女性の働き方」

『賛成（「賛成」「どちらかといえば賛成」）』／『反対（「どちらかといえば反対」「反対」）』

男 性



女 性



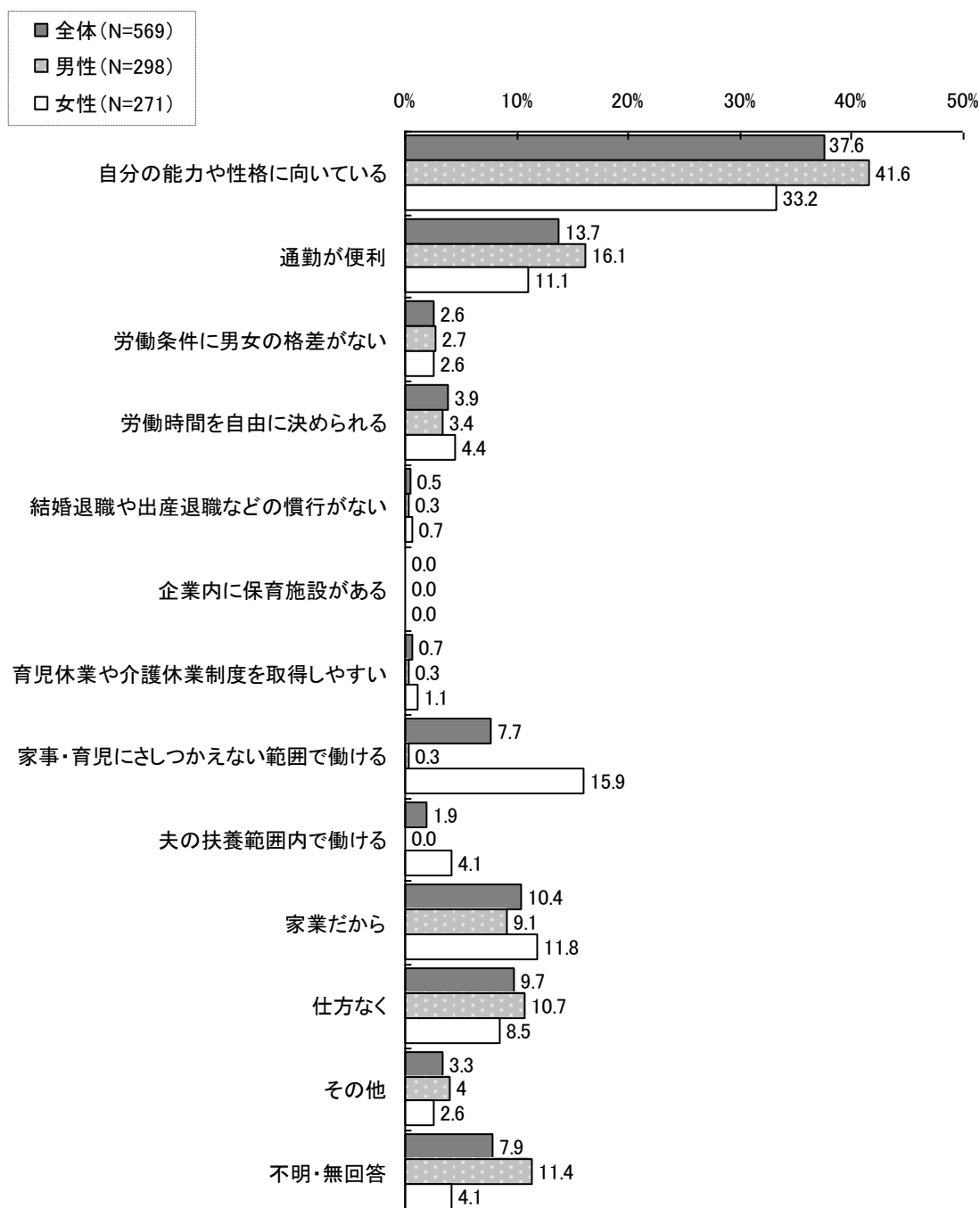
問 11 現在働いている方におうかがいします。

あなたが現在の仕事を選んだ主な理由は何ですか。(〇は1つ)

「自分の能力や性格に向いている」が最も高くなっている。

女性は「家事・育児にさしつかえない範囲で働ける」が高くなっている。

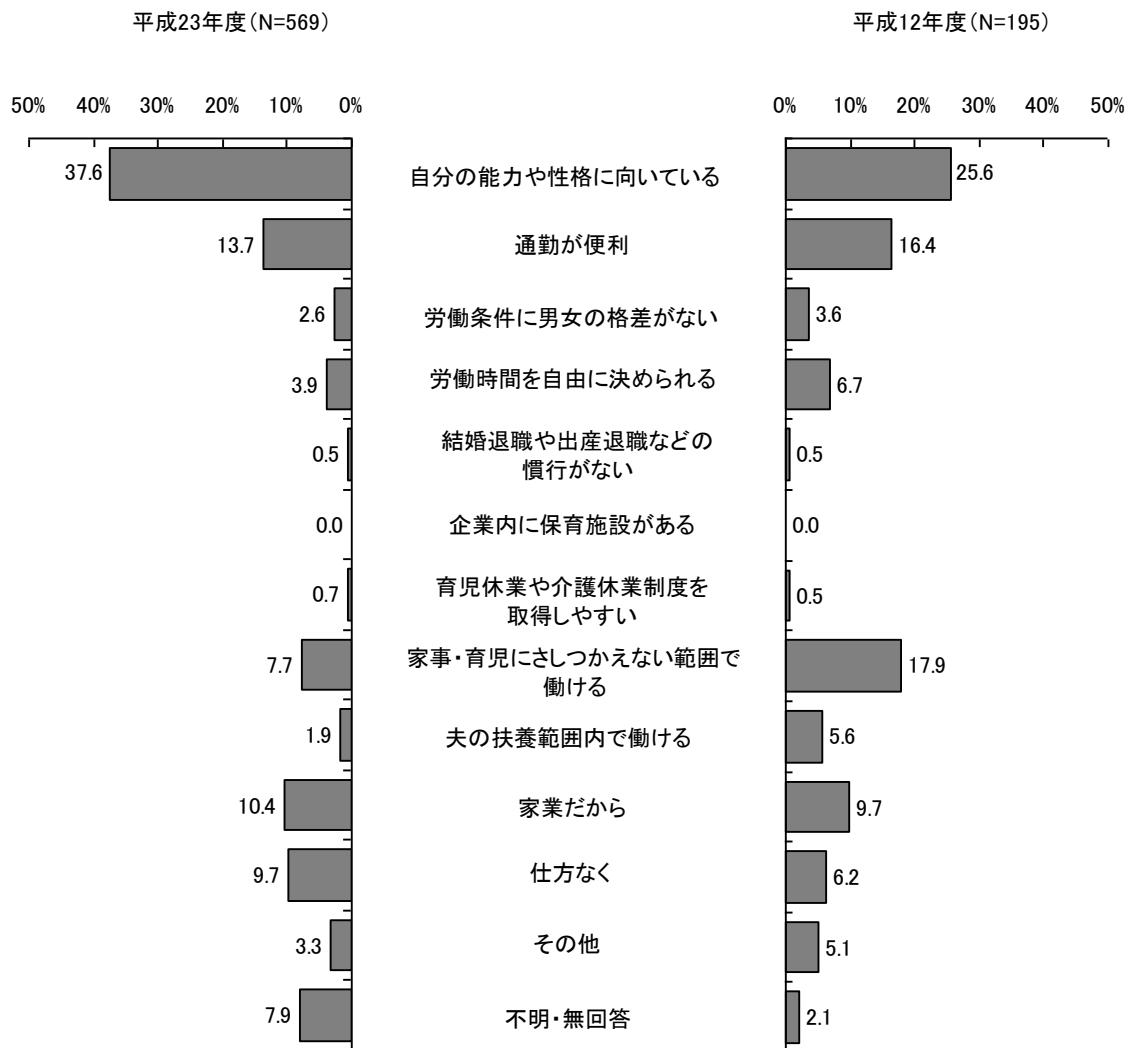
- 全体でみると、「自分の能力や性格に向いている」が 37.6%と最も高く、以下「通勤が便利」(13.7%)、「家業だから」(10.4%)、「仕方なく」(9.7%)、「家事・育児にさしつかえない範囲で働ける」(7.7%) となっています。
- 性別でみると、男性は「自分の能力や性格に向いている」(41.6%) が最も高く、以下「通勤が便利」(16.1%)、「仕方なく」(10.7%)、「家業だから」(9.1%) となっています。女性は「自分の能力や性格に向いている」(33.2%) が最も高く、以下「家事・育児にさしつかえない範囲で働ける」(15.9%)、「家業だから」(11.8%)、「通勤が便利」(11.1%) となっています。



**「自分の能力や性格に向いている」は増加傾向、
「家事・育児にさしつかえない範囲で働ける」は減少傾向となっている。**

- 平成 12 年度と平成 23 年度を比較すると、「自分の能力や性格に向いている」は 25.6% から 37.6% に増加しています。一方、「家事・育児にさしつかえない範囲で働ける」は 17.9% から 7.7% に減少しています。

〔経年比較〕



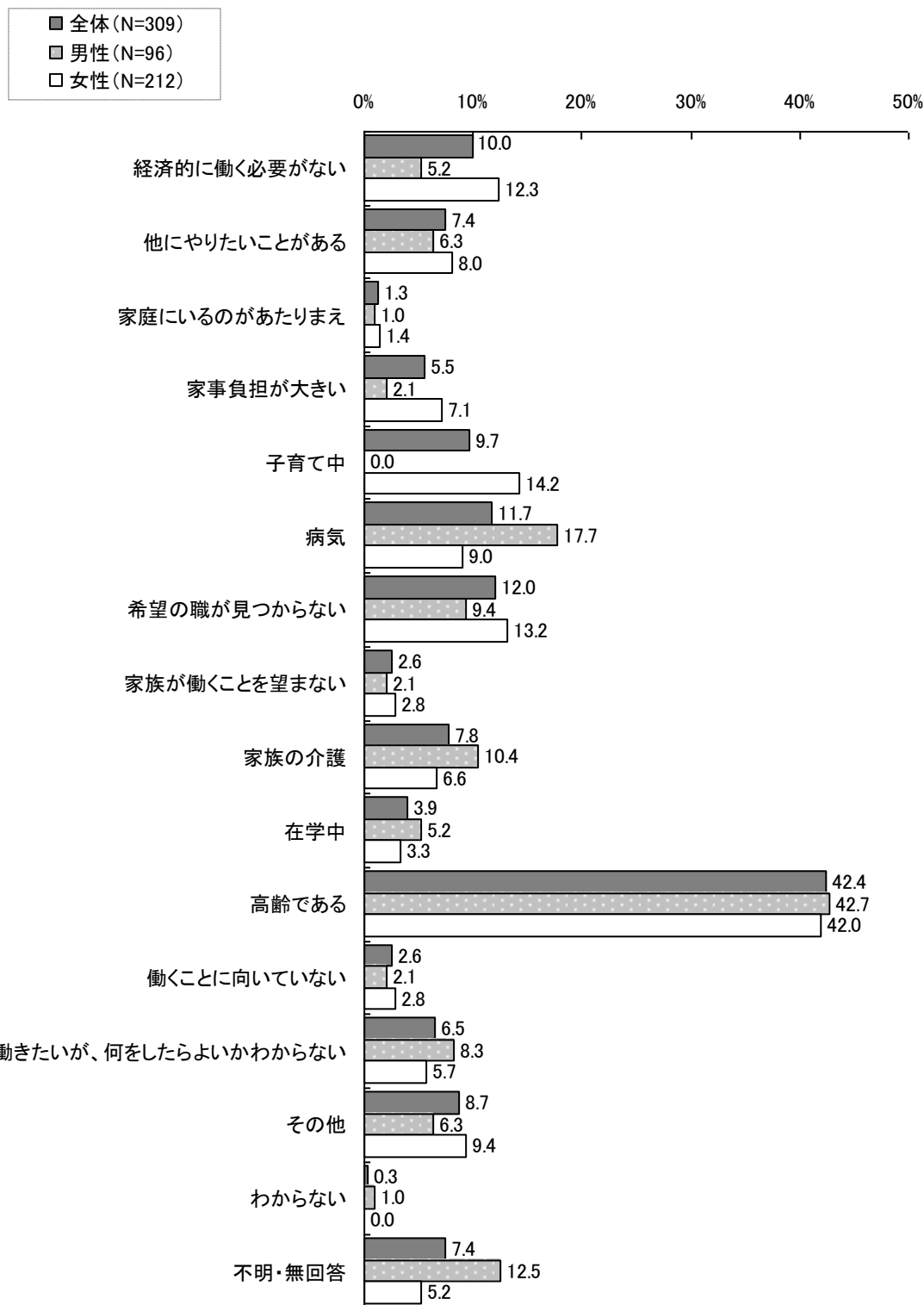
問 12 現在働いていない方におうかがいします。

あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。

(あてはまるものすべてに○)

男女ともに「高齢である」が最も高く、次いで男性は「病気」、女性は「子育て中」が高くなっている。

- 全体でみると、「高齢である」が 42.4%と最も高く、以下「希望の職が見つからない」(12.0%)、「病気」(11.7%)、「経済的に働く必要がない」(10.0%)となっています。
- 性別でみると、男性は「病気」が 17.7%と高く、女性は「子育て中」が 14.2%と高くなっています。

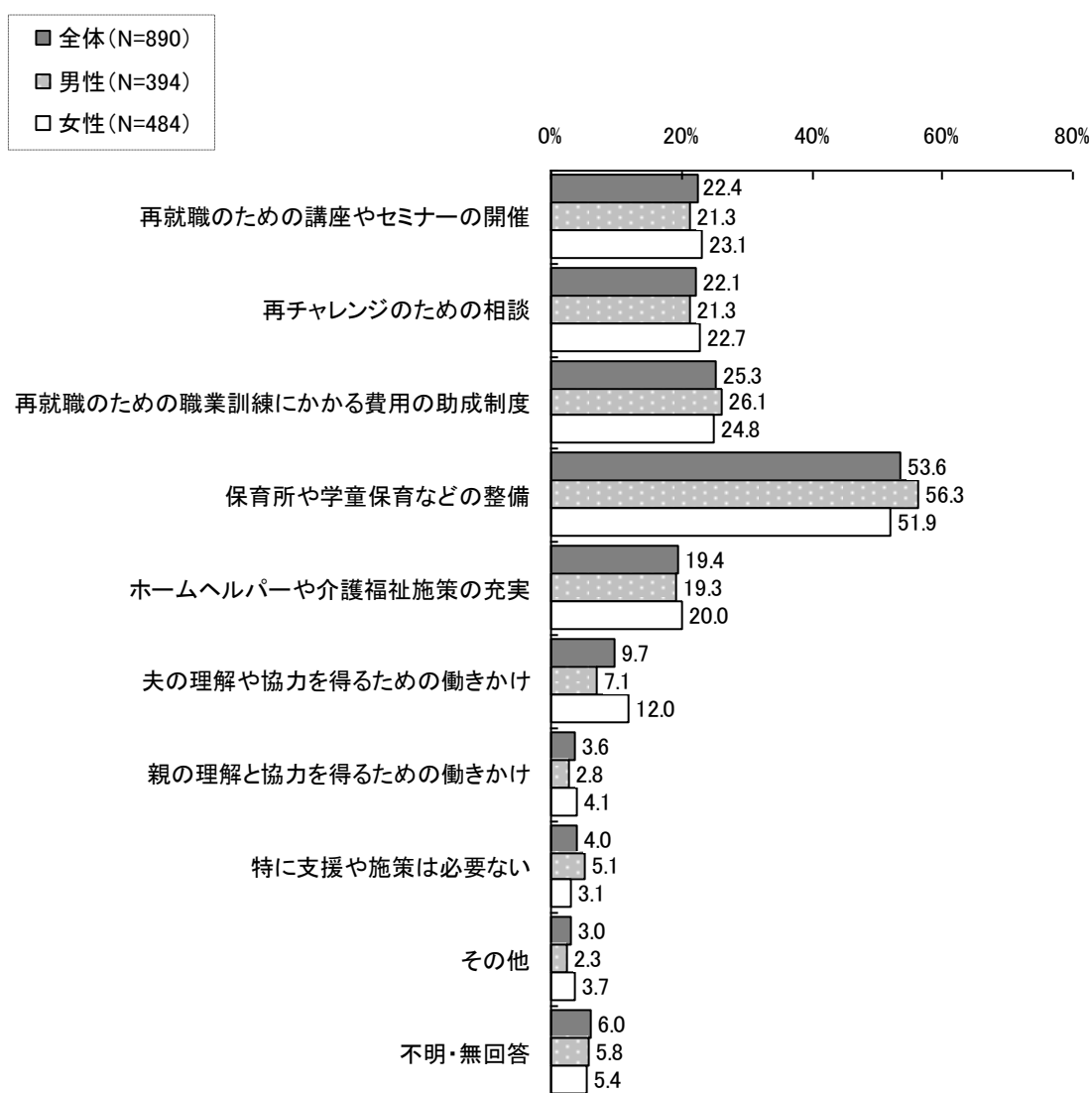


問 13 子育て、介護、家事などのために一旦仕事をやめた女性が再就職などを希望する場合、行政・企業のそれぞれにどのような支援や施策が必要になると思いますか。
(〇はそれぞれ2つまで)

① 行政に求めること

男女ともに「保育所や学童保育などの整備」が最も高くなっている。

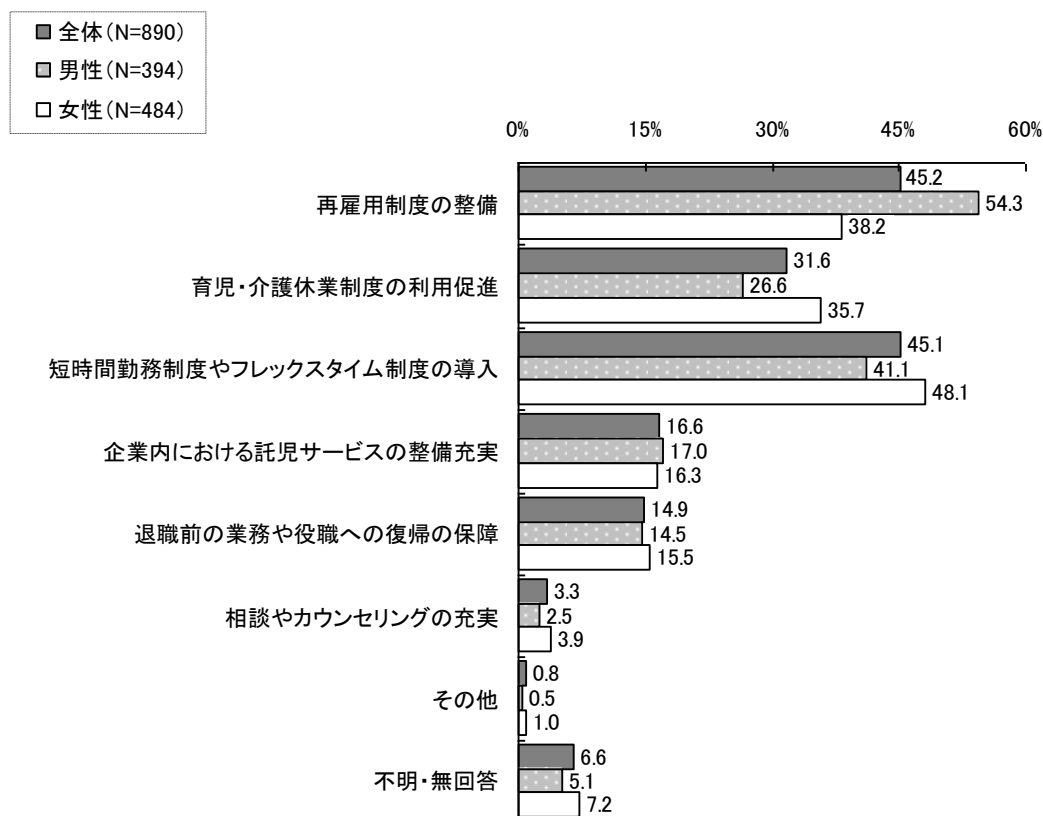
- 全体でみると、「保育所や学童保育などの整備」が 53.6%と最も高く、以下「再就職のための職業訓練にかかる費用の助成」(25.3%)、「再就職のための講座やセミナーの開催」(22.4%)、「再チャレンジのための相談」(22.1%)、「ホームヘルパーや介護福祉施策の充実」(19.4%) となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。



② 企業に求めること

男性は「再雇用制度の整備」、女性は「短時間勤務制度やフレックスタイム制度の導入」が高くなっている。

- 全体でみると、「再雇用制度の整備」が45.2%と最も高く、以下「短時間勤務制度やフレックスタイム制度の導入」(45.1%)、「育児・介護休業制度の利用促進」(31.6%)となっています。
- 性別でみると、男性は「再雇用制度の整備」が54.3%と最も高く、女性は「短時間勤務制度やフレックスタイム制度の導入」が48.1%と最も高くなっています。
- 就労状況別では、男性の就労者・未就労者ともに「再雇用制度の整備」が高くなっていますが、就労者が57.7%で未就労者(43.8%)より13.9ポイント高くなっています。



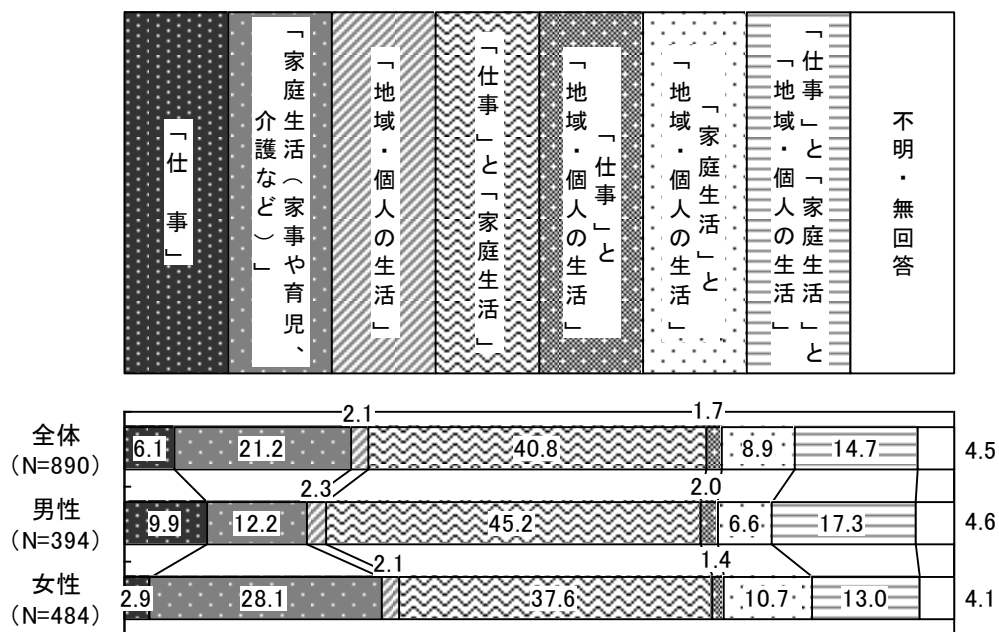
〔就労状況別〕

上段:件数 下段:%		再雇用制度の整備	育児・介護休業制度の利用促進	短時間勤務制度やフレックスタイム制度の導入	企業内における託児サービスの整備充実	退職前の業務や役職への復帰の保障	相談やカウンセリングの充実	その他	不明・無回答
男性	就労者(N=298)	172	79	126	49	38	5	1	13
		57.7	26.5	42.3	16.4	12.8	1.7	0.3	4.4
女性	未就労者(N=96)	42	26	36	18	19	5	1	7
		43.8	27.1	37.5	18.8	19.8	5.2	1.0	7.3
女性	就労者(N=271)	109	97	134	53	49	10	4	10
		40.2	35.8	49.4	19.6	18.1	3.7	1.5	3.7
女性	未就労者(N=212)	76	76	99	26	26	9	1	24
		35.8	35.8	46.7	12.3	12.3	4.2	0.5	11.3

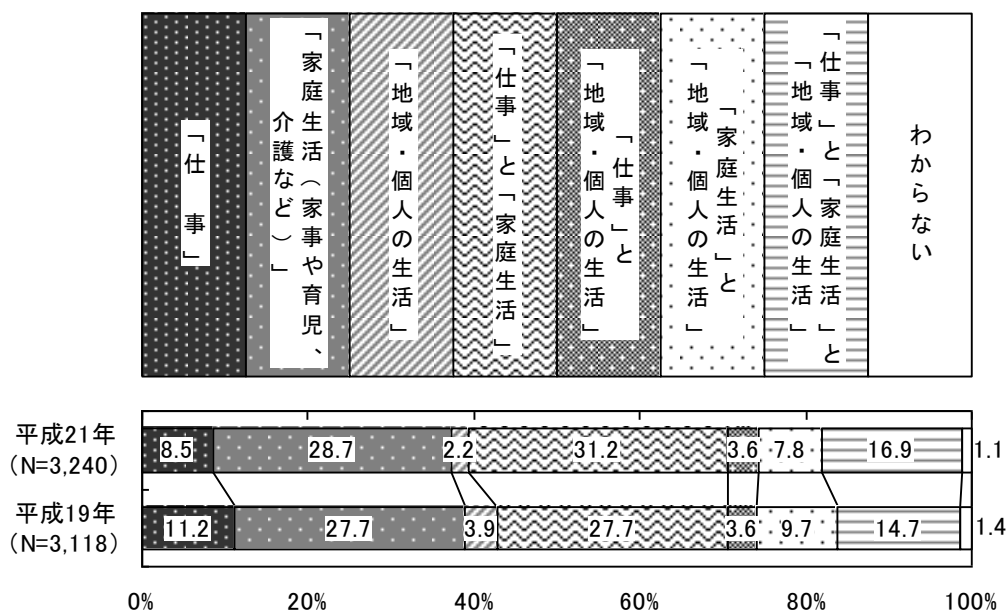
問 14 生活の中での「仕事」と「家庭生活（家事や育児、介護など）」や「地域・個人の生活」の優先度について、あなたが最も優先したいものは何ですか。（〇は1つ）

理想は「仕事」と「家庭生活」の両立が高くなっている。

- 全体でみると、「仕事」と「家庭生活」が 40.8%と最も高く、以下「家庭生活（家事や育児、介護など）」（21.2%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（14.7%）となっています。
- 性別でみると、男性は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」が 17.3%と高く、女性は「家庭生活（家事や育児、介護など）」が 28.1%と高くなっています。
- 内閣府調査と比較すると、加西市は「仕事」と「家庭生活」が 40.8%となっており、内閣府調査（31.2%）より 9.6 ポイント高くなっています。

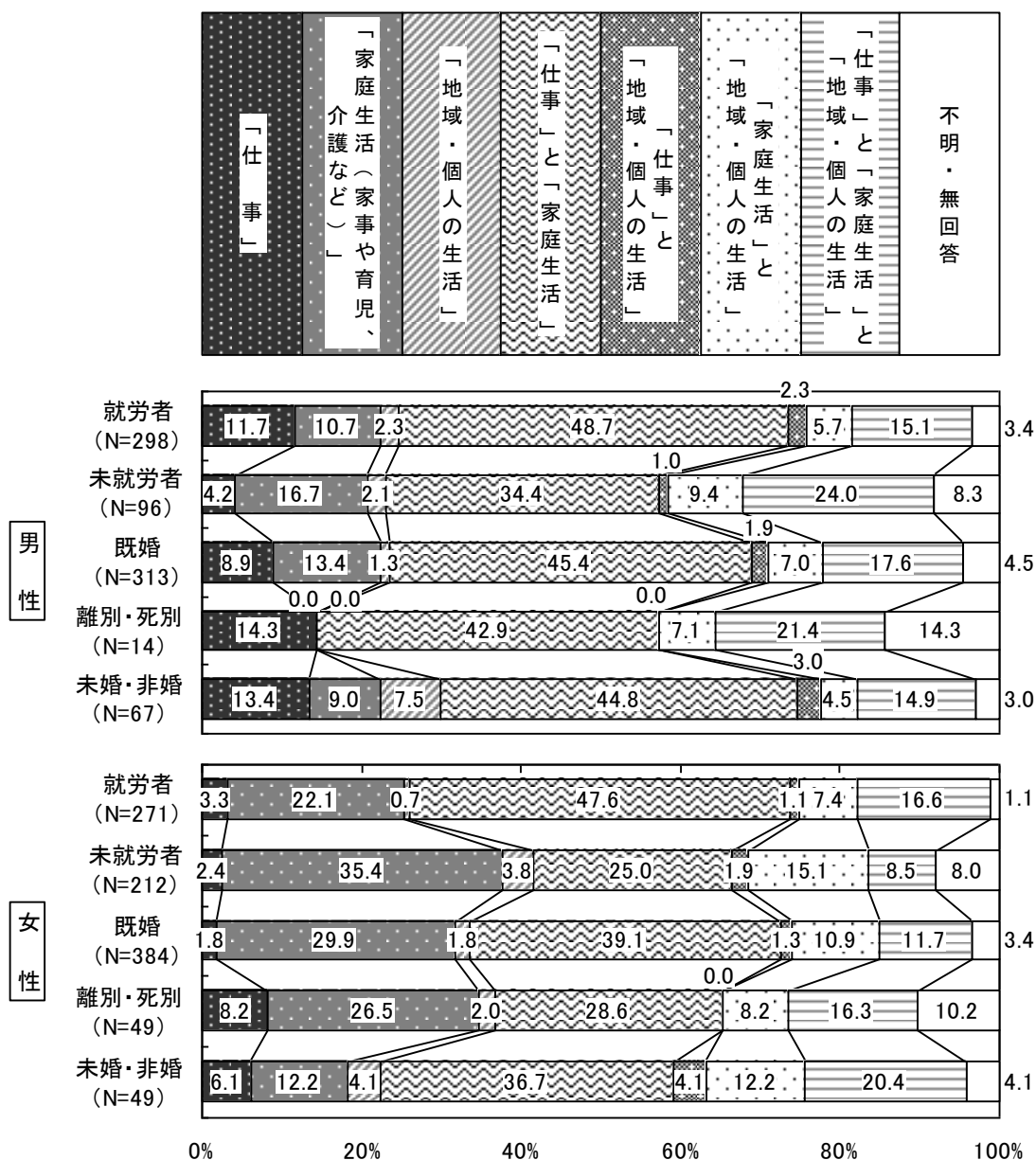


〔内閣府調査〕



女性の「既婚」及び「離婚・死別」は「家庭生活」の割合が高くなっている。

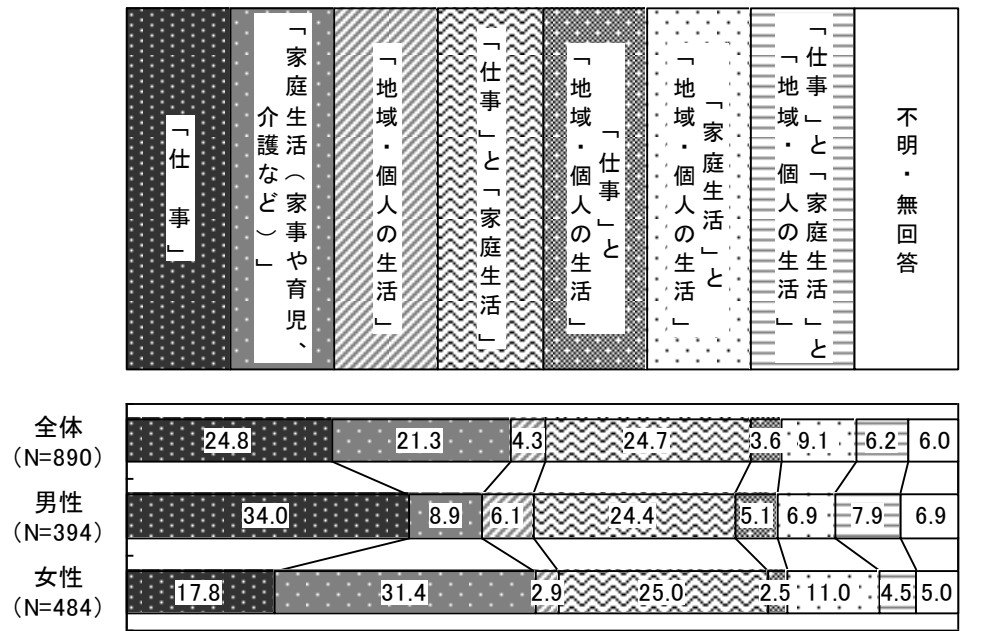
- 就労状況別でみると、男女ともに就労者は「仕事」と「家庭生活」（48.7%、47.6%）と最も高くなっています。女性未就労者は「家庭生活（家事や育児、介護など）」（35.4%）が最も高くなっています。
- 婚姻状況別でみると、女性の「既婚」及び「離婚・死別」は「家庭生活（家事や育児、介護など）」が29.9%、26.5%と他の層より高くなっています。



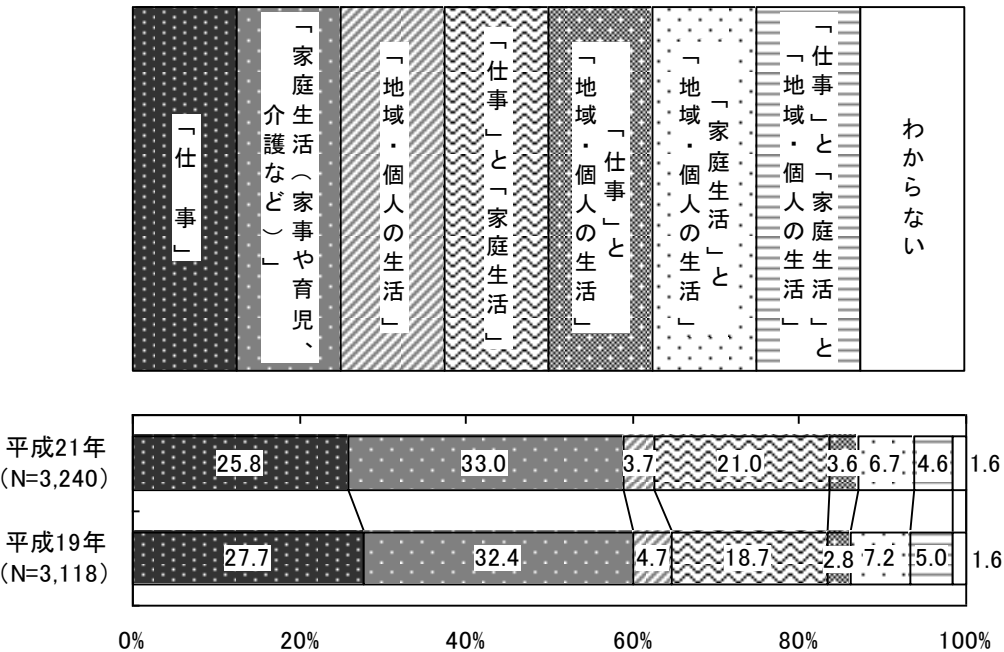
問 15 生活の中での「仕事」と「家庭生活（家事や育児、介護など）」や「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現状に最も近いものをお答えください。（〇は1つ）

現状は、男性は「仕事」を優先、女性は「家庭生活」を優先している。

- 全体でみると、「仕事」が 24.8%と最も高く、以下「仕事」と「家庭生活」（24.7%）、「家庭生活（家事や育児、介護など）」（21.3%）となっています。
- 性別でみると、「仕事」は男性が 34.0%と、女性（17.8%）より 16.2 ポイント高くなっています。一方、「家庭生活（家事や育児、介護など）」は女性が 31.4%と、男性（8.9%）より 22.5 ポイント高くなっています。
- 内閣府調査と比較すると、加西市は「地域・個人の生活」を含む項目がやや高くなっています。

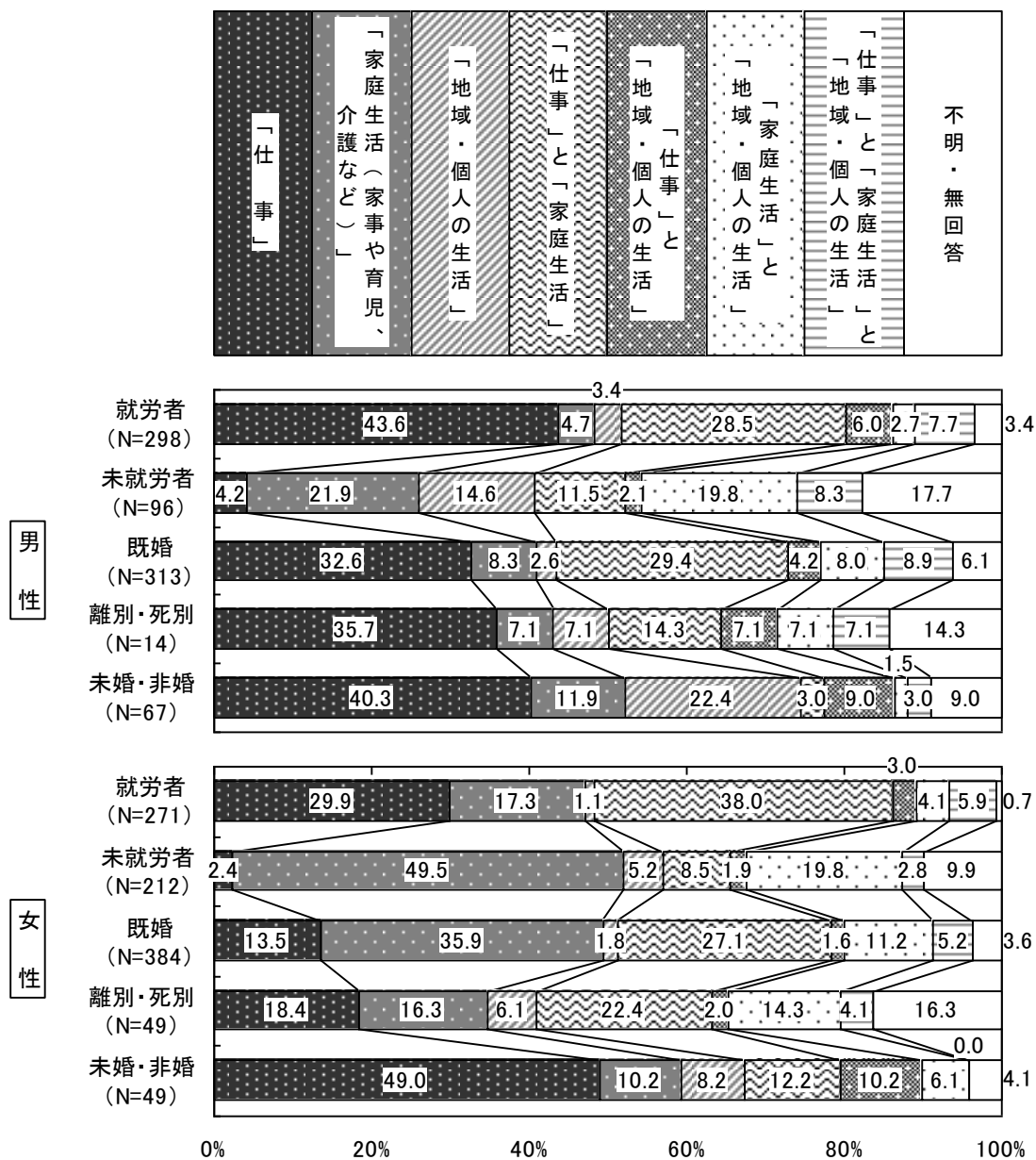


〔内閣府調査〕



就労者、未婚・非婚者は「仕事」を優先が高くなっている。

- 就労状況別でみると、「仕事」は男女ともに就労者が43.6%、29.9%と、未就労者（4.2%、2.4%）より3割前後高くなっています。一方、「家庭生活（家事や育児、介護など）」は女性の未就労者が49.5%と特に高くなっています。
- 婚姻状況別でみると、女性の「未婚・非婚」は「仕事」が49.0%と最も高く、次いで男性の「未婚・非婚」（40.3%）となっています。一方、女性の「既婚」は「家庭生活（家事や育児、介護など）」が35.9%と高くなっています。

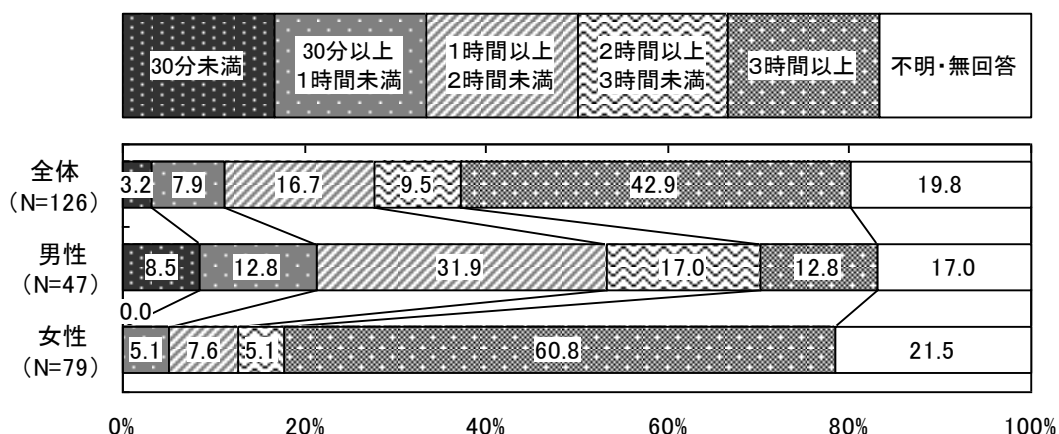


問 16 小学校入学前の子どもがいる方におうかがいします。

あなたが育児に関わる時間は、週平均で1日どれくらいですか。(〇は1つ)

女性の方が育児に関わっているが、男性も「3時間以上」が1割程度みられる。

- 全体でみると、「3時間以上」が42.9%と最も高く、以下「1時間以上2時間未満」(16.7%)、「2時間以上3時間未満」(9.5%)、「30分以上1時間未満」(7.9%)となっています。
- 性別でみると、男性は「1時間以上2時間未満」(31.9%)が最も高く、女性は「3時間以上」(60.8%)が最も高くなっています。
- 就労状況別でみると、少数ですが男性未就労者に「3時間以上」がみうけられます。



〔就労状況別〕

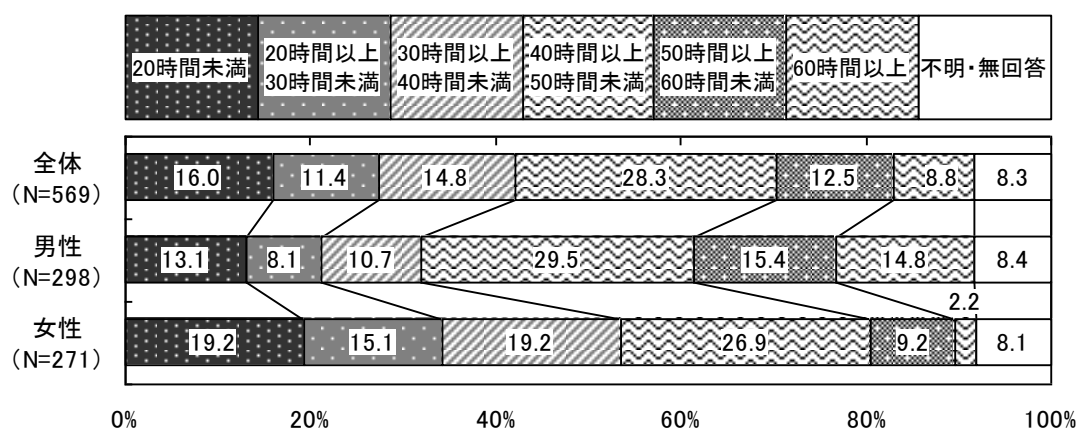
上段:件数 下段:%		30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上	不明・無回答
男性	就労者 (N=45)	4 8.9	6 13.3	15 33.3	8 17.8	4 8.9	8 17.8
	未就労者 (N=2)	-	-	-	-	2 100.0	-
女性	就労者 (N=43)	-	2 4.7	5 11.6	3 7.0	20 46.5	13 30.2
	未就労者 (N=36)	-	2 5.6	1 2.8	1 2.8	28 77.8	4 11.1

問 17 現在、収入をともなう仕事をしている方におうかがいします。

現在残業も含めて週あたり何時間ぐらい仕事をしていますか。(〇は1つ)

男性は 40 時間以上が 6 割程度、女性は 50 時間未満が 8 割程度となっている。

- 全体でみると、「40 時間以上 50 時間未満」が 28.3%と最も高く、以下「20 時間未満」(16.0%)、「30 時間以上 40 時間未満」(14.8%)、「50 時間以上 60 時間未満」(12.5%) となっています。
- 性別でみると、男性は「60 時間以上」が 14.8%とやや高く、女性は 40 時間未満の割合がやや高くなっています。

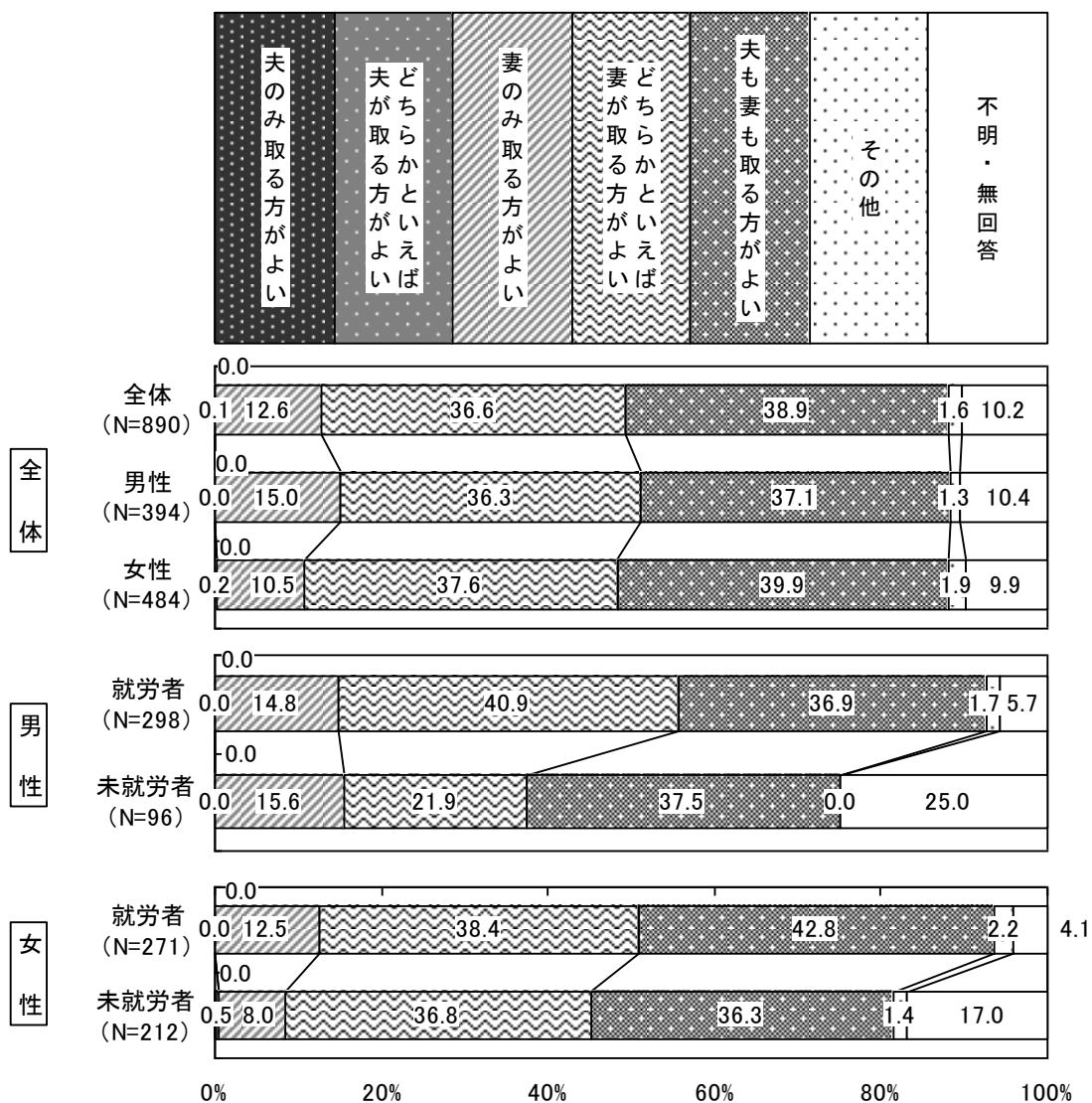


問 18 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。
あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

① 育児休業

「夫も妻も取る方がよい」が4割程度となっている。

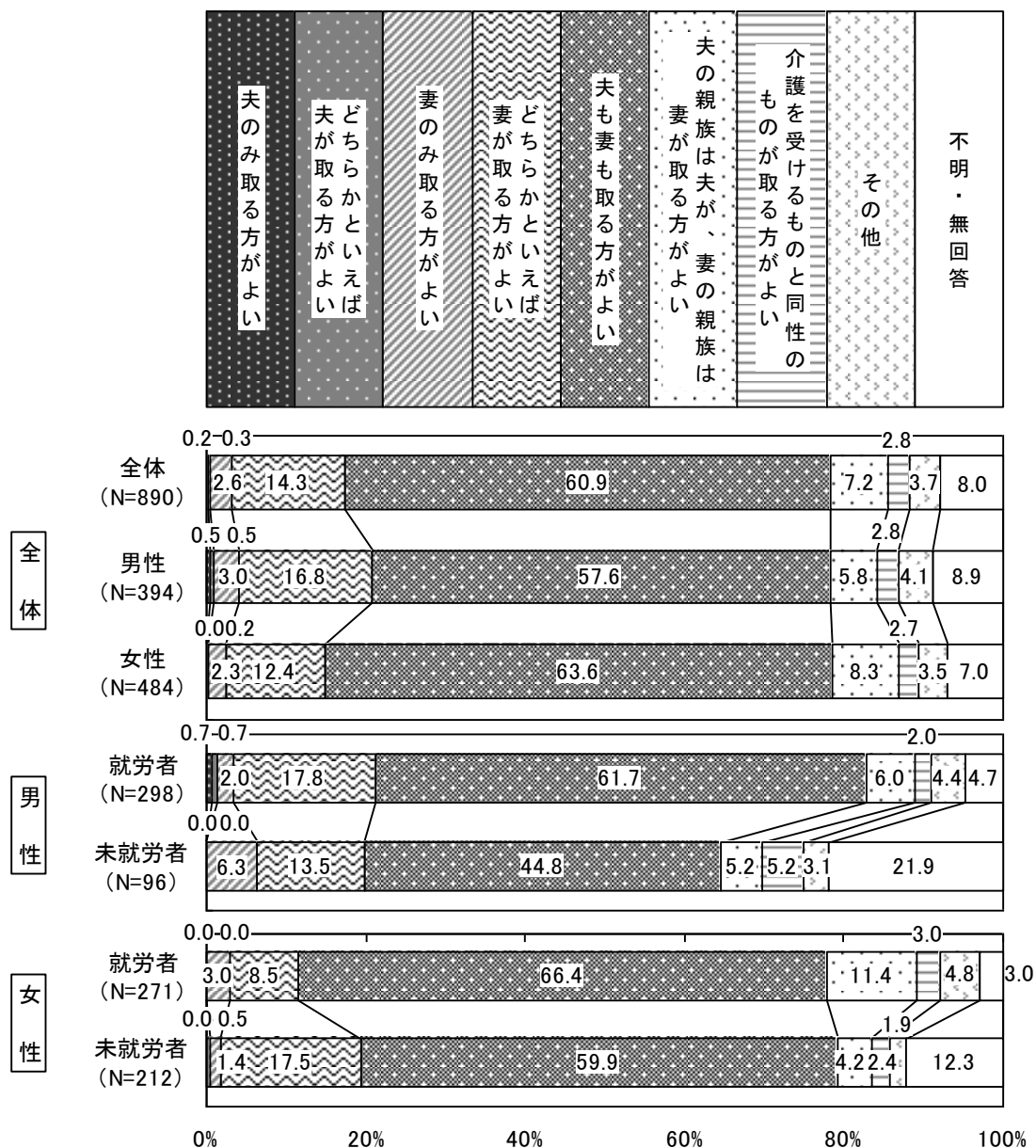
- 全体でみると、「夫も妻も取る方がよい」が38.9%と最も高く、次いで「どちらかといえ
ば妻が取る方がよい」(36.6%)となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 就労状況別では、目立った差異はみうけられません。但し、未就労者に「不明・無回答」
が多いことを考慮に入れる必要があります。



② 介護休業

「夫も妻も取る方がよい」が6割程度となっている。

- 全体でみると、「夫も妻も取る方がよい」が60.9%と最も高く、次いで「どちらかといえ
ば妻が取る方がよい」(14.3%)となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 就労状況別でみると、男性の就労者と女性の未就労者は「どちらかといえ
ば妻が取る方がよい」(17.8%、17.5%)がやや高くなっています。女性の就労者は「夫の親族は夫が、
妻の親族は妻が取る方がよい」が1割を超えています。

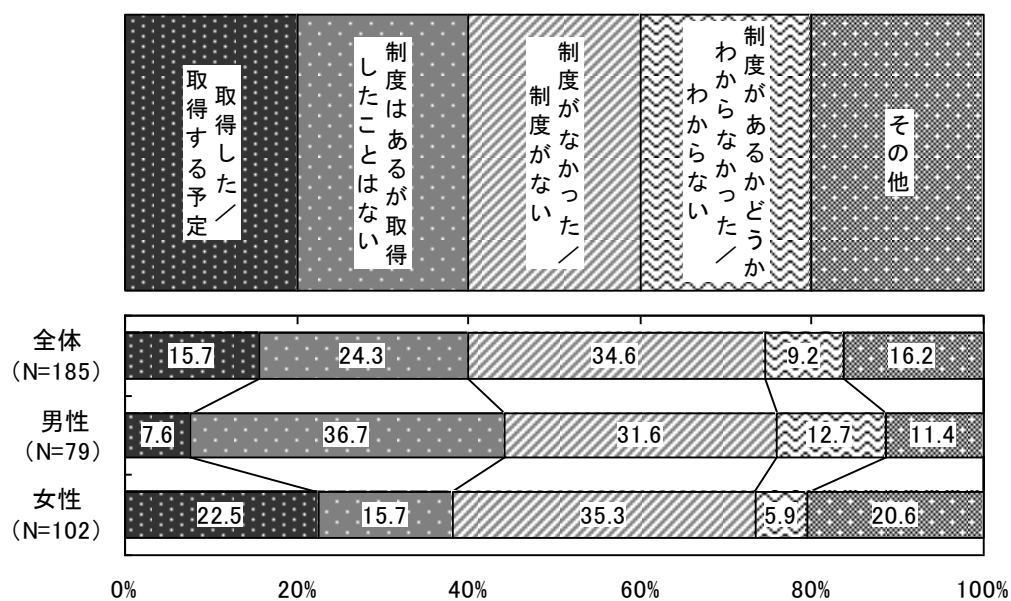


問 19 小学校入学前の子どもがいる方（妊娠中も含む）、または介護の必要な親族がいる方（いた方）におうかがいします。（〇はそれぞれ1つ）

① 育児休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。

「制度がない」が3割で高くなっている。

- 全体でみると、「制度がなかった／制度がない」が 34.6%と最も高く、次いで「制度はあるが取得したことはない」(24.3%) となっています。
- 性別でみると、男性は「制度があるが取得したことはない」が 36.7%と最も高くなっています。また、女性は「取得した／取得する予定」が 22.5%と高くなっています。

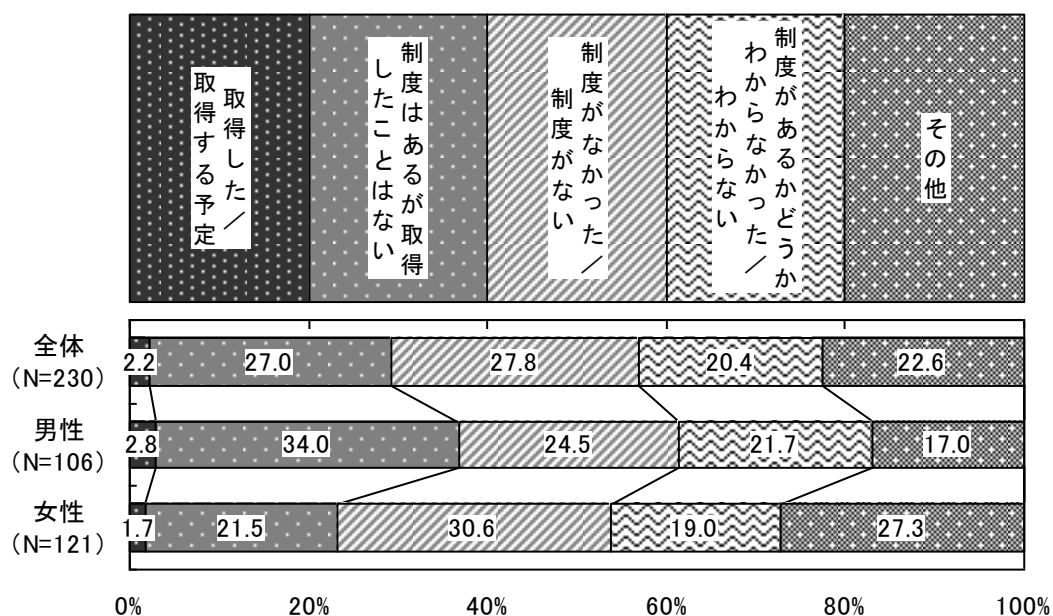


※該当者のみ表示

② 介護休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。

「制度がない」が3割、「制度があるかわからない」が2割となっている。

- 全体でみると、「制度がなかった／制度がない」が27.8%と最も高く、以下「制度はあるが取得したことはない」(27.0%)、「制度があるかどうかかわからなかった／わからない」(20.4%)となっています。
- 性別でみると、男性は「制度はあるが取得したことはない」が34.0%と最も高くなっています。



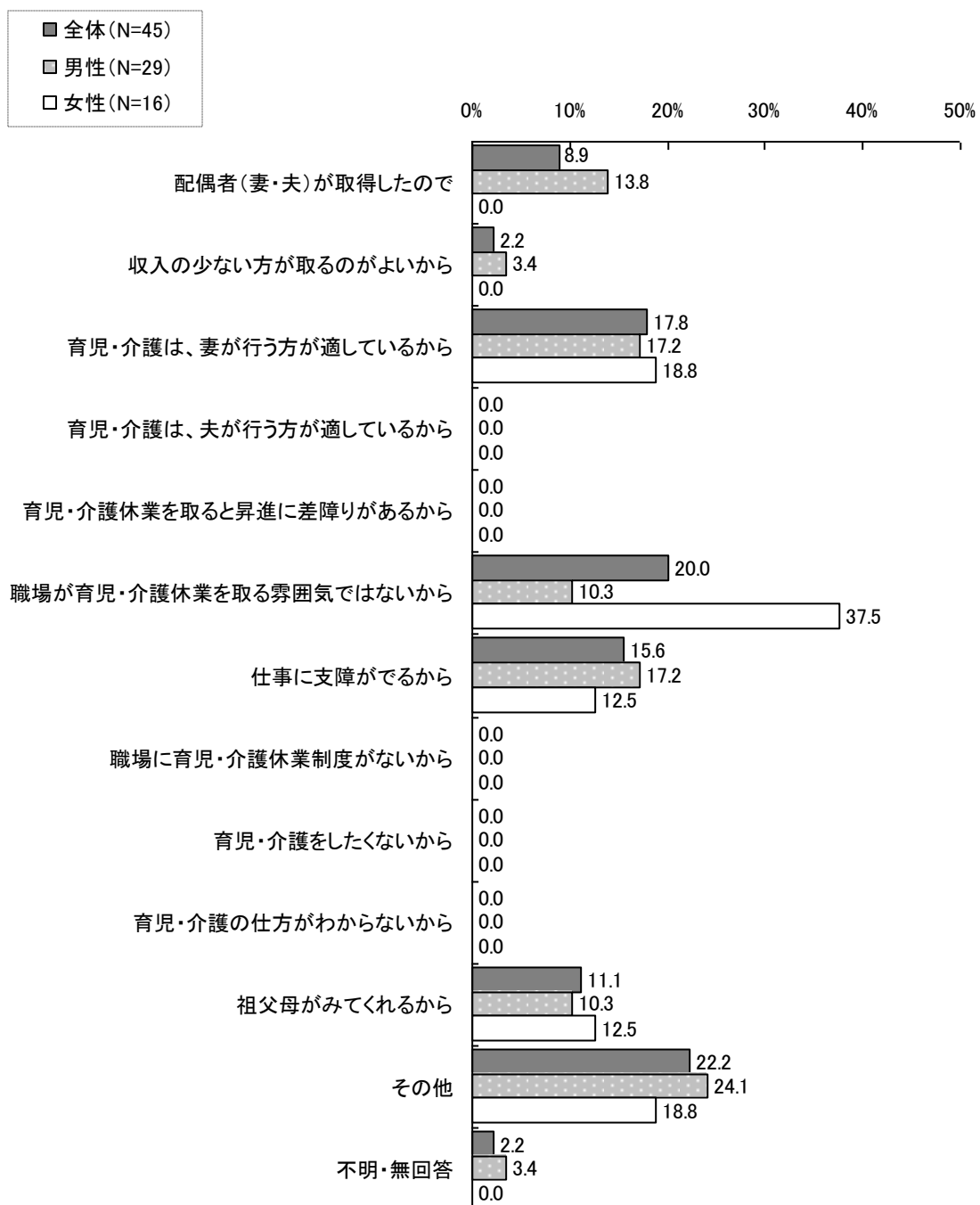
※該当者のみ表示

問 19-1 問 19 で「2. 制度はあるが取得したことはない」とお答えの方におうかがいします。取得しなかった理由について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

① 育児休業

女性は「職場が育児休業を取る雰囲気ではないから」が4割程度で高くなっている。

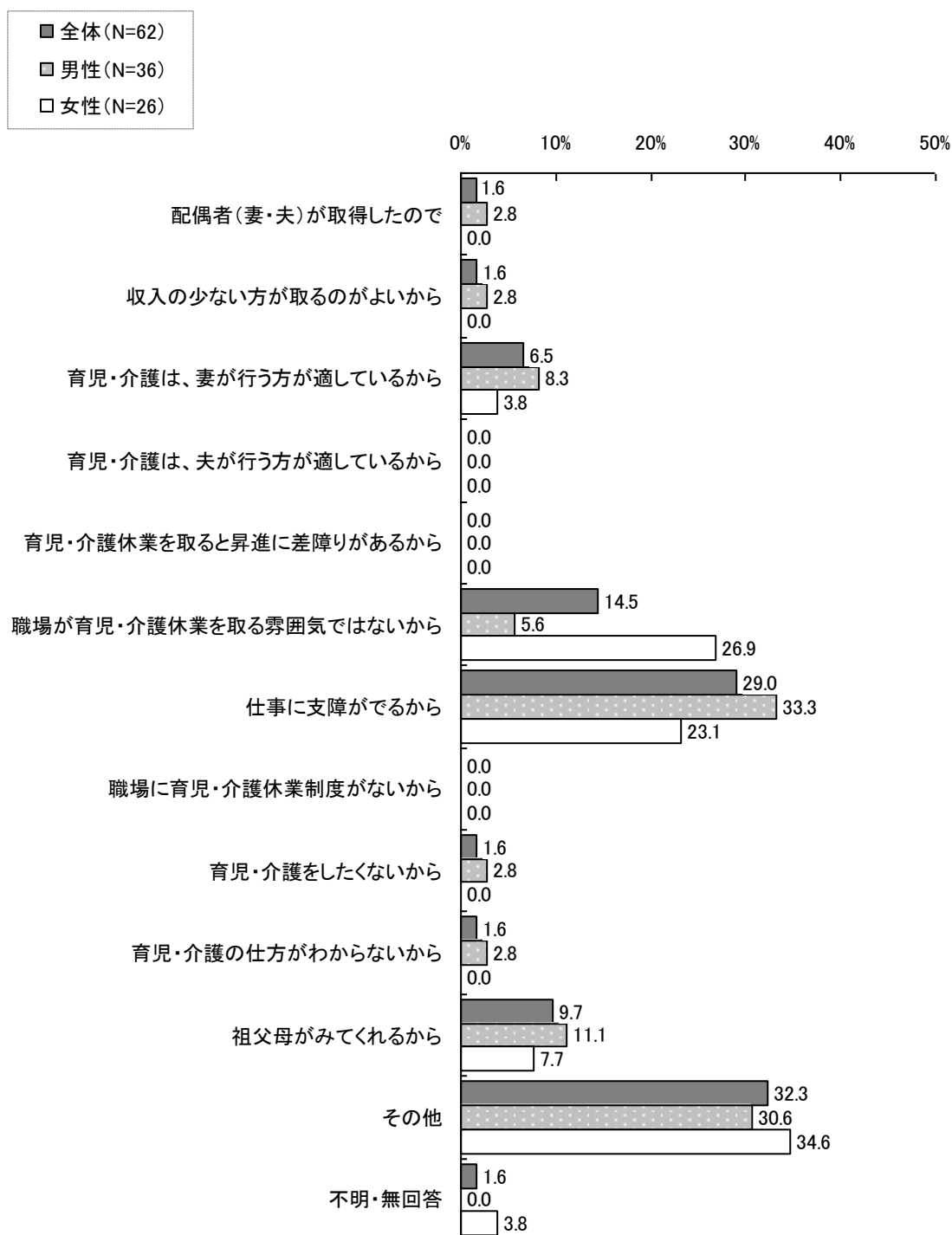
- 全体でみると、「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」が20.0%と最も高く、以下「育児・介護は、妻が行う方が適しているから」(17.8%)、「仕事に支障がでるから」(15.6%)、「祖父母がみてくれるから」(11.1%)となっています。
- 性別でみると、女性は「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」が37.5%と特に高く、男性(10.3%)より27.2ポイント高くなっています。



② 介護休業

**「仕事に支障がでるから」が3割程度となっており、
女性は「職場が育児休業を取る雰囲気ではないから」も3割程度となっている。**

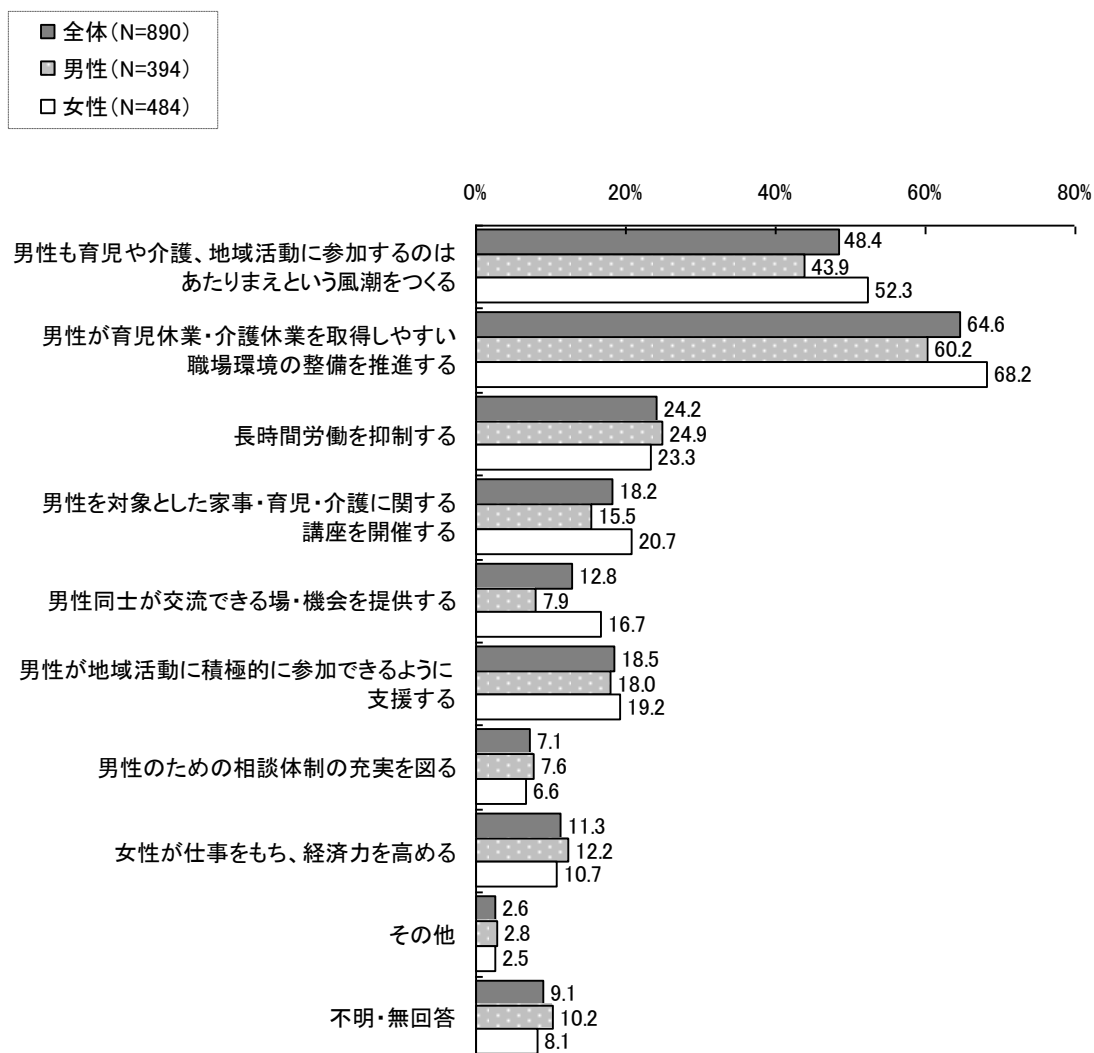
- 全体でみると、「仕事に支障がでるから」が29.0%と最も高く、次いで「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」（14.5%）となっています。
- 性別でみると、男性は「仕事に支障がでるから」（33.3%）が最も高くなっています。女性は、「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」が26.9%と最も高く、男性（5.6%）より21.3ポイント高くなっています。



問 20 男性は仕事为中心で育児や介護、地域活動を担うことが難しい状況にあると言われて
 いますが、男性がそれらに関わるためには、何が有効だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」が
 6割を超えて高くなっている。

- 全体でみると、「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」
 が 64.6%と最も高く、以下「男性も育児や介護、地域活動に参加するのはあたりまえとい
 う風潮をつくる」(48.4%)、「長時間労働を抑制する」(24.2%)、「男性が地域活動に積極
 的に参加できるように支援する」(18.5%)、「男性を対象とした家事・育児・介護に関す
 る講座を開講する」(18.2%)となっています。
- 性別でみると、全体的に女性の方が高い割合となっており、特に「男性同士が交流できる
 場・機会を提供する」は 8.8 ポイント、「男性も育児や介護、地域活動に参加するのはあ
 たりまえという風潮をつくる」は 8.4 ポイント、「男性が育児休業・介護休業を取得しや
 すい職場環境の整備を推進する」は 8.0 ポイント高くなっています。

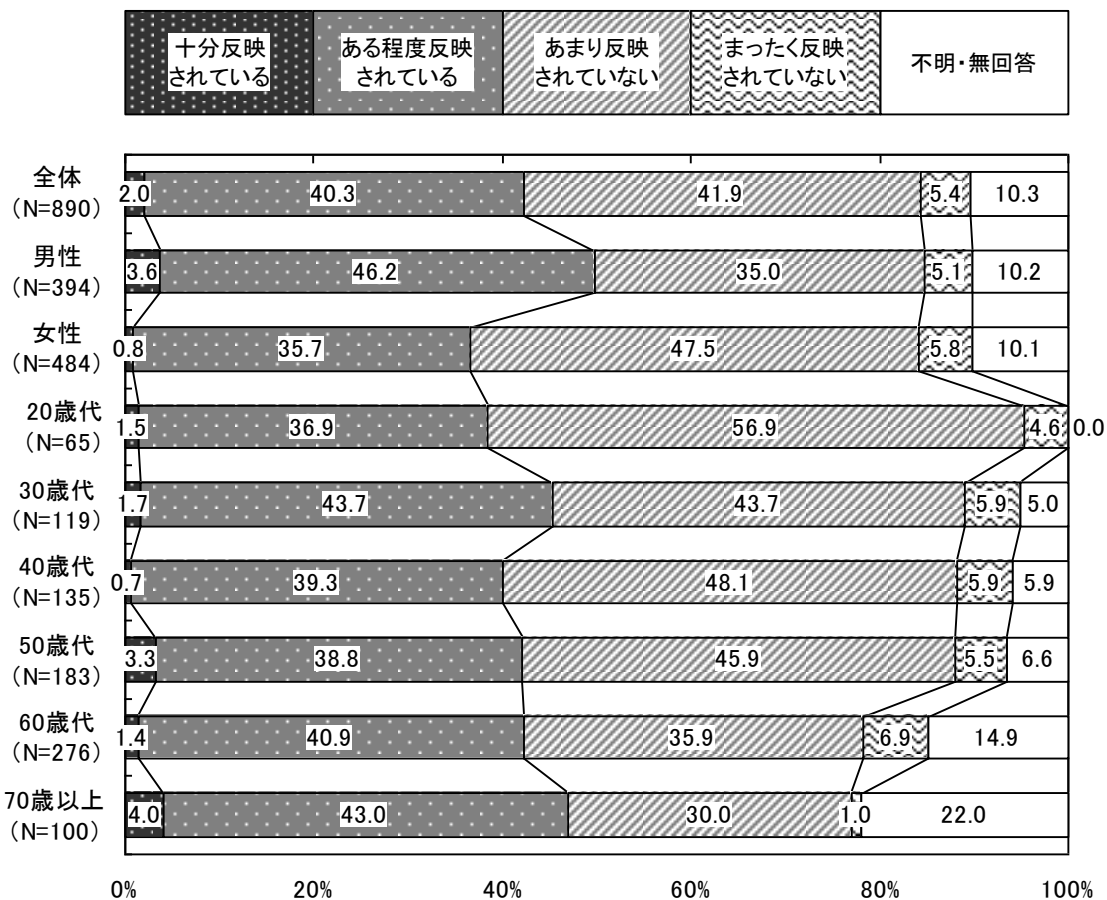


4. 市の施策などへの女性のかかわりについて

問 21 あなたは女性の意見がどの程度市政に反映されていると思いますか。(〇は1つ)

『反映されている』が4割程度、『反映されていない』が5割程度となっている。

- 全体でみると、『反映されている』が42.3%、『反映されていない』が47.3%となっています。
- 性別でみると、男性は『反映されている』(49.8%)の方がやや高く、女性は『反映されていない』(53.3%)の方がやや高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代は『反映されていない』が61.5%と特に高くなっています。



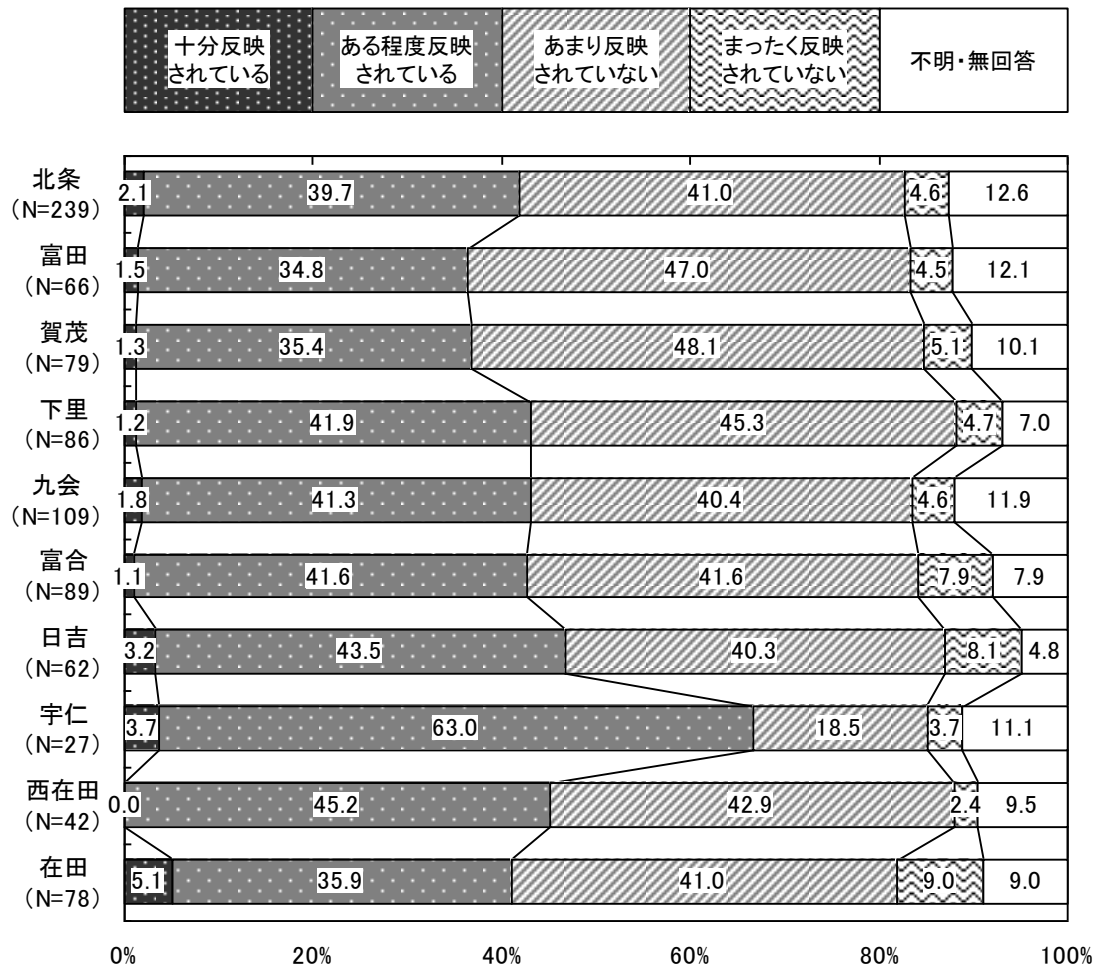
※『反映されている』は、本来の選択肢の「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の割合を合計したものです。『反映されていない』は、本来の選択肢の「まったく反映されていない」と「あまり反映されていない」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

宇仁地区は『反映されている』が7割程度と高くなっている。

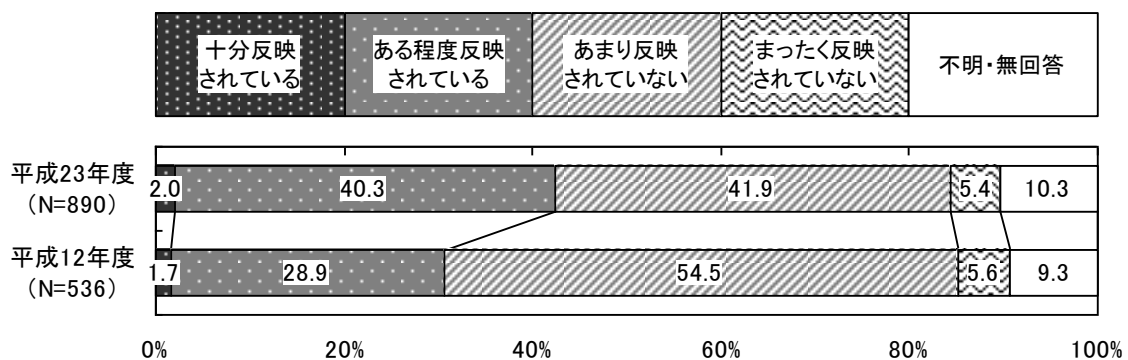
全体では『反映されている』が増加傾向となっている。

- 地区別でみると、『反映されている』は「宇仁」が66.7%と特に高くなっています。
- 平成12年度と平成23年度を比較すると、『反映されている』は30.6%から42.3%に増加しています。

〔地区別〕



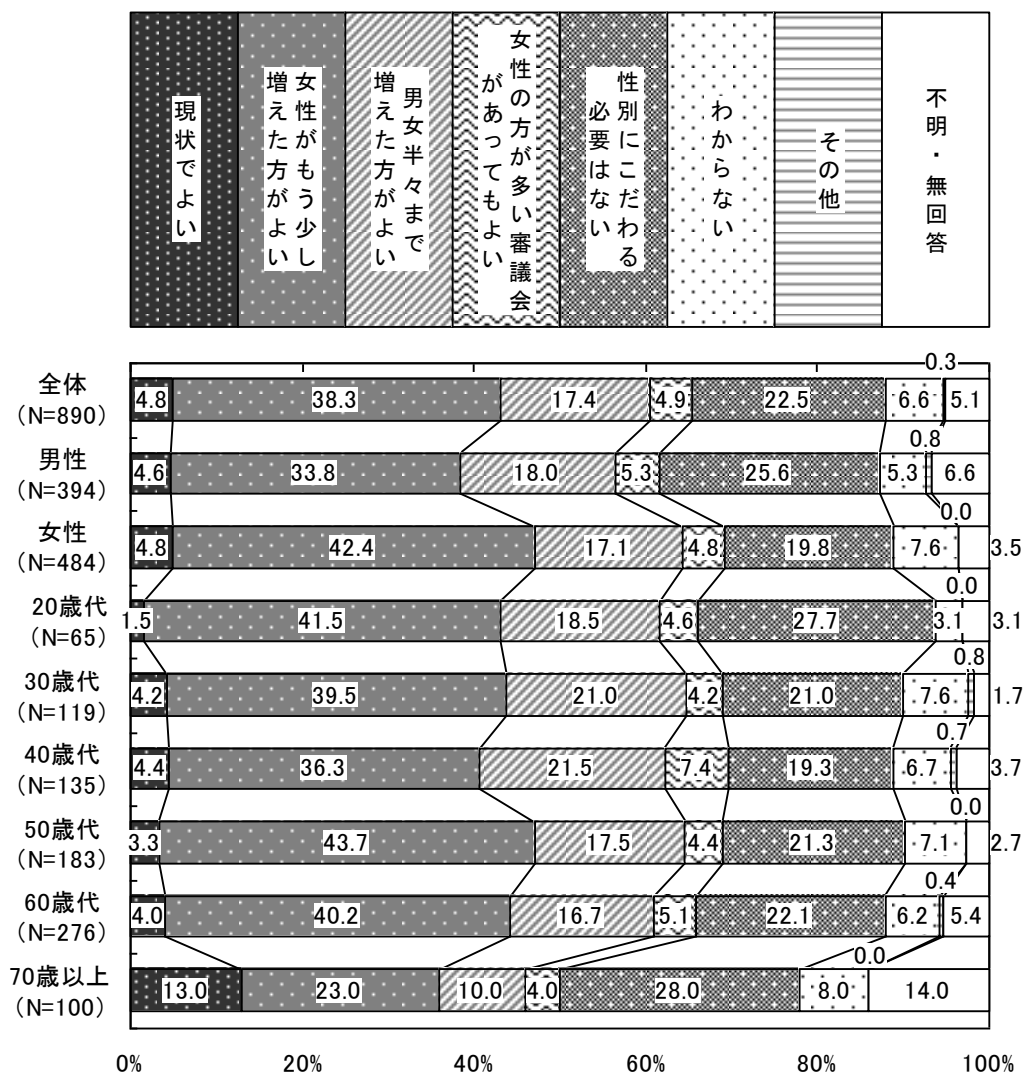
〔経年比較〕



問 22 現在、市で設置している審議会（市長が意見を聞くための機関）の委員のうち、女性の占める割合は 15.7%です（平成 23 年 4 月 1 日現在）。あなたはこの数値をみてどのように思いますか。（〇は 1 つ）

「女性がもう少し増えた方がよい」が 4 割程度となっている。

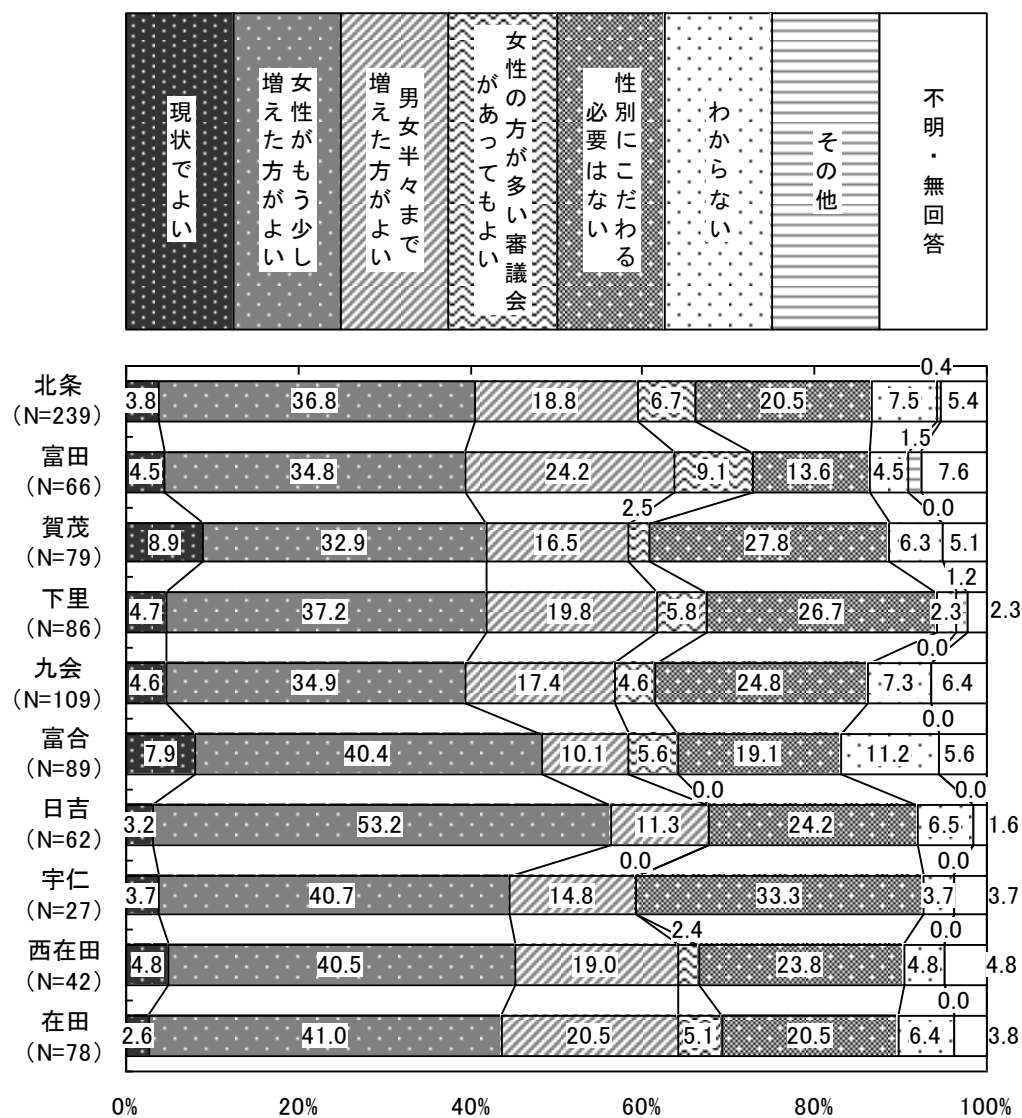
- 全体でみると、「女性がもう少し増えた方がよい」が 38.3%と最も高く、以下「性別にこだわる必要はない」（22.5%）、「男女半々まで増えた方がよい」（17.4%）となっています。
- 性別でみると、女性は「女性がもう少し増えた方がよい」が 42.4%と、男性（33.8%）より高くなっています。男性は「性別にこだわる必要はない」が 25.6%と、女性（19.8%）より高くなっています。
- 年齢別でみると、70 歳以上は「現状でよい」（13.0%）が他の年代よりやや高くなっています。



日吉地区は「女性がもう少し増えた方がよい」が5割を超えて高くなっている。

- 地区別でみると、「女性がもう少し増えた方がよい」は日吉地区が 53.2%と最も高くなっています。次いで在田地区、宇仁地区、西在田地区、富合地区が4割を超えて高くなっています。

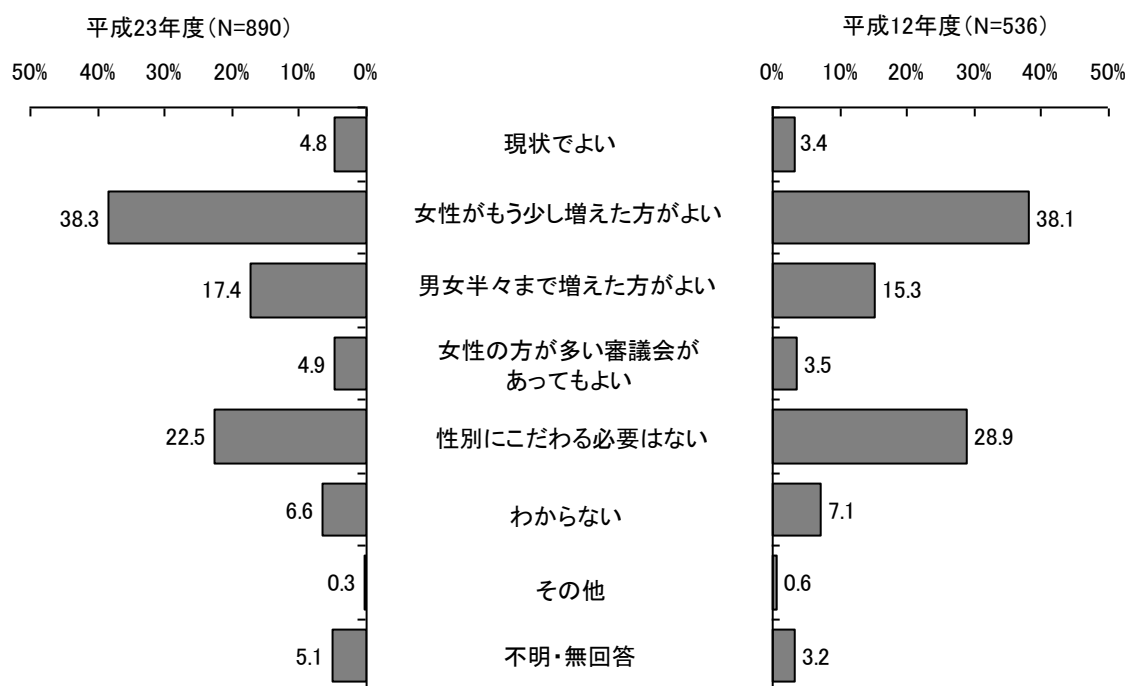
〔地区別〕



女性の審議会への参加に対する考え方に大きな変化はみられない。

- 平成 12 年度と平成 23 年度を比較すると、女性の審議会への参加を支持する回答に大きな変化はみられません。「性別にこだわる必要はない」については 28.9%から 22.5%と減少傾向となっています。

〔経年比較〕



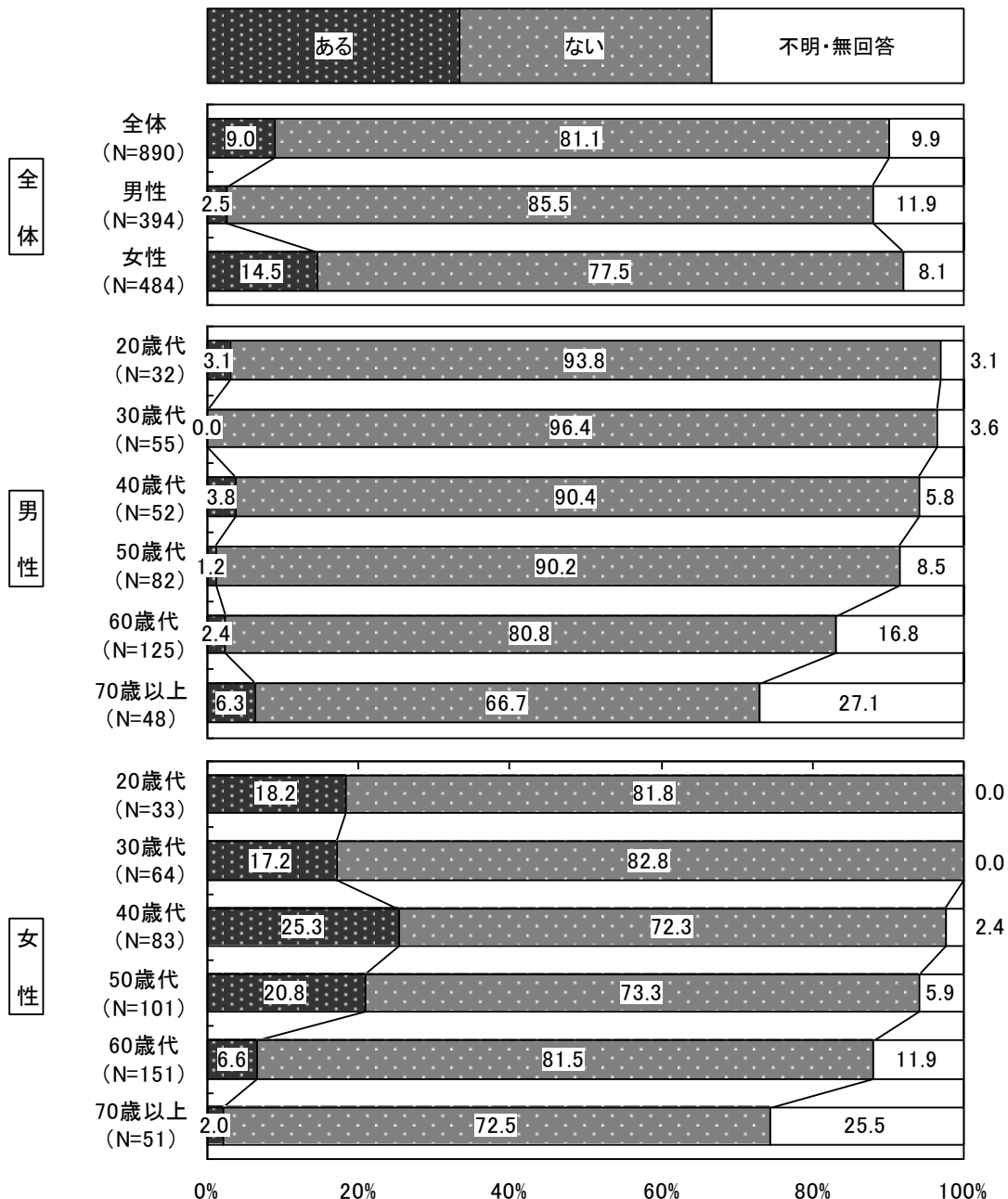
5. セクハラについて

問 23 あなた自身や周りの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。(〇はそれぞれ1つ)

① 自分自身

「ある」は女性が14.5%、男性が2.5%となっている。

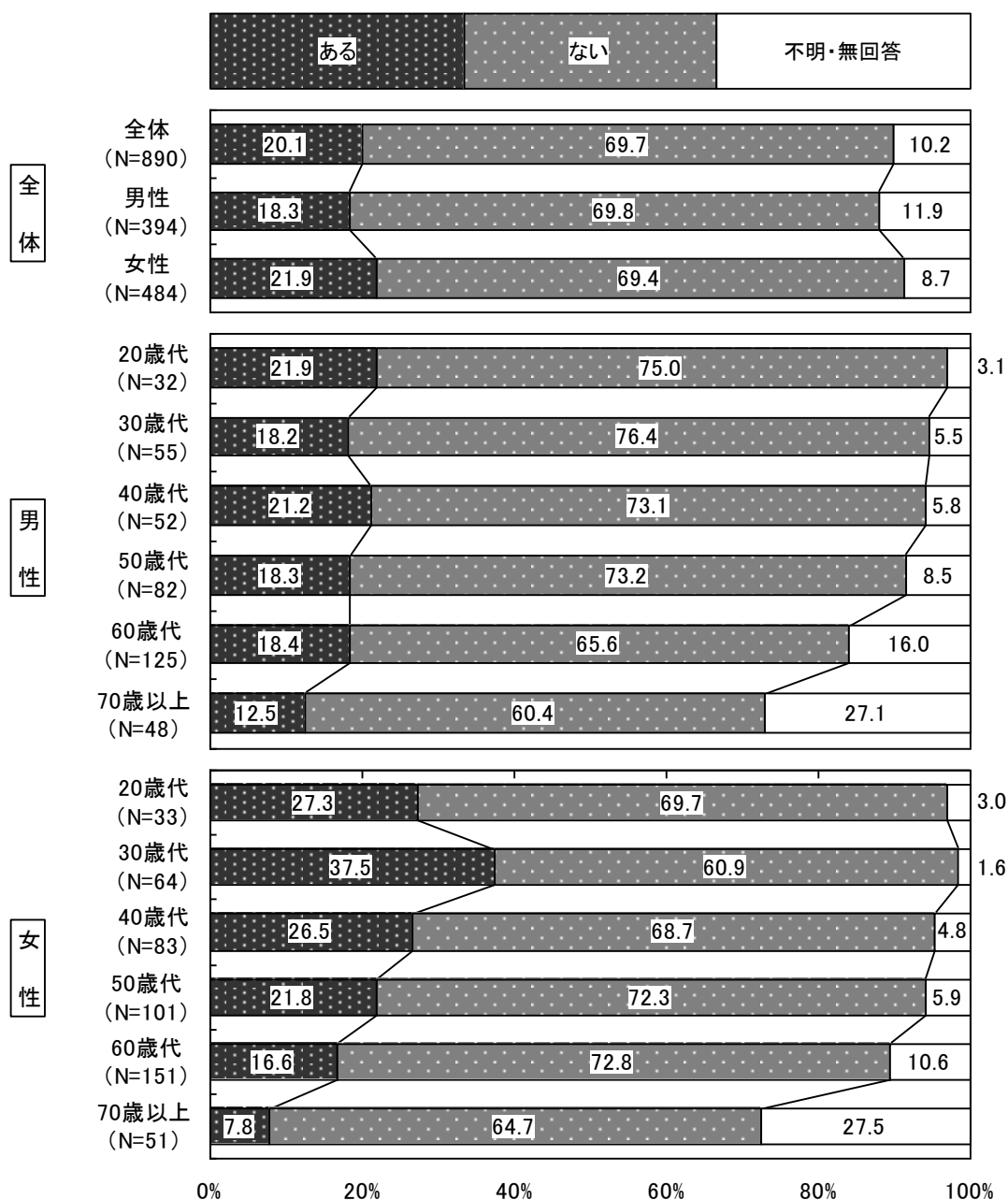
- 全体でみると、「ある」が9.0%、「ない」が81.1%となっています。
- 性別でみると、女性は「ある」が14.5%と、男性（2.5%）より12.0ポイント高くなっています。
- 性・年齢別でみると、40歳代女性が25.3%と最も高く、以下50歳代女性（20.8%）、20歳代女性（18.2%）、30歳代女性（17.2%）となっています。



② 友人や職場の仲間など、自分自身の周りの人

「ある」は30歳代女性が4割程度と高くなっている。

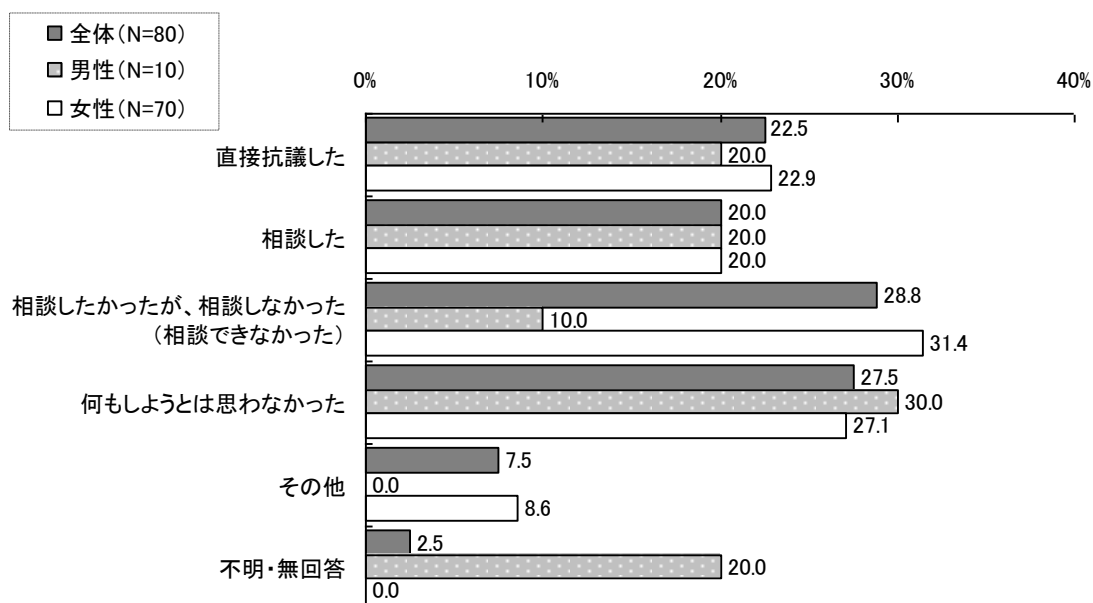
- 全体でみると、「ある」が20.1%、「ない」が69.7%となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 性・年齢別でみると、「ある」は30歳代女性が37.5%と最も高く、以下20歳代女性(27.3%)、40歳代女性(26.5%)、20歳代男性(21.9%)、50歳代女性(21.8%)、40歳代男性(21.2%)が2割を超えています。



問 24 ご自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれた方におうかがいします。
あなたはどのような対応をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

女性は「相談したかったが、相談しなかった（できなかった）」、
男性は「何もしようとは思わなかった」が高くなっている。

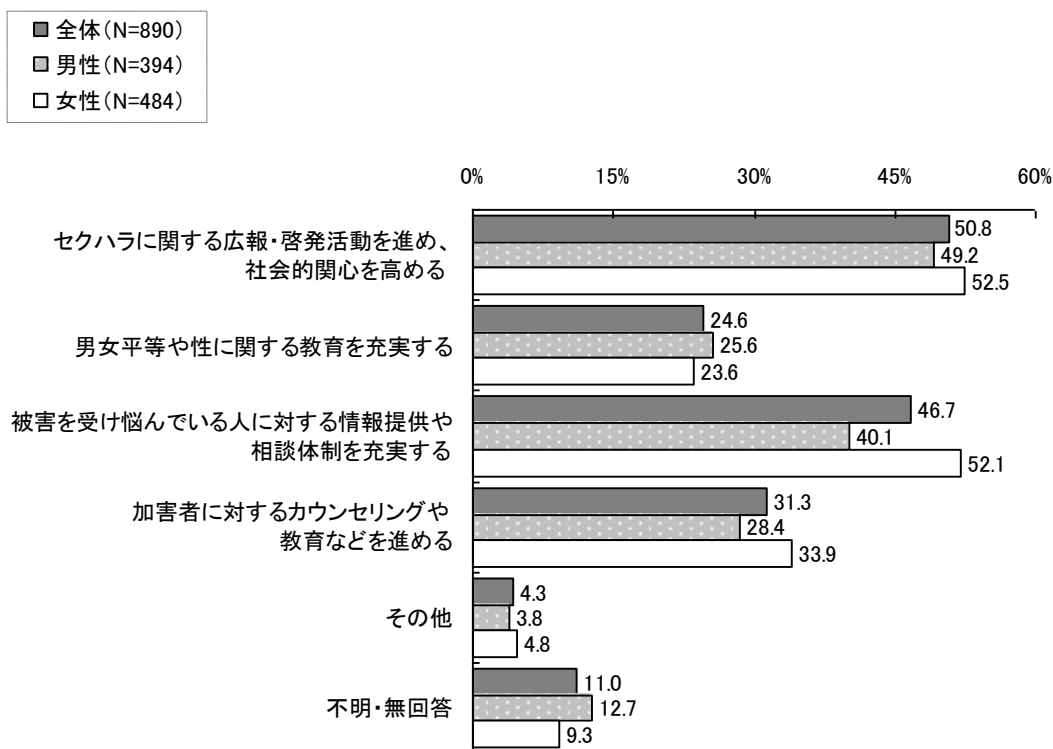
- 「相談したかったが、相談しなかった（相談できなかった）」が 28.8%と最も高く、以下「何もしようとは思わなかった」（27.5%）、「直接抗議した」（22.5%）、「相談した」（20.0%）となっています。
- 性別でみると、女性は「相談したかったが、相談しなかった（相談できなかった）」（31.4%）が最も高く、男性は「何もしようとは思わなかった」（30.0%）が最も高くなっています。



問 25 セクハラをなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

広報・啓発活動及び情報提供・相談体制の充実が高くなっている。

- 全体で見ると、「セクハラに関する広報・啓発活動を進め、社会的関心を高める」が 50.8%と最も高く、以下「被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」(46.7%)、「加害者に対するカウンセリングや教育などを進める」(31.3%)、「男女平等や性に関する教育を充実する」(24.6%)となっています。
- 性別では、男女ともに「セクハラに関する広報・啓発活動を進め、社会的関心を高める」が最も高くなっています。「被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」は男性が 40.1%であるのに対し、女性では 52.1%と 12.0 ポイント高くなっています。



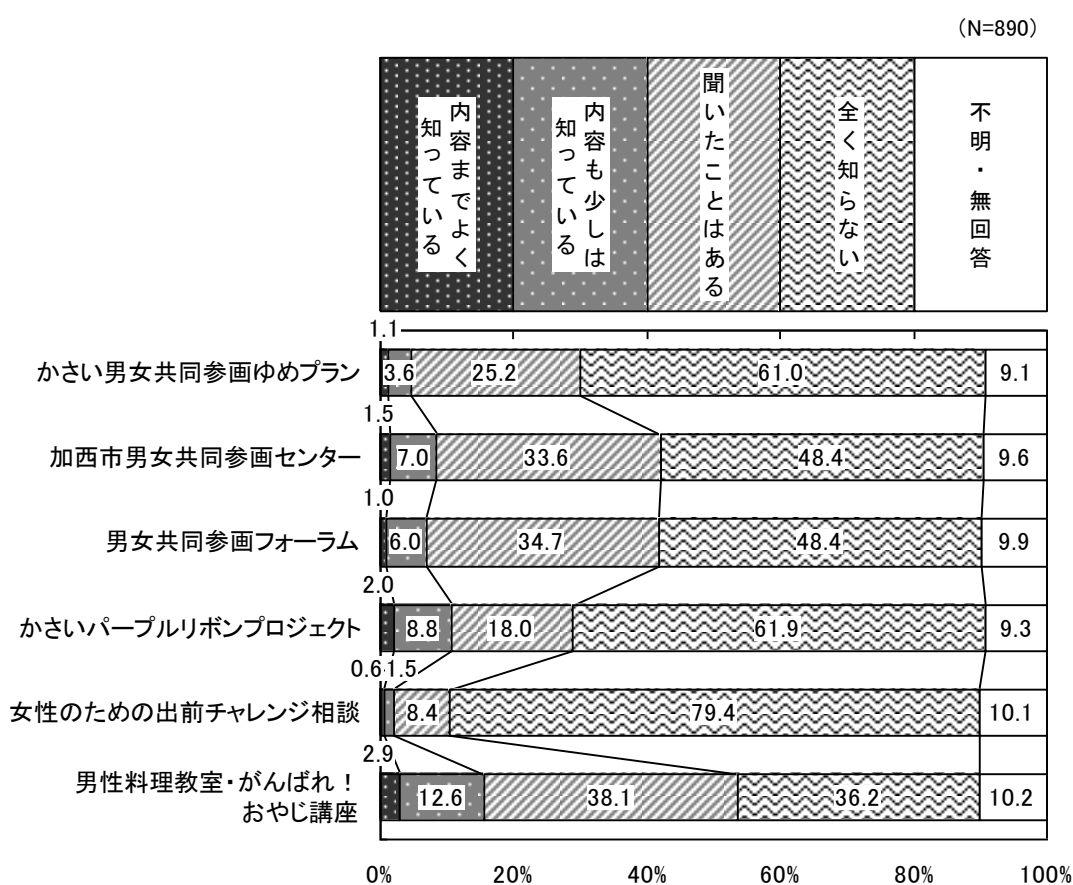
6. 男女共同参画に関する市の施策について

問 26 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。(〇はそれぞれ1つ)

◎ 加西市の施策

「女性のための出前チャレンジ相談」は「全く知らない」が8割程度となっている。

- 『知っている』は「男性料理教室・がんばれ！おやじ講座」が15.5%と最も高く、「聞いたことはある」(38.1%)を合わせた認知度は5割程度となっています。一方、「女性のための出前チャレンジ相談」及び「かさいパープルリボンプロジェクト」、「かさい男女共同参画ゆめプラン」は「全く知らない」が6割以上と認知度が低くなっています。

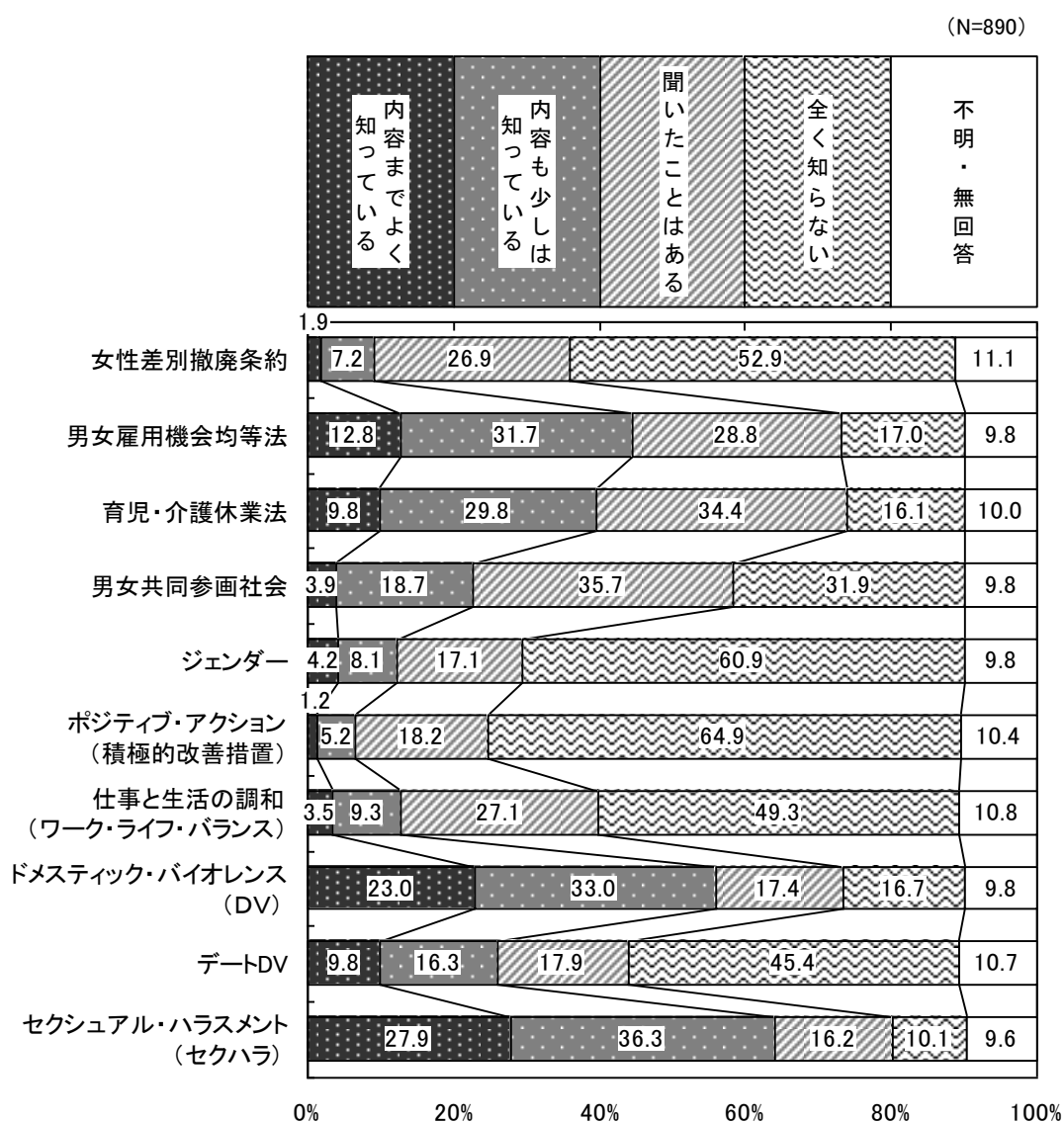


※『知っている』は、本来の選択肢の「内容までよく知っている」と「内容も少しは知っている」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

◎ 男女共同参画に関することから

「男女共同参画社会」の認知度は6割程度となっている。

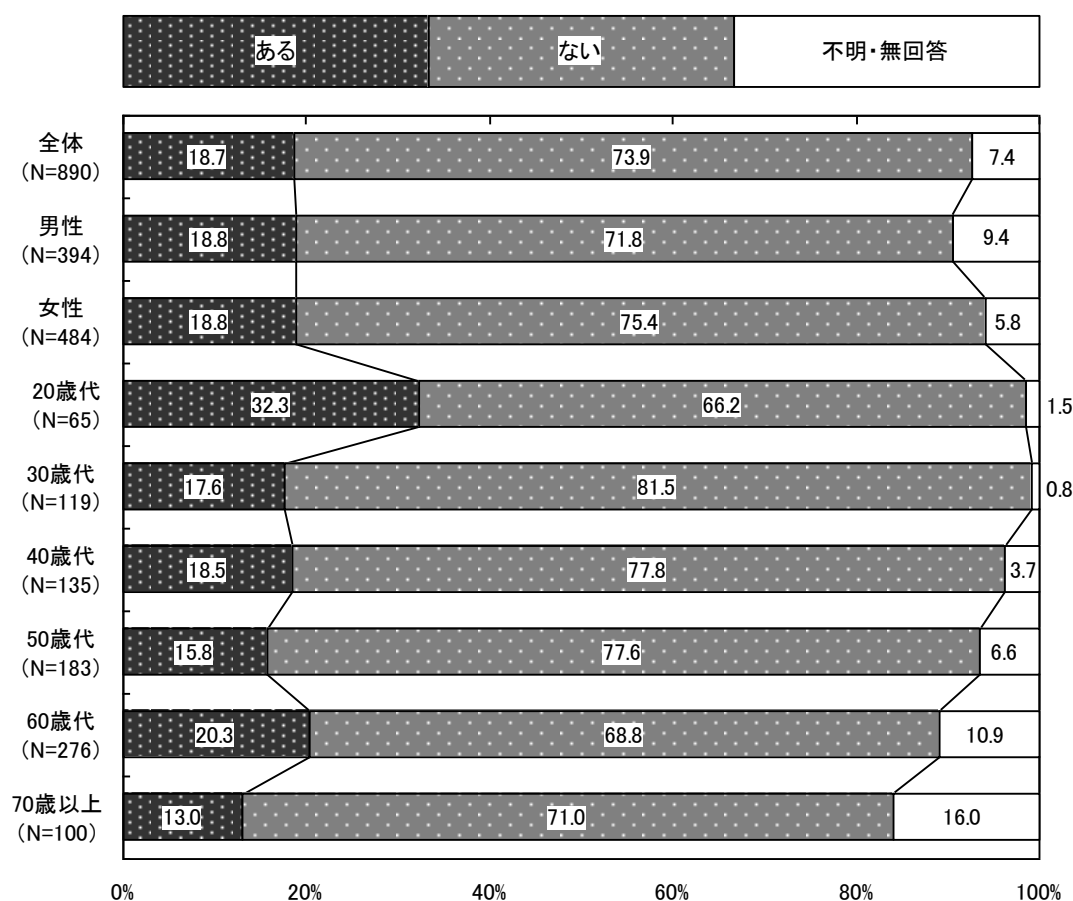
- 『知っている』は「セクシャル・ハラスメント（セクハラ）」が64.2%と最も高く、以下「ドメスティック・バイオレンス（DV）」（56.0%）、「男女雇用機会均等法」（44.5%）、「育児・介護休業法」（39.6%）、「デートDV」（26.1%）、「男女共同参画社会」（22.6%）となっています。一方、「全く知らない」は「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」、「ジェンダー」が64.9%、60.9%と高く、「女性差別撤廃条約」（52.9%）、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」（49.3%）、「デートDV」（45.4%）も5割程度となっています。また、「男女共同参画社会」も31.9%が「全く知らない」となっています。



問 27 あなたは、男女共同参画がどういうものなのかということを、学んだり、教えられたりしたことがありますか。(〇は1つ)

「ある」は20歳代が3割程度、その他の世代は2割程度となっている。

- 全体でみると、「ある」が18.7%、「ない」が73.9%となっています。
- 性別では、目立った差異はみうけられません。
- 年齢別でみると、「ある」は20歳代が32.3%と特に高くなっています。

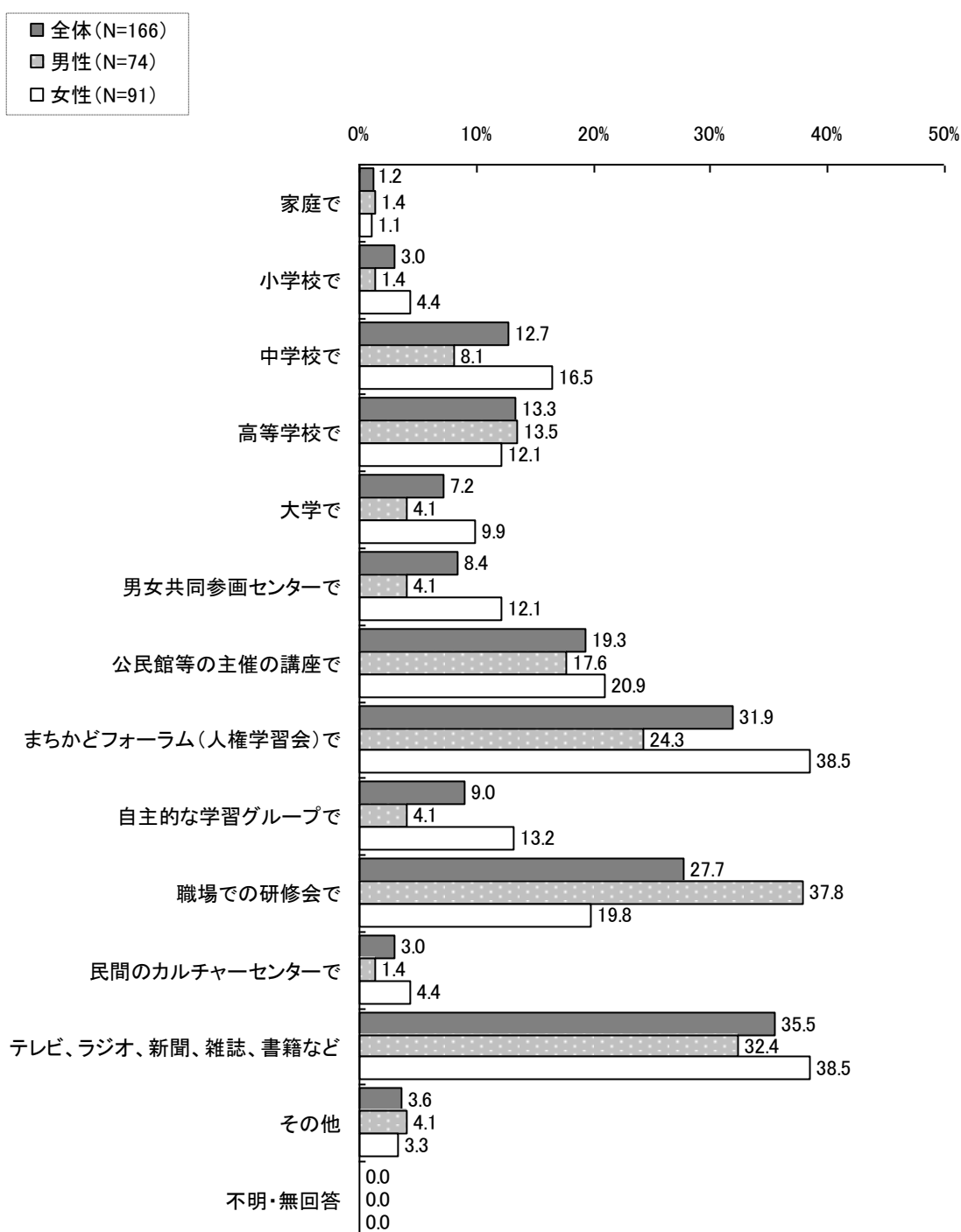


27-1 問27で「1. ある」と答えた方だけにおうかがいします。

それはどこで学んだり、教えられたりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

男性は職場で、女性は人権学習会やテレビ・ラジオ・出版物等が高くなっている。

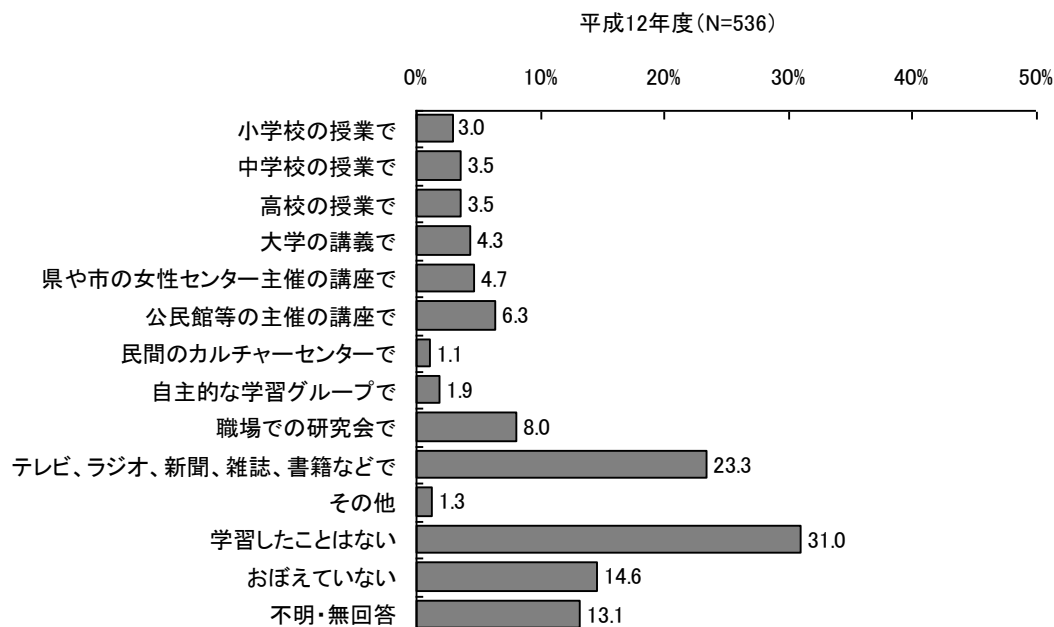
- 「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍など」が35.5%と最も高く、以下「まちかどフォーラム（人権学習会）で」（31.9%）、「職場での研修会で」（27.7%）、「公民館等の主催の講座で」（19.3%）となっています。「中学校で」「高等学校で」は1割程度にとどまっています。
- 性別でみると、男性は「職場での研修会で」（37.8%）が最も高く、女性は「まちかどフォーラム（人権学習会）で」及び「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍など」（ともに38.5%）が最も高くなっています。



平成12年度と比較すると、勉強会や研修会が増加傾向となっている。

- 平成12年度調査では、行政主催の勉強会や職場での研修会は1割以下となっています。

〔経年比較〕

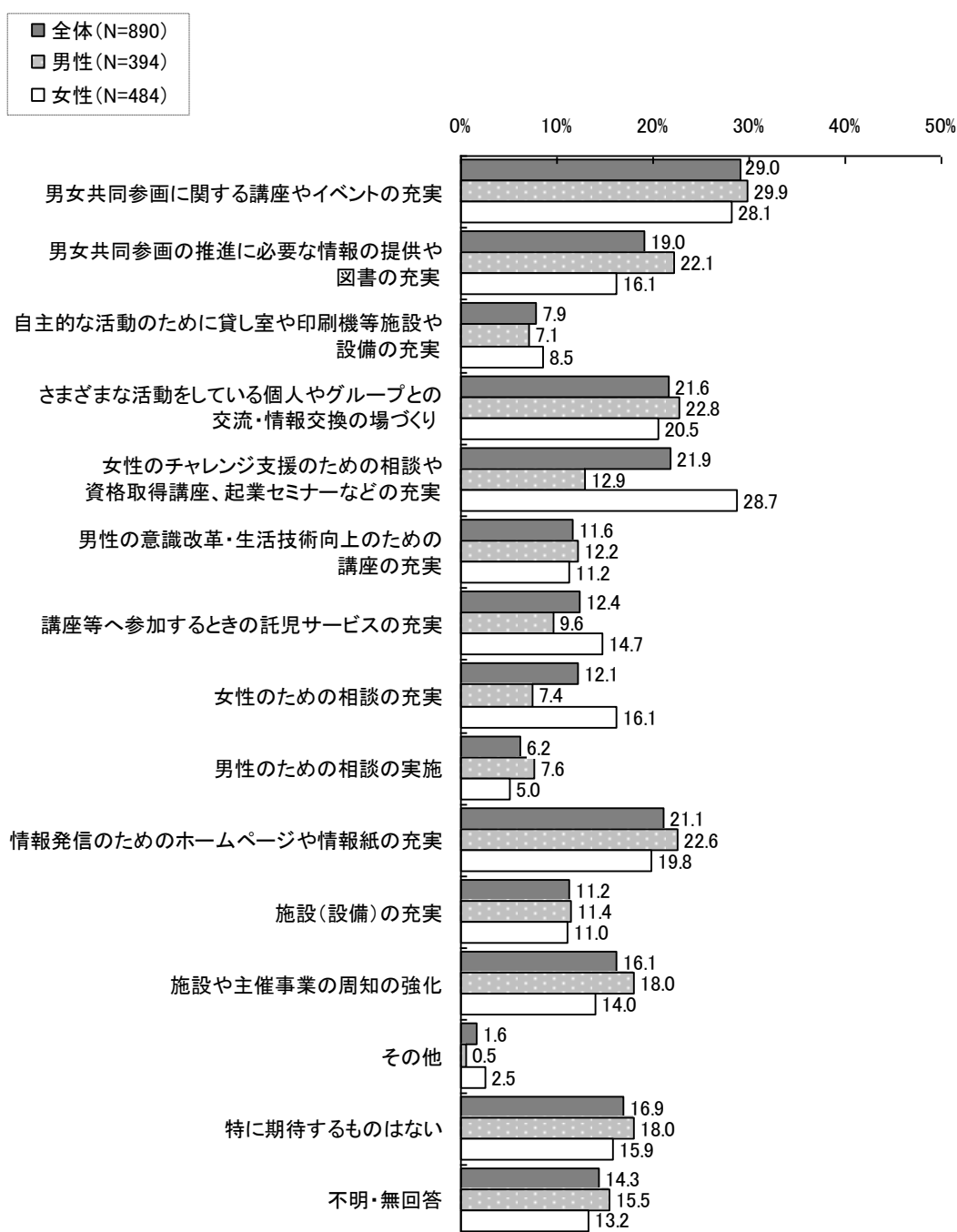


※平成23年度の選択肢と異なります

問 28 地域交流センター（アスティアかさい3階）内にある加西市男女共同参画センターでは、男女共同参画に関する講座やイベントを実施しています。あなたが、センターに今後期待するものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

講座やイベントの充実が3割程度となっており、
女性は、チャレンジ支援についても3割程度となっている。

- 「男女共同参画に関する講座やイベントの充実」が29.0%と最も高く、以下「女性のチャレンジ支援のための相談や資格取得講座、起業セミナーなどの充実」(21.9%)、「さまざまな活動をしている個人やグループとの交流・情報交換の場づくり」(21.6%)、「情報発信のためのホームページや情報紙の充実」(21.1%)となっています。
- 性別でみると、女性は「女性のチャレンジ支援のための相談や資格取得講座、起業セミナーなどの充実」が28.7%と最も高くなっています。



問 29 男女共同参画社会の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものを
お答えください。(あてはまるものすべてに○)

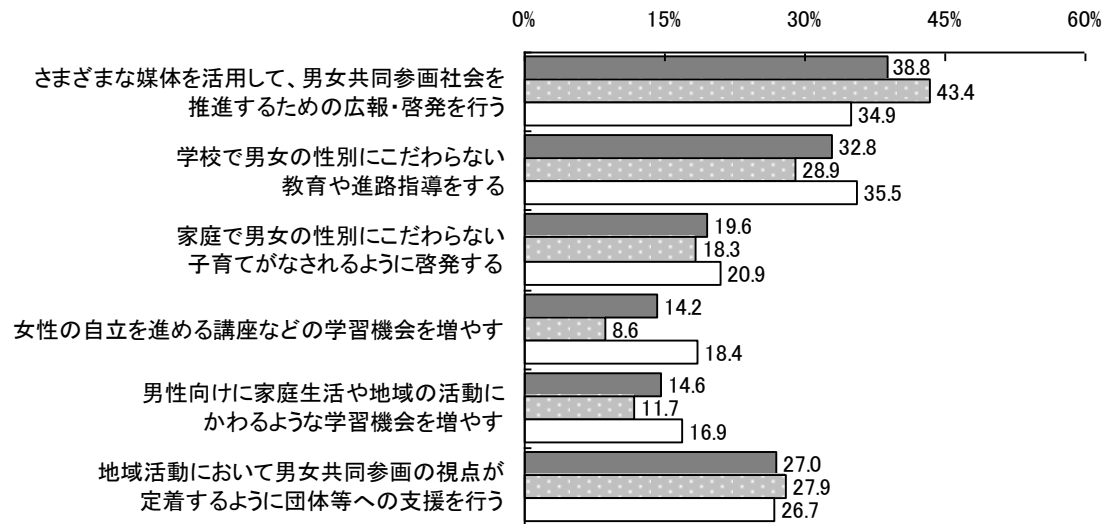
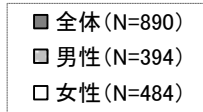
高齢者・障がい者の介護制度・施設の充実が6割程度で高くなっている。

- 全体でみると、「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」が 59.1%と最も高く、以下「採用・昇進・賃金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する」(50.3%)、「育児・保育に関する制度・施設を充実する」(44.0%)、「さまざまな媒体を活用して、男女共同参画社会を推進するための広報・啓発を行う」(38.8%)、「市の男女共同参画推進のための施策の進ちょく状況を市民に知らせる」(35.7%)、「男女共同参画社会の推進に向け、市が率先した取り組みを行う」(35.2%)、「女性の再就職のための学習・訓練・相談などの機会を増やす」(32.9%)、「学校で男女の性別にこだわらない教育や進路指導をする」(32.8%)となっています。
- 性別では、「女性の自立を進める講座など学習機会を増やす」が男性(8.6%)より女性(18.4%)の方が 9.8 ポイント高く、「さまざまな媒体を活用して、男女共同参画社会を推進するための広報・啓発を行う」では女性(34.9%)より男性(43.4%)の方が 8.5 ポイント高くなっています。その他の項目については若干の上下はあるものの、目立った差異はみうけられません。

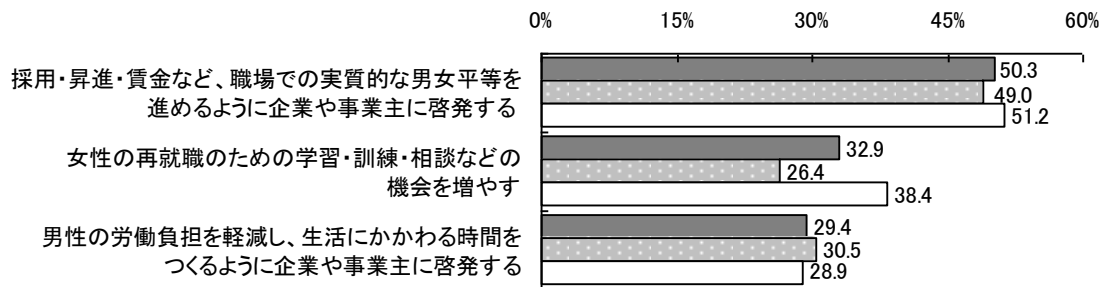
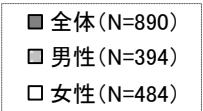
上段:件数 下段:%	啓発を行う さまざまな媒体を活用して、男女共	学校で男女の性別にこだわらない教 育や進路指導をする	家庭で男女の性別にこだわらない子 育てがなされるように啓発する	女性の自立を進める講座などの学習 機会を増やす	男性向けに家庭生活や地域の活動に かかわるような学習機会を増やす	地域活動において男女共同参画の援 点が行う	採用・昇進・賃金など、職場での実 質的な男女平等を進めるように企業 や事業主に啓発する	女性の再就職のための学習・訓練・ 相談などの機会を増やす	男性の労働負担を軽減し、生活にか かわる時間を増やすように、企業や事 業主に啓発する	女性の健康づくりや、体と心の各種 相談を充実する	高齢者・障がい者の介護制度・施設 を充実する	育児・保育に関する制度・施設を充 実する
全体 (N=890)	345 38.8	292 32.8	174 19.6	126 14.2	130 14.6	240 27.0	448 50.3	293 32.9	262 29.4	190 21.3	526 59.1	392 44.0
性別												
男性 (N=394)	171 43.4	114 28.9	72 18.3	34 8.6	46 11.7	110 27.9	193 49.0	104 26.4	120 30.5	67 17.0	229 58.1	173 43.9
女性 (N=484)	169 34.9	172 35.5	101 20.9	89 18.4	82 16.9	129 26.7	248 51.2	186 38.4	140 28.9	122 25.2	289 59.7	212 43.8

上段:件数 下段:%	配偶者等からの暴力を受けている被 害者の支援を充実する	さまざまな防犯対策の啓発に充実する 相談体制と防犯対策の充実	児童虐待や高齢者虐待に対する相 対的な対応の充実	公共施設のバリアフリー化、ユニ バーサルデザインの推進	市の男女共同参画推進のための施策 の進ちょく状況を市民に知らせる	市の政策・方針決定の場への女性の 参画を推進する	男女共同参画社会の推進に向け、市 が率先した取り組みを行う	男女共同参画社会推進のための拠 点施設の充実を図る	その他	特にな い	不明・無 回答
全体 (N=890)	124 13.9	163 18.3	208 23.4	166 18.7	318 35.7	202 22.7	313 35.2	121 13.6	8 0.9	260 29.2	70 7.9
性別											
男性 (N=394)	48 12.2	65 16.5	79 20.1	69 17.5	140 35.5	93 23.6	139 35.3	55 14.0	4 1.0	122 31.0	35 8.9
女性 (N=484)	74 15.3	95 19.6	125 25.8	96 19.8	173 35.7	107 22.1	170 35.1	63 13.0	4 0.8	136 28.1	35 7.2

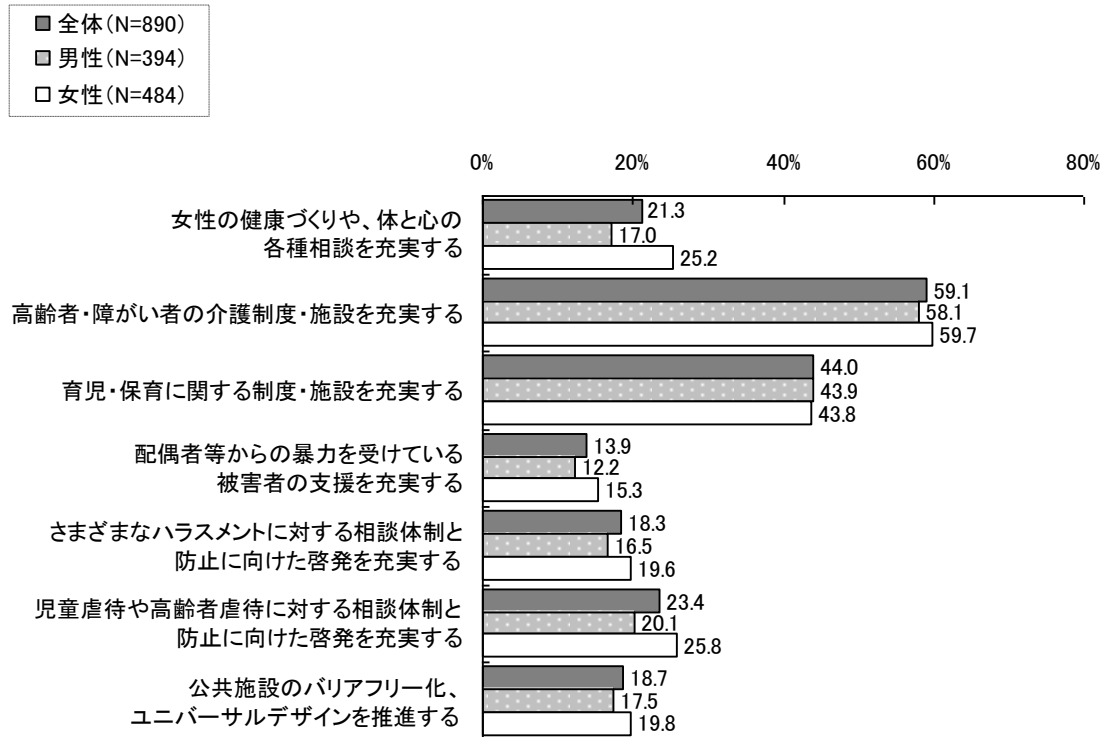
〔意識づくり、家庭や地域への参画〕



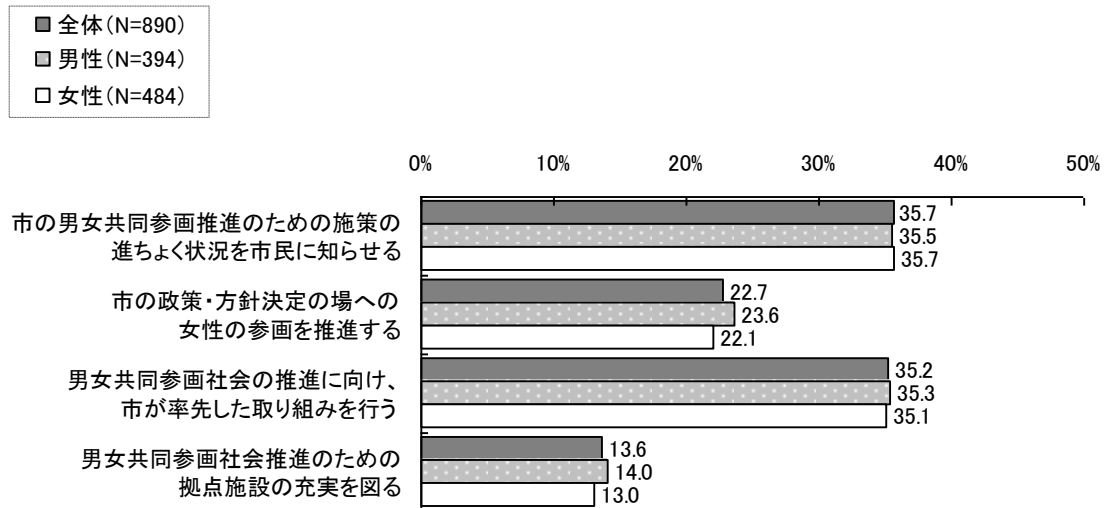
〔就 労〕



〔心身の健康・福祉〕



〔推進体制〕



7. 自由記載

問 30 男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

区分		記入数	比率
男女共同参画	男女共同参画の意識	25	23.8%
	男女の役割	13	12.4%
	地域	5	4.8%
	労働・職場	4	3.8%
	行政や施策に対する意見・期待	20	19.0%
	情報提供と周知	14	13.3%
	その他	10	9.5%
男女共同参画に関する市民意識調査に対する意見		9	8.6%
その他		5	4.8%
計		105	100.0%

<代表的な意見>

1 男女共同参画の意識

- 教育の場においては“男女平等”な生活が送れることが出来ていたと思うが、社会に出るとそこは“男女不平等”な世界でした。特に 40 代以上の人は男尊女卑的な考え方が強いのだと思う。その世代の人達に向けた啓発活動をしてほしい。(女性・20 歳代)
- 男女共同参画という言葉だけでは何の事かわからない。「男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会」を目指す男女共同参画と言って欲しい。このアンケートで少し勉強になった。(男性・50 歳代)

2 男女の役割

- 男女平等であるべきと思うが、それぞれの担うべき役割があるのではないと思う。(女性・40 歳代)
- 男性でなければ出来ないこと、女性でなければ出来ないことが共にあると思う。また、男性の方が良いこと、女性の方が良いことが共にある。これらお互いに思いやり、共に進むことが必要である。(男性・60 歳代)

3 地域

- 市外の若い人達が住みたいと思う町づくり。昔の古い因習や協議費を見直す。(女性・40 歳代)
- 市外から嫁いできましたが、昔からの田舎の風潮が残っているのを感じます。時代の流れとともに、夫婦で共働きをしないと経済的に家庭生活が成り立たない状況が増えているので、いろいろな機会を通じて風潮を少しずつ変えていく必要があると思う。(女性・40 歳代)

4 労働・職場

- 男性の労働時間の軽減を行う事で、男性が家庭内に入る時間が増えると思う。企業に対して労働時間に対しての対策の呼び掛けを願いたいです。(男性・40 歳代)

5 行政や施策に対する意見・期待

- 加西市も少子高齢化に向け男女の特性を活かした議論が活発にされ、より住みよいふるさとづくりができるよう、本音で語り合える場作りを行政の方で推進して頂きたいと願います。（女性・50 歳代）
- 市役所の職員・市議会議員の方々の男女共同参画についての意識をまず高め、そこで男女が平等に発言・行動できて初めて市民の意識が変わってくるのではないのでしょうか。（女性・50 歳代）

6 情報提供と周知

- 男女共同参画について全く知らなかった。広報等でも目にとまることもなかった。もっとわかりやすく記事にして頂けたらと思う。これからは関心を持っていこうと思う。（女性・20 歳代）
- アンケート調査のみにとどまらず、推進実施の上、市の広報紙上で広報されたい。（男性・70 歳以上）

V 調査結果からみた現状と課題

今回の調査によって、加西市民の男女平等についての意識傾向が明らかになりました。ここで、調査結果からみた本市の現状と課題をまとめました。

1. 一人ひとりを尊重する男女共同参画の意識づくりの推進

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、『賛成』とする割合は 41.8%となっており、性別でみると、『賛成』について特に男性で高く、48.5%と約半数を占めています。経年的にみると、『賛成』は平成 12 年度調査の結果より 2.2 ポイント減少し、『反対』は 4.3 ポイント増加しており、内閣府調査と同様の傾向となっています。

また、各分野における男女の地位に対する意識をみると、「学校教育の場」以外のすべての項目で『男性の方が優遇されている』が依然として高くなっています。内閣府調査と比較すると、「平等である」の割合は全体的に低くなっています。しかしながら経年的にみると、いずれの分野も「平等である」とする割合が高くなる傾向となっており、「家庭生活」においては平成 12 年度調査で 17.9%であるのに対し、平成 23 年度調査では 28.7%と 10.8 ポイント高くなっています。

このように固定的な性別役割分担意識が少しずつ変化していきっている中で、家事等の役割分担をみると、「生活費の確保」については理想・現実ともに「主に夫」が半数近くを占めています。一方、「炊事・掃除・洗濯などの家事」について、理想は「夫婦共同」「主に妻」が同数程度で高くなっているものの、現実には「主に妻」が 78.8%となっています。その他の「近所との付き合い」「子育て」「高齢者の介護」については「夫婦共同」が理想とされているものの、役割が夫または妻に偏りがちになる傾向であることがうかがえます。

今後、固定的な性別役割分担意識などに基づいた、画一的な生き方にとらわれることなく、あらゆる場面において一人ひとりの望む生き方が尊重されるよう、男女共同参画の意識づくりを進めていくことが重要となります。

2. 男女共同参画に関する学習機会の提供

男女共同参画がどういうものなのかについて学んだり、教えられたりしたことについて「ある」は 18.7%にとどまっていますが、年代別にみると、20 歳代は 32.3%と他の年代に比べて高くなっています。学んだ場所については、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍など」や「まちかどフォーラム（人権学習会）」で 3 割を超えて高くなっており、男性については「職場での研修会」が高く、20 歳代については「中学校で」「高等学校で」が高くなっています。平成 12 年度調査と比較すると、「公民館等の主催の講座で」「職場での研修会」などは高くなる傾向となっています。

男女共同参画について学ぶ場として講座や勉強会が比較的多くみられる中、加西市においては男女共同参画センターにおいて男女共同参画に関する講座やイベントを実施しています。このセンターの認知度をみると、『知っている』については 1 割に満たない状況であることから、センターそのものの周知に努めることが必要です。その上で、このセンターに期待することとして、「男女共同参画に関する講座やイベントの充実」をはじめ、「さまざまな活動をしている個人やグループ

との交流・情報交換の場づくり」「情報発信のためのホームページや情報紙の充実」があげられていることから、このような場所や機会を整備・活用して、幅広く市民に学習機会を提供し、男女共同参画を浸透させていくことが重要となります。

また、男女共同参画センター等の学習機会の提供とあわせて、次代を担う子どもに対して、それぞれの個性と能力を十分に伸ばしていくための教育の推進が重要となります。子育てに対する考え方で『女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい』については6割以上となっており、「女の子も男の子も、こだわりなく育てた方がよい」については3割程度となっています。こうした考え方も踏まえながら、男女共同参画の視点に基づいた教育を推進していくことが必要です。

3. 地域・社会活動における男女共同参画の推進

.....

地域の活動について「自治会や町内会の活動」は「参加したことがある・現在参加している」が65.2%と高くなっていますが、「自主防災活動や災害援助活動」は30.2%、「子育て支援に関する活動」は19.7%、「自然・環境保護に関する活動」は20.2%にとどまっています。現在は参加していないものの、今後参加してみたいを含めると、いずれも6割程度と関心はあることがうかがえます。また、これらの活動が男女共同参画につながっているかについてみると、いずれの活動も『男女共同参画の推進につながっている』とする回答は2割程度にとどまっています。

これらの活動に参加していない理由についてみると、「時間の余裕がないから」が37.7%、「人間関係がわずらわしいから」が27.8%、「自分に興味のある活動がないから」が26.7%、「活動の情報が不足しているから」が17.9%と続いています。

これらの活動は生活の身近な部分であり、男女共同参画社会の実現に向けて関わりのある部分となっており、地域力を高めていくためにも重要な部分であることから、こうした活動への男女共同参画の視点を持つことの重要性を考えるとともに、参加を促進していくことが必要です。

地域・社会活動を行う上で、「自治会や子ども会等の地域活動の役員にもっと女性が増えた方がよいと思う」「防災分野の審議会等に女性の委員が増えた方がよいと思う」は『そう思う』が6割程度となっており、「民生委員・児童委員に女性が増えた方がよいと思う」については『そう思う』が7割以上と女性の参加・参画を望む回答が高くなっています。これらを踏まえ、今後さまざまな分野への女性の参加・参画を促進していくことが必要です。

また、災害への対応について関心が高くなっている中、災害が発生した場合、特に必要であると思うものについて、性別により大きな差異はみられないものの、「水や食料の確保」に次いで男性は「災害の状況や被害の状況などに関する情報提供」、女性は「安心して過ごせる避難所の整備」との回答がみられます。自主防災組織の活動への参加状況をみると、『参加したことがある』は55.1%と半数以上となっています。性別でみると、男性の参加が高く65.2%と女性の47.1%より18.1ポイント上回っている状況です。防災分野へ女性の視点を取り入れていくためにも女性の参加を促進していくことが求められます。

4. 一人ひとりが望む働き方を実現するための支援の充実

一般的に女性が職業をもつことについて、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 45.4%で最も高くなっているものの、「ずっと仕事を続ける方がよい」も 35.7%となっており、「男は仕事、女は家事・育児」について『反対』とする人ほど仕事を続ける方がよいと考えていることがうかがえます。

子育て、介護、家事などのために一旦仕事をやめ、再就職などを希望する場合、行政に求めることとして「保育所や学童保育などの整備」が 53.6%で最も高くなっているほか、「再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度」「再就職のための講座やセミナーの開催」「再チャレンジのための相談」などがあげられます。また、企業に求めることとしては「再雇用制度の整備」「短時間勤務制度やフレックスタイム制度の導入」などがあげられます。

子育てや介護等で一旦仕事から離れた場合においても、再び就労することを望む方が安心して働くことができるよう、再就職のための支援や企業への再雇用制度の整備等に関する働きかけを進めていくことが必要です。また、ずっと仕事を続けたいと考える人が働き続けられるような環境づくりについても取り組んでいくことが必要です。

就労している方の仕事を選んだ主な理由として「自分の能力や性格に向いている」が 37.6%で高く、平成 12 年度調査よりもその割合は高くなっています。一方「家事・育児にさしつかえない範囲で働ける」は平成 12 年度調査よりも下回り、7.7%にとどまっています。11 年前と比較すると、自分の能力などを生かし、自分に合った働き方を求める傾向にあることがうかがえることから、一人ひとりの望む働き方が実現できる環境づくりを推進していくことが必要です。

5. ワーク・ライフ・バランスの推進

就学前の子どもがいる方の育児に関わる時間をみると、女性は「3 時間以上」が 60.8%となっているのに対して、男性は「3 時間以上」が 12.8%にとどまり、「1 時間以上 2 時間未満」が 31.9%で高く、男性の方が育児に関わる時間が少ないことがうかがえます。また、育児休業・介護休業の取得状況をみても、「夫も妻も取る方がよい」と考える方が多くなっているものの、実際に取得しているのは女性が多い状況です。男性が育児や介護、地域活動などに関わっていくために有効なこととして「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」や「男性も育児や介護、地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」などが高くなっていることから職場への働きかけを進めるとともに、家庭や地域においても男女共同参画の浸透を図ることが求められます。

生活の中における「仕事」と「家庭生活（家事や育児、介護など）」や「地域・個人の生活」の優先度についてみると、現状では女性は「家庭生活（家事や育児、介護など）」、男性は「仕事」を優先している状況がうかがえますが、理想をみると男女ともに「仕事」と「家庭生活」が 4 割程度で高く理想と現実で差があることがわかります。一人ひとりの状況に応じて望むバランスで仕事と家庭生活の調和が図れるよう、家庭や職場などにおける取り組みを進めていくことが必要です。

6. 政策方針決定過程への女性の参画の促進

女性の意見がどの程度市政に反映されているかについてみると、『反映されている』は4割程度となっており、平成12年度調査と比較すると11.7ポイント高くなっています。このように女性の意見が反映されていると感じる方が増加傾向にある中、現在市で設置している審議会委員に占める女性の割合（15.7%）については「女性がもう少し増えた方がよい」が38.3%で高くなっています。今後も多様な意見を市政に反映できるよう、女性の参画を促進することが求められます。

7. 男女共同参画に関する市の政策の推進

男女共同参画に関する言葉や名称等についての認知度をみると、市の施策に関しては『知っている』が1割程度にとどまっています。「女性のための出前チャレンジ相談」「かさいパープルリボンプロジェクト」「かさい男女共同参画ゆめプラン」については6割以上が「全く知らない」としています。また、男女共同参画に関することがらに関して、「男女共同参画社会」を『知っている』とする回答は2割程度にとどまっています。

今後、男女共同参画施策を推進していくにあたり、これまでの取り組みを振り返るとともに、継続して実施していくものに関しては実施方法等について検討することが大切です。その上で今後市が特に力を入れるべきだと思うことについて高くなっている「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」や「育児・保育に関する制度・施設を充実する」といった福祉分野の充実をはじめ、「採用・昇進・賃金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する」といった就労分野、「さまざまな媒体を活用して、男女共同参画社会を推進するための広報・啓発を行う」などの取り組みを推進していくことが求められます。

男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

加西市では平成 13 年度に「かさい男女共同参画ゆめプラン」を策定し、「男女平等で楽しく ゆめ色かしい」の実現をめざしてきました。現行の計画は平成 24 年 3 月末で終了となるため、来年度「かさい男女共同参画ゆめプラン」の改定を予定しています。

このたび、男女共同参画に関する市民の皆様への考えや意見をお聞かせいただき、今後の施策の参考にさせていただくため、「男女共同参画に関する市民意識調査」を行うことになりました。

この調査は、満 20 歳以上の市民の皆様の中から、2,000 人を無作為に選ばせていただき、調査票をお送りしています。

調査票は無記名で、お答えは、全て統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 24 年 1 月

加西市長 西 村 和 平

調査票のご記入にあたってのお願い

1. この調査票は、封筒の宛名の方ご本人がお答えください。
2. ご記入は、黒または青のボールペン、万年筆などをお願いいたします。
3. お答えはあてはまる番号を○で囲むか、具体的に記入ください。
4. 質問文の後に (○は 1 つ)。(あてはまるものすべてに○) というように○の数の指定がありますので、その範囲内でお答えください。
5. ご記入が終わりましたら、ご面倒ですが同封の返信用封筒をご利用になり、無記名で 1 月 27 日 (金) までに、ご返送ください。(切手は不要です)
6. この調査に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

＜お問い合わせ＞ 加西市 総務部 自治参画課
電話：0790-42-6706(直通) FAX: 0790-43-1800

資料 (調査票)

あなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別はどちらですか。(Oは1つ)	1. 男性	2. 女性
F 2 あなたの年齢はいくつですか。(Oは1つ)	1. 20 歳代	2. 30 歳代
	4. 50 歳代	5. 60 歳代
		3. 40 歳代
		6. 70 歳以上
F 3 あなたは、結婚 (事実婚を含む) していますか。(Oは1つ)	1. 既婚 (事実婚を含む)	2. 離別・死別
		3. 未婚・非婚
F 4 あなたのご家族 (同居) の構成は次のどれですか。(Oは1つ)	1. 一人暮らし (単身)	2. 1 世代世帯 (夫婦のみ)
	3. 2 世代世帯 (親と既婚の子)	4. 2 世代世帯 (親と未婚の子)
	5. 3 世代世帯 (親と子と孫、親と子と祖父母など)	6. その他 ()
F 5 中学生以下の子どもと同居していますか。その場合、一番年齢の小さな子どもは次のどれですか。(Oは1つ)	1. いる (乳幼児)	2. いる (小学生)
	3. いる (中学生)	4. いない
F 6 あなたを含めて、同居家族に 65 歳以上の方がいますか。(Oは1つ)	1. いる	2. いない
F 7 あなたは、加西市に住んで何年になりますか。(Oは1つ)	1. 5 年未満	2. 5 年以上 10 年未満
	3. 10 年以上 20 年未満	4. 20 年以上
F 8 あなたのお住まいの地区はどこですか。(Oは1つ)	1. 北条	2. 南田
	3. 興茂	4. 下里
	5. 九谷	6. 高合
	7. 日吉	8. 宇仁
	9. 西在田	10. 在田
F 9 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(Oは1つ)	1. 勤め人 (常勤・フルタイム)	2. 専業主婦、農業などの自営業
	3. 勤め人 (パートタイム、アルバイト)	4. 派遣社員
	5. 内職などの家庭内請負業	6. 客員専従
	7. 学生	8. 無職 (6、7 以外)
	9. その他 (具体的に)	

男女平等・役割分担についておたずねします。

問1 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。(Oは1つ)

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない

問2 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。

「A、理想」はすべての方がお答えください。

「B、現状」は配偶者のいる方のお答えください。また、子育て、高齢者の介護に関する項目は、該当する方のみお答えください。(Oはそれぞれ1つ)

	A、理想				B、現状			
	主に男	主に妻	その他		主に男	主に妻	その他	
①生活費の確保	1	2	3	4	1	2	3	4
②炊事・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	1	2	3	4
③近所との付き合い	1	2	3	4	1	2	3	4
④子育て	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤高齢者の介護	1	2	3	4	1	2	3	4

問3 あなたは、次の各分野において男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。(Oはそれぞれ1つ)



	男性の方が優遇されている	互いの力が尊重されている	平等である	女性の方が優遇されている	女性の力が尊重されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④政治の場	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑥社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑦自治会やNPOなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体として	1	2	3	4	5	6

問4 現在子どもがいない方もいると仮定してお答えください。あなたはどのように子どもを育てたいと思いますか。(Oは1つ)

1. 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたい
2. ある程度は、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたい
3. 女の子も男の子も、こだわりのなく育てたい
4. その他(具体的に)
5. わからない

問5 「結婚は個人の自由なので、してもなくてもよい」という考え方についてどう思いますか。(Oは1つ)

1. 賛成する 2. どちらかといえば賛成する
3. どちらかといえば賛成しない 4. 賛成しない

地域・社会活動についておたずねします。

問6 あなたは地域のための活動(実践的活動)に参加したことがありますか。また、参加している活動は男女共同参画の推進につながっていると思いますか。(Oはそれぞれ1つ)

	参加状況								男女共同参画へのつながり	
	参加して1年以上ある・参加頻度が高い	参加して1年以上ある・参加頻度が低い	参加して半年以内	参加して1か月以内	参加して1週間以内	参加して1日以内	参加して1時間以内	参加して1分以内	男女共同参画の推進につながっている	男女共同参画の推進につながっていない
①自治会や町内会の活動	1	2	3	4	5	6	7	8	女性の参事が多いことなど、性別に関わらず参加している	女性の参事が少ないことなど、性別に関わらず参加している
②自主防災会や消防団などの活動	1	2	3	4	5	6	7	8	女性の参事が多いことなど、性別に関わらず参加している	女性の参事が少ないことなど、性別に関わらず参加している
③子育て支援に関する活動	1	2	3	4	5	6	7	8	性別に関わらず、地域全体で子育て支援活動に参加している	性別に関わらず、地域全体で子育て支援活動に参加している
④自然・環境保護に関する活動	1	2	3	4	5	6	7	8	環境分野への女性の参画がより一層進むよう活動などを通じて関心を高める	環境分野への女性の参画がより一層進むよう活動などを通じて関心を高める

問6-1 問6の参加状況で「3. 参加したことがなく、今後も参加したくない」「4. 参加したことがあるが、今後は参加したくない」とお答えの方にお答えください。あなたが参加したことがない・参加したくない理由に近いものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 時間の余裕がないから
2. 家族の理解や協力がいないから
3. 活動の情報が不足しているから
4. 自分に興味のある活動がないから
5. 家事・育児・介護で忙しいから
6. 健康状態があまりよくないから
7. 人間関係がうまくいかないから
8. 男女の意見が平等に扱われないから
9. どうすれば参加できるかわからないから
10. 特に理由はない
11. その他(具体的に)

問7 地域・社会活動を行う上であなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
① 自治会や子ども会などで男性がリーダーとなり、女性が後方を担当するといった役割がわがれていることはおかしい	1	2	3	4
② 自治会や子ども会等の地域活動の役員にもっと女性が加えたいと思う	1	2	3	4
③ 防災分野の協議会等に女性の委員が加えたいと思う	1	2	3	4
④ 民生委員・児童委員に女性が加えたいと思う	1	2	3	4

問8 あなたは自主防災組織などの活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

1. いつも参加している
2. 参加したことはある
3. 参加したことがない
4. 活動や自主防災組織があることを知らない

問9 災害が発生した場合、特に必要であると思うものは何ですか。(○は3つまで)

1. 災害の状況や被害の状況などに関する情報提供
2. 救援活動に関する情報提供
3. 安心して過ごせる避難所の整備
4. 風呂やトイレなどの整備
5. 水や食料の確保
6. 市町等の生活物資の支給
7. 被災者の特性に即じたサービスや支援の充実
8. 介護関係・医療関係の人員の配置
9. 相談窓口の設置
10. 経済的支援
11. その他(具体的に)

5

就労・働き方についておたずねします。

問10 あなたは、一般的に女性が仕事をもちょうとについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 女性は仕事をもちょうとではない
2. 結婚するまでは、仕事をもちょうと
3. 子どもができるまでは、仕事をもちょうと
4. ずっと仕事を続ける方がよい
5. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったなら再び仕事をもちょうと
6. その他(具体的に)
7. わからない

問11 現在働いている方にお答えください。あなたが現在の仕事を選んだ主な理由は何ですか。(○は1つ)

1. 自分の能力や性格に向いている
2. 通勤が便利
3. 労働条件に男女の格差がない
4. 労働時間を自由に決められる
5. 結婚退職や出産退職などの慣行がない
6. 企業内に保育施設がある
7. 育児休業や介護休業制度を取得しやすい
8. 家事・育児にさしつかえない範囲で働ける
9. 夫の扶養期間内で働ける
10. 家賃から
11. 仕方なく
12. その他(具体的に)

問12 現在働いていない方にお答えください。あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経済的に働く必要がない
2. 他にやりたいことがある
3. 家庭にいた方があつた
4. 家事負担が大きい
5. 子育て中
6. 病気
7. 希望の働き方を見つからない
8. 家族が働くことを望まない
9. 家庭の介護
10. 在学中
11. 高齢である
12. 働くことに向いていない
13. 働きたいが、荷をしたらよいかかわからない
14. その他(具体的に)
15. わからない

問13 子育て、介護、家事などのために一日仕事をやめた女性が再就職などを希望する場合、行政・企業のそれぞれにどのような支援や施策が必要になると思いますか。(○はそれぞれ2つまで)

1. 行政に求めること

1. 再就職のための講座やセミナーの開催
2. 再チャレンジのための相談
3. 再就職のための職業訓練にかかる費用の助成
4. 保育所や学童保育などの整備
5. ホームヘルパーや介護福祉施設の充実
6. 夫の退職や協力を得るための働きかけ
7. 親の理解と協力を得るための働きかけ
8. 特に支援や施策は必要ない
9. その他(具体的に)

2. 企業に求めること

1. 再雇用制度の整備
2. 育児・介護休業制度の利用促進
3. 臨時雇員制度やフレックスタイム制度の導入
4. 企業内における託児サービスの整備
5. 退職前の業務や役割への理解の促進
6. 相談やカウンセリングの充実
7. その他(具体的に)

6

問 14 生活の中で「仕事」と「家庭生活（家事や育児、介護など）」や「地域・個人の生活」の優先度について、あなたが最も優先したいものは何ですか。(Oは1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活（家事や育児、介護など）」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

問 15 生活の中で「仕事」と「家庭生活（家事や育児、介護など）」や「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現状に最も近いものをお答えください。(Oは1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活（家事や育児、介護など）」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

問 16 小学校入学前の子どもがいる方におうかがいします。
あなたが有罪に關わる時間は、週平均で1日どれくらいですか。(Oは1つ)

1. 30分未満
2. 30分以上1時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 2時間以上3時間未満
5. 3時間以上

問 17 現在、収入をともなう仕事をしている方におうかがいします。
現在就業も含めて週あたり何時間ぐらい仕事をしていますか。(Oは1つ)

1. 20時間未満
2. 20時間以上30時間未満
3. 30時間以上40時間未満
4. 40時間以上50時間未満
5. 50時間以上60時間未満
6. 60時間以上

問 18 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。
あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(Oはそれぞれ1つ)

	夫のみ 取る方 がよい	どちらか 夫が取る 方がよい	妻のみ 取る方 がよい	どちらか 夫が取る 妻が取る 方がよい	夫も妻も 取る方が よい	夫の親族 は夫が妻 と親族の 間では 妻が取る 方がよい	介護を要 けるもの と親族の 間では 妻が取る 方がよい	その他
①育児休業	1	2	3	4	5	6	7	8
②介護休業	1	2	3	4	5	6	7	8

問 19 小学校入学前の子どもがいる方（妊娠中も含む）、または介護の必要な親族がいる方（いた方）におうかがいします。
あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。
(Oはそれぞれ1つ)

	取得した/取 得する予定	制度はあるが 取得したこと はない	制度がなかった /制度がない	制度があるがどう かわからなかった /わからない	その他
①育児休業	1	2	3	4	5
②介護休業	1	2	3	4	5

問 19-1 問 19 で「2. 制度はあるが取得したことはない」とお答えの方におうかがいします。
取得しなかった理由について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。
(Oはそれぞれ1つ)

収入の少ない方が取るのがよいから	12	12
育児・介護は、妻が行う方が適しているから	11	11
育児・介護は、夫が行う方が適しているから	10	10
育児・介護は、妻も取るが妻に専断があるから	9	9
育児・介護は、妻も取るが妻に専断がないから	8	8
仕事に専断があるから	7	7
育児は、妻が、介護は妻と収入の少ない方が取るのがよいから	6	6
育児・介護は妻も取るが専断に専断がないから	5	5
育児・介護は、夫が行う方が適しているから	4	4
育児・介護は、妻が行う方が適しているから	3	3
夫の収入が少ないから取るから	2	2
経済的（妻・夫）が優れているから	1	1

①育児休業

②介護休業

問 20 男性は仕事で育児や介護、地域活動を行うことが難しい状況にあると言われていますが、
男性がそれらに關わるためには、何が有効だと思いますか。(あてはまるものすべてにO)

1. 男性も育児や介護、地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる
2. 男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する
3. 長時間労働を抑制する
4. 男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座を開催する
5. 男性同士が交流できる場・機会を提供する
6. 男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する
7. 男性のための相談体制の充実を図る
8. 女性が仕事をもち、経済力を高める
9. その他（具体的に）

市の施策などへの女性のかわりについておたすねします。

問 21 あなたは女性の意見がどの程度市政に反映されていると思いますか。(○は1つ)

1. 十分反映されている
2. ある程度反映されている
3. あまり反映されていない
4. まったく反映されていない

問 22 現在、市で設置している審議会（市長が意見を聞くための機関）の委員のうち、女性の占める割合は15.7%です（平成23年4月1日現在）。あなたはこの数値をみてどのように思いますか。(○は1つ)

1. 現状でよい
2. 女性ももう少し増えた方がよい
3. 概ね半々まで増えた方がよい
4. 女性の方が多い審議会があってもよい
5. 性別にこだわらなければならない
6. わからない
7. その他（具体的に）

セクハラについておたすねします。

◆セクシュアル・ハラスメントとは

職場、学校、地域活動等において、相手の意に反して身体的・性的な言動や行動により、仕事などをしていく上で、一定の不利益を及ぼしたり、苦痛を悪化させることをいいます。

（身に入った質問になりますが、調査へのご協力をお願いいたします。）
非この質問は悪意で実施しており、個人が特定されることにはなりません。

問 23 あなた自身や周りの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。(○はそれぞれ1つ)

	ある	ない
①自分自身	1	2
②友人や職場の仲間など、自分の周りの人	1	2

問 24 ご自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれた方におうかがいします。
あなたはどのような対応をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 直接抗議した
2. 相談した
3. 相談したかったが、相談しなかった（相談できなかった）
4. 何もしようとは思わなかった
5. その他（具体的に）

問 25 セクハラをなくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. セクハラに関する広報・啓発活動を進め、社会的関心を高める
2. 男女平等や性に関する教育を充実する
3. 被害を駆け込んでくれる人に対する情報提供や相談体制を充実する
4. 加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
5. その他（具体的に）

男女共同参画に関する市の施策についておたすねします。

問 26 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

	内容までよく知っている	内容も少しは知っている	聞いたことがある	全く知らない
加西市の施策				
①かさい男女共同参画心めプラン	1	2	3	4
②加西市男女共同参画センター	1	2	3	4
③男女共同参画フォーラム	1	2	3	4
④かさいバーブルリボンプロジェクト	1	2	3	4
⑤女性のための出前チャレンジ相談	1	2	3	4
⑥男性科専任教員・がんばれ！おやじ講座	1	2	3	4
⑦女性差別撤廃条約	1	2	3	4
⑧男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑨育児・介護休業法	1	2	3	4
⑩男女共同参画社会	1	2	3	4
⑪ジェンダー	1	2	3	4
⑫ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3	4
⑬仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	1	2	3	4
⑭ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3	4
⑮デートDV	1	2	3	4
⑯セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4

問 27 あなたは、男女共同参画がどういふものなのかということと、学んだり、教えられたりしたことがありますか。(Oは1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問 27-1 問 27 で「1. ある」と答えた方だけにおうかがいします。
それはどこで学んだり、教えられたりしましたか。(あてはまるものすべてにO)

1. 家庭で	2. 小学校で
3. 中学校で	4. 高等学校で
5. 大学で	6. 男女共同参画センターで
7. 公民館等の主催の講座で	8. まちかどフォーラム（人権学習会）で
9. 自主的な学習グループで	10. 職場での研修会で
11. 民間のカルチャーセンターで	12. テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍など
13. その他（具体的に	

問 28 地域交流センター（アスティアかさい3階）内にある加西市男女共同参画センターでは、男女共同参画に関する講座やイベントを実施しています。あなたが、センターに今後期待するものは何ですか。(あてはまるものすべてにO)

1. 男女共同参画に関する講座やイベントの充実	
2. 男女共同参画の推進に必要な情報の提供や啓発の充実	
3. 自主的な活動のために話し場や印刷物等施設や設備の充実	
4. さまざまな活動をしている個人やグループとの交流・情報交換の場づくり	
5. 女性のチャレンジ支援のための相談や資格取得講座、起業セミナーなどの充実	
6. 男性の意識改革・生活技術向上のための講座の充実	
7. 講座等へ参加するときの託児サービスの充実	
8. 女性のための相談の充実	
9. 男性のための相談の実施	
10. 情報発信のためのホームページや情報紙の充実	
11. 施設（設備）の充実	
12. 施設や主催事業の周知の強化	
13. その他（具体的に	
14. 特に期待するものはない	

問 29 男女共同参画社会の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものをお答えください。(あてはまるものすべてにO)

重要事項①、重要事項②への参画 - さまざまな媒体を活用して、男女共同参画社会を推進するための広報・啓発を行う - 学校で男女の性別にこだわらない教育や進路指導をする - 家庭で男女の性別にこだわらない子育てがなされるように啓発する - 女性の自立を進める講座などの学習機会を増やす - 男性向けに家庭生活や地域の活動にかかわるような学習機会を増やす - 地域活動において男女共同参画の視点が定着するように団体等への支援を行う 風俗 - 採用・昇進・賞金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する - 女性の再就職のための学習・訓練・相談などの機会を増やす - 男性の労働負担を軽減し、生活にかかわる時間をつくるように企業や事業主に啓発する 心身の健康・福祉 - 女性の健康づくりや、体と心の各種相談を充実する - 高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する - 育児・保育に関する制度・施設を充実する - 配偶者等からの暴力を受けている被害者の支援を充実する - さまざまなハラスメントに対する相談体制と防止に向けた啓発を充実する - 児童虐待や高齢者虐待に対する相談体制と防止に向けた啓発を充実する - 公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する 推進体制 - 市の男女共同参画推進のための施策の進捗よく状況を市民に知らせる - 市の政策・方針決定の場への女性の参画を推進する - 男女共同参画社会の推進に向け、市が率先した取り組みを行う - 男女共同参画社会推進のための推進施設の充実を図る その他 - その他（具体的に - 特にない

問 30 男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
記入もれがないか、もう一度確認の上、同封の返信用封筒に入れ、封をして、
切手を貼らずに1月27日（金）までにご返函ください。

加西市男女共同参画市民意識調査 結果報告書

平成 24 年 3 月発行

発行 加西市
編集 加西市 総務部 自治参画課

〒675-2395

兵庫県加西市北条町横尾 1000 番地

TEL : 0790-42-8706 / FAX : 0790-43-1800
